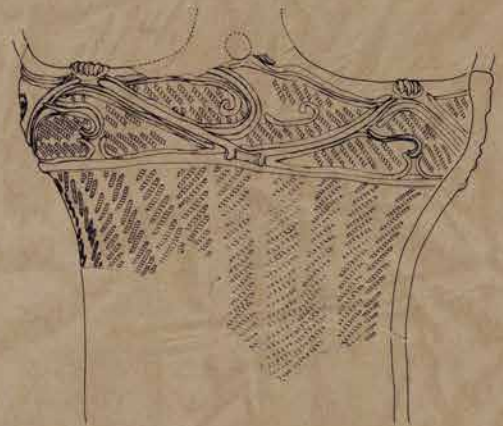


# 崎山遺跡群 VII

—平成4年度発掘調査概報—



1993.3

岩手県宮古市教育委員会



# 崎山遺跡群 VII

—平成4年度発掘調査概要—



崎山貝塚垂直写真

1993.3

岩手県宮古市教育委員会

The Miyako Board of Education

Miyako, Iwate, Japan

カラー1 崎山貝塚第14号竪穴住居跡

カラー2 崎山貝塚北貝塚調査区





カラー1



カラー2



カラー 3 崎山貝塚出土土器

カラー 4 崎山貝塚出土骨角器



カラー 3



カラー 4



## 序 文

宮古市では、国庫補助、県費補助を受けて、昭和61年度から平成2年度までの5ヶ年を第Ⅰ期として、また、平成3年度から平成5年度までの3ヶ年を第Ⅱ期として、崎山遺跡群の発掘調査を実施いたしております。

本書は、平成4年度の調査成果をとりまとめた概報であります。発掘調査の結果、崎山貝塚では西集落にて新たに縄文中期の竪穴住居跡を6棟検出いたしました。このうち、精査を実施した1棟につきましては、その主軸方向が中央広場の方向を向いており、集落跡が計画的に構成されている様子が伺えます。

また、北貝塚では集落跡に伴う時期の貝層や遺物包含層を検出しておりますが、当時の人々が食料とした動物遺存体や骨角器類のほかに、多量の土器や石器などが出土しております。

さらに、台地の東端部でも小規模ながら縄文前期の遺物包含層を検出しております。

崎山貝塚の範囲確認調査は、今年度、来年度とまとめの時期に差しかかって居りますが、今後は、これまでの調査成果を基にした保護策の検討を進めてまいりたいと存じます。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり様々な御指導をいただきました文化庁記念物課、岩手県教育委員会文化課、岩手県立博物館、岩手県埋蔵文化財センターをはじめとする関係機関と御理解、御協力下さった地権者各位ならびに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

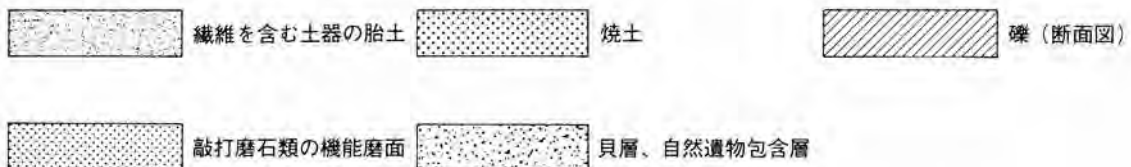
宮古市教育委員会

教育長 佐藤 勇 逸



# 例 言

1. 本書は平成4年度に国庫補助を受けて実施した崎山遺跡群早稲栃Ⅱ遺跡第3次調査・崎山貝塚第8次調査の概報である。
2. 発掘調査の主体は宮古市教育委員会（教育長 佐藤勇逸）で、発掘調査および本書の執筆、編集は高橋が担当し、鎌田・阿部が補佐した。
3. 調査座標は平面直角座標第X系を座標交換して使用したが、調査用の局地的な座標系であることを明示するためにRを冠して表示した。  
座標軸方向 第X系に準じる  
調査座標原点 X -35,800.000、Y +97,000.000
4. 高さは標高値をそのまま使用した。
5. 遺構・遺物の表現については下記のとおりとした。



6. 発掘調査および遺物の整理、本書の執筆に際しては次の方々から御教示、御指導をいただいた。記して謝意を申し上げます。（敬称略）

岡村 道雄（文化庁記念物課）	高橋與右衛門（岩手県埋蔵文化財センター）
井上 和人（文化庁記念物課）	佐藤 正彦（陸前高田市立博物館）
相原 康二（岩手県教育委員会文化課）	熊谷 賢（岩手考古学会員）
小田野哲憲（岩手県教育委員会文化課）	岸 昌一（宮古市史編さん室）
熊谷 常正（岩手県教育委員会文化課）	竹下 将男（宮古市史編さん室）
中村 英俊（岩手県教育委員会文化課）	齊藤 英樹（宮古市文化財保護審議委員）
高橋 信雄（岩手県立博物館）	中嶋 隆（宮古市在住）

7. 本文中の引用文献は次のとおりとした。（いずれも宮古市教育委員会刊行）

1979 「宮古市大付遺跡発掘調査報告書」	小田野哲憲 熊谷常正	→ 「大付報文79」
1983～86 「宮古市分布調査報告書1～4」	武田 将男	→ 「分布調査1～4」
1986 「宮古市遺跡分布図 昭和60年度版」	武田 将男	→ 「分布図86」
1987～1992 「崎山遺跡群Ⅰ～Ⅵ 昭和61年度～平成3年度発掘調査概報」		→ 「崎山遺跡群 Ⅰ～Ⅵ」
1987 「崎山貝塚・トロノ木Ⅳ遺跡調査報告書」	上野 猛	→ 「崎山報文87」
1989 「トロノ木Ⅰ遺跡第1次～第7次発掘調査報告書」		→ 「トロノ木Ⅰ報文89」

# 目 次

序 文	
例 言	
目 次	
I 調査経過	1
1 調査要旨	1
2 調査体制	3
II 調査内容	3
1 早稲枋Ⅱ遺跡第3次調査	3
(1) これまでの調査	3
(2) 基本層序	7
(3) 遺構の検出状況	7
(4) 検出された遺構・遺物	7
2 崎山貝塚第8次調査	10
(1) 第1次～第7次調査の概要	10
(2) 調査の目的と方法	14
(3) 台地頂部（西集落）	14
(a) 基本層序	14
(b) 遺構の検出状況	14
(c) 検出された遺構・遺物	14
(4) 北斜面部（北貝塚）	41
(a) 基本層序	41
(b) 検出された遺構・遺物	44
(5) 台地東端部（東包含層）	79
(a) 基本層序	79
(b) 検出された遺構・遺物	79
III 調査のまとめ	81

# 図 版 目 次

- 第1図版 早稲枋Ⅱ遺跡第3次調査区全景・第4号土壙跡埋土堆積状況  
第2図版 崎山貝塚第8次調査N15EWトレンチ・第14号竪穴住居跡検出状況  
第3図版 第14号竪穴住居跡埋土堆積状況  
第4図版 第14号竪穴住居跡遺物出土状況・炉検出状況  
第5図版 N12W48-1号土壙跡埋土堆積状況・S15EWトレンチ  
第6図版 S15W30-1号配石遺構検出状況・第18号竪穴住居跡検出状況  
第8図版 北貝塚調査区  
第9図版 貝層検出状況(A2区・B2区)  
第10図版 A7区遺物包含層  
第11図版 A7区遺物検出状況  
第12図版 A7区遺物検出状況  
第13図版 A7区遺物検出状況・A6区区作業風景  
第14図版 東包含層調査区  
第15図版 東包含層調査区・東包含層作業風景  
第16図版 C5区礫群検出状況・C6区土層堆積状況  
第17図版 東包含層調査区  
第18図版 北貝塚出土遺物

## <カラー口絵>

- カラー1 崎山貝塚第14号竪穴住居跡  
カラー2 崎山貝塚北貝塚調査区  
カラー3 崎山貝塚出土土器  
カラー4 崎山貝塚出土骨角器

## <内表紙写真>

- 崎山貝塚垂直写真

# 挿 図 目 次

第1図	位置図	2
第2図	崎山遺跡群と周辺の遺跡	4
第3図	早稲枋Ⅱ遺跡遺構配置図	5・6
第4図	早稲枋Ⅱ遺跡第3次調査区全体図	8
第5図	第3次調査区検出遺構配置図	9
第6図	崎山貝塚周辺地形図	11・12
第7図	崎山貝塚第8次調査区西集落検出遺構配置図	15・16
第8図	西集落土層断面図(1)	17
第9図	西集落土層断面図(2), 第14号竪穴住居跡複式炉	18
第10図	第14号竪穴住居跡, N12W48-1号土壇跡	19
第11図	第8次調査区出土遺物(1)No.14H, N12W48-1号土壇跡	21
第12図	第8次調査区出土遺物(2)S15EWトレンチ	25
第13図	第8次調査区出土遺物(3)S15EWトレンチ	26
第14図	第8次調査区出土遺物(4)S15EWトレンチ	27
第15図	第8次調査区出土遺物(5)S15EWトレンチ	28
第16図	第8次調査区出土遺物(6)S15EWトレンチ	29
第17図	第8次調査区出土遺物(7)S15EWトレンチ	30
第18図	第8次調査区出土遺物(8)S15EWトレンチ	31
第19図	第8次調査区出土遺物(9)No.14H, N15EWトレンチ, S15EWトレンチ	34
第20図	第8次調査区出土遺物(10)N15EWトレンチ, S15EWトレンチ	35
第21図	第8次調査区出土遺物(11)S15EWトレンチ	36
第22図	第8次調査区出土遺物(12)S15EWトレンチ	37
第23図	第8次調査区出土遺物(13)S15EWトレンチ	38
第24図	北貝塚調査区設定図	39・40
第25図	北貝塚土層断面図(1)	42
第26図	北貝塚土層断面図(2)	43
第27図	第8次調査区出土遺物(14)北貝塚	45
第28図	第8次調査区出土遺物(15)北貝塚	46
第29図	第8次調査区出土遺物(16)北貝塚	47
第30図	第8次調査区出土遺物(17)北貝塚	48
第31図	第8次調査区出土遺物(18)北貝塚	49
第32図	A7区遺物包含層平面図	51
第33図	第8次調査区出土遺物(19)北貝塚	53
第34図	第8次調査区出土遺物(20)北貝塚	54

第35図	第8次調査区出土遺物(21)北貝塚	55
第36図	第8次調査区出土遺物(22)北貝塚	57
第37図	第8次調査区出土遺物(23)北貝塚	58
第38図	第8次調査区出土遺物(24)北貝塚	59
第39図	第8次調査区出土遺物(25)北貝塚	60
第40図	第8次調査区出土遺物(26)北貝塚	63
第41図	第8次調査区出土遺物(27)北貝塚	64
第42図	第8次調査区出土遺物(28)北貝塚	65
第43図	第8次調査区出土遺物(29)北貝塚	66
第44図	第8次調査区出土遺物(30)北貝塚, 東包含層	67
第45図	第8次調査区出土遺物(31)北貝塚	69
第46図	第8次調査区出土遺物(32)北貝塚	70
第47図	第8次調査区出土遺物(33)北貝塚	71
第48図	第8次調査区出土遺物(34)北貝塚	72
第49図	第8次調査区出土遺物(35)北貝塚, 東包含層	73
第50図	第8次調査区出土遺物(36)北貝塚	74
第51図	東包含層調査区設定図	77・78
第52図	東包含層土層断面図(1)	80
第53図	東包含層土層断面図(2)	81

## 付 表 目 次

第1表	北貝塚出土軟体動物・節足動物・棘皮動物集計表
第2表	北貝塚出土魚類集計表
第3表	北貝塚出土土爬虫類・哺乳類集計表



# I 調査経過

## 1 調査要旨

宮古市では国庫補助、県費補助を受けて昭和61年度より平成2年度までの5ヶ年間で第Ⅰ期として崎山遺跡群発掘調査事業を実施してきた。また、引き続き平成3年度より平成5年度までの3ヶ年間で第Ⅱ期発掘調査事業を実施中である。

今年度の発掘調査は、早稲栃Ⅱ遺跡第3次調査（個人住宅建築）と崎山貝塚第8次調査（範囲確認調査）の2件である。総事業費は500万円である。

○早稲栃Ⅱ遺跡第3次調査 平成4年7月20日～8月26日 112.4㎡

遺跡の南端部に位置し、縄文時代の土壙跡1基のほか時期不明の小ピット3基と竪穴状の堀込み跡1基を検出している。

○崎山貝塚第8次調査 平成4年9月30日～12月25日 484㎡

台地中央部（西集落）、北斜面部（北貝塚）、台地東端部（東包含層）の3地点にて範囲確認調査を実施した。

<台地中央部（西集落）>

縄文時代中期中葉～後葉を主体とする竪穴住居跡を6棟検出し、このうち1棟の精査を実施した。また、環状の掘込み（環壕）の西側のプランを確認した。このほかに、配石遺構1基、土壙跡2基、焼土遺構1基を検出している。

<北斜面部（北貝塚）>

北斜面部のほぼ中央部に縄文時代中期に伴う貝層を検出した。貝層の周囲には、ほぼ同時期の遺物包含層が広範囲に形成されており、土器等の遺物を多量に含んでいる。

検出面での肉眼による貝層の広がりには径10m程度であるが、周囲の遺物包含層中にも骨片や貝がら片などが含まれている。

<台地東端部（東包含層）>

台地の先端部で縄文時代前期に伴う小規模な遺物包含層を検出している。

○現地説明会等（崎山貝塚範囲確認調査の周知・啓蒙事業）

<現地説明会> 平成4年12月10日

考古学研究者のほか、地元住民や地元小学校児童などを対象とし、今年度の調査成果を報告する。参加人員200名。

また、12月17日に地元中学校生徒による見学会を実施する。参加人数40名。

<岩手考古学会研究大会> 平成5年1月30日～1月31日

宮古市で開催された第10回岩手考古学会研究大会において範囲確認調査成果に基づく崎山貝塚の概要を発表する。参加人数80名。

なお、これらの事業については新聞、テレビ等により報道された。



第1図 位置図

## 2 調査体制

本年度の発掘調査の体制は次のとおりである。

調査主体	佐藤 勇逸	宮古市教育委員会教育長
	大森 翼	宮古市教育委員会教育次長
調査総括	岩田 善弘	宮古市教育委員会社会教育課長
事務担当	山崎 吉章	宮古市教育委員会社会教育係長
〃	坂下 昇	宮古市教育委員会社会教育係主任兼社会教育主事補
調査員	高橋憲太郎	宮古市教育委員会社会教育係主任（主担当）
〃	鎌田 祐二	宮古市教育委員会社会教育係主任
〃	阿部 豊	宮古市教育委員会社会教育係埋蔵文化財調査員（非常勤）
調査補助員	石田 充	宮古市教育委員会社会教育係期限付臨時職員

調査の実施にあたり次の方々から御協力をいただいた。（敬称略）

<地権者> 工藤武、前川克夫、下平伊三郎、後藤敏、工藤敏雄

<発掘調査> 前川友宏、大越貞蔵、菊地清八、吉田昭、佐伯裕則、佐々木健、北村忠治  
佐々木茂実、竹原昌江、館崎禮子、木村博、刈屋昭三、今津東一  
古館友三、中居磯雄

<整理作業> 前川友宏、成田寿美江、竹原昌江、越田真理子

## II 調査内容

### 1 早稲枋Ⅱ遺跡第3次調査

#### (1) これまでの調査

早稲枋Ⅱ遺跡は、宮古市のコードL G 24-0020、岩手県のコードL G 24-0020として登録された周知の遺跡である。

大沢海岸で太平洋に注ぐ流路約2.5km程のメクサレ沢と呼ばれる小河川の上流部に遺跡は位置している。遺跡の周辺でこの沢は二又に分かれており、丁度遺跡の西南部と北東部を区画した状態となっている。

遺跡は、二つの沢により開析された谷底平野上に立地しており、周辺は黒森山山地の南東辺部に当る小起伏山地によりとり囲まれている。

縄文土器などの遺物が散布する範囲は北西～南東方向で約160m、北東～南西方向で約80mほどであり、中～小規模の遺跡であると考えられている。

昭和63年度と平成3年度に市単独事業により遺跡の南半部にて緊急調査を実施しており、それぞれ第1次、第2次と調査次数を冠してあるため、本年度の調査はこれに続けて第3次調査とした。

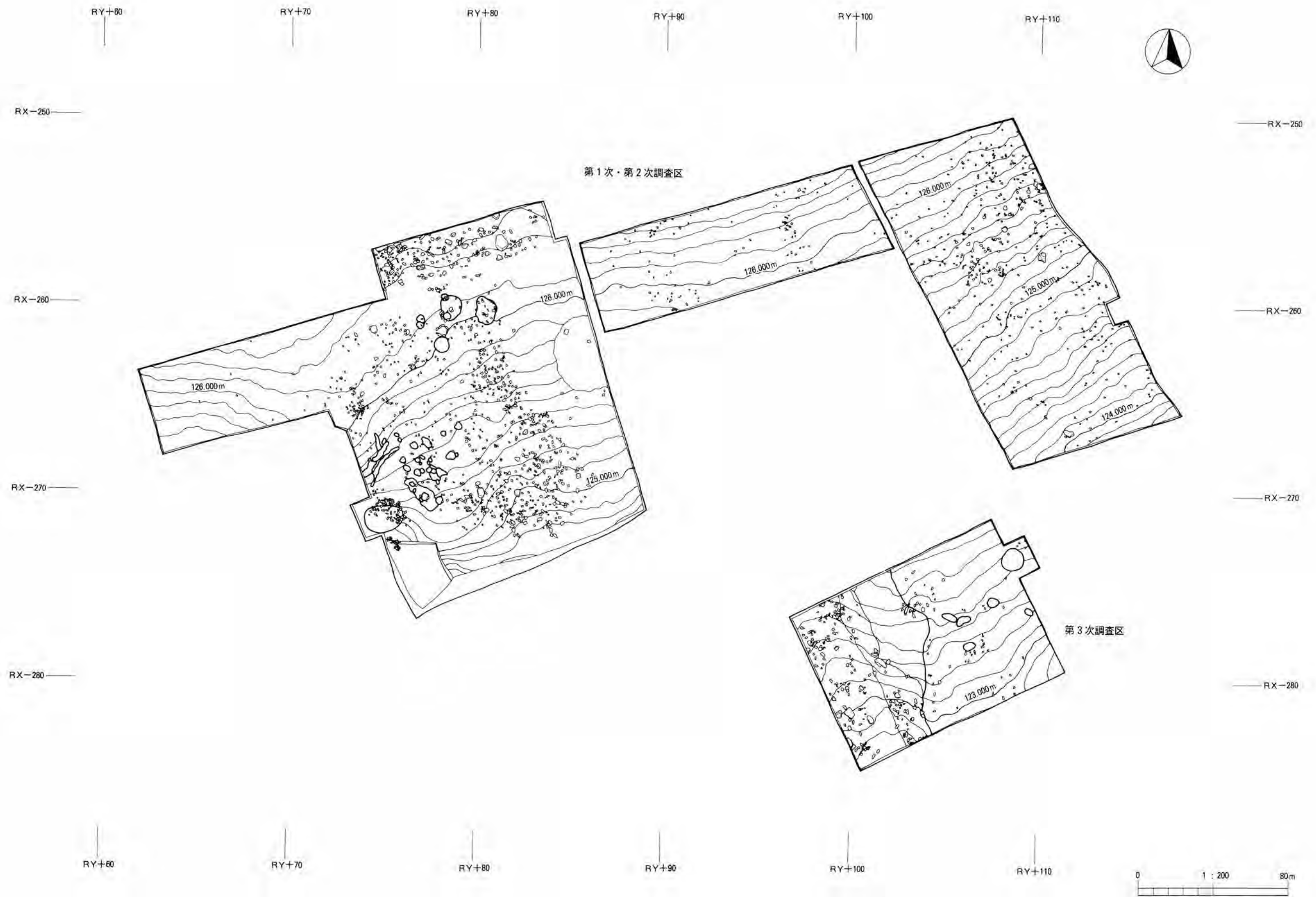
第1次、第2次調査では、縄文時代の竪穴住居跡1棟、石囲炉2基、土壇跡3基および遺物

第1次・第2次  
調査



第2図 崎山遺跡群と周辺の遺跡





第3図 早稲枋Ⅱ遺跡遺構配置図





包含層を検出している。調査区内からの出土遺物は縄文時代前期初頭～中期後葉にわたるが、主体となるのは中期中葉～後葉のものである。

また、時期は不詳であるが、ウマを埋葬した墓壇跡を1基検出している。

本年度の調査区は、第1次、第2次調査区の南に隣接し、遺跡の南端部に位置している。調査区は住宅建築により破壊される部分のすべてを対象として設定した。

## (2) 基本層序

調査区内で確認された土層はI層とII層のみである。

I層は表土層で、暗褐色粘質土を基本土とし、黒褐色土塊などをわずかに含む。やや固く、ややしまりがいい。

II層は地山層で、褐色シルト質土を基本土とするが、東辺部で礫層に推移している。暗褐色土塊を少量含む。やや固く、しまりは中程度である。

## (3) 遺構の検出状況

検出した遺構は、西半部で第2号竪穴状遺構、東端部で第4号土壇跡を検出し、両者の間にP1～P5を検出した。

## (4) 検出された遺構・遺物

### 第2号竪穴状遺構（第4図）

調査区内での規模は、北東～南西方向で4.7m、北西～南東方向で8.7m、最深部の深さは0.45mを計る。

平面形は不明であるが、遺構の東壁は調査の西壁にほぼ平行している。底面はほぼ平坦であるが、あまり固くない。壁は極めてゆるやかに傾斜している。

平面形

埋土はA層で3層に細分される。A1層は黒褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊を含む。部分的にグライ化しているところが認められる。やや固いがしまりは中程度である。A2層はやや明るい黒褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊や暗褐色土塊などを多く含む。また、砂粒や礫を多く含む。やや固いがしまりは中程度である。人為的な堆積層であろう。A3層は黒褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊を含む。部分的にグライ化しているところが認められる。やや固いがしまりは中程度である。

埋土

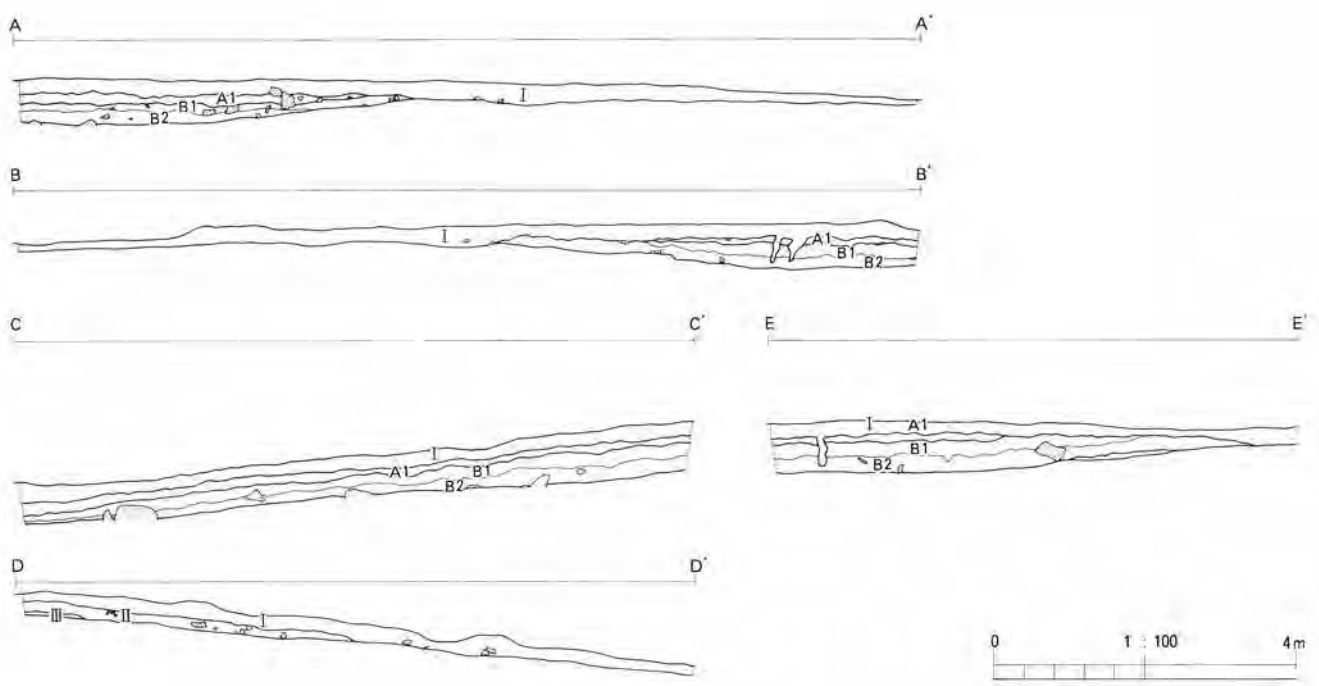
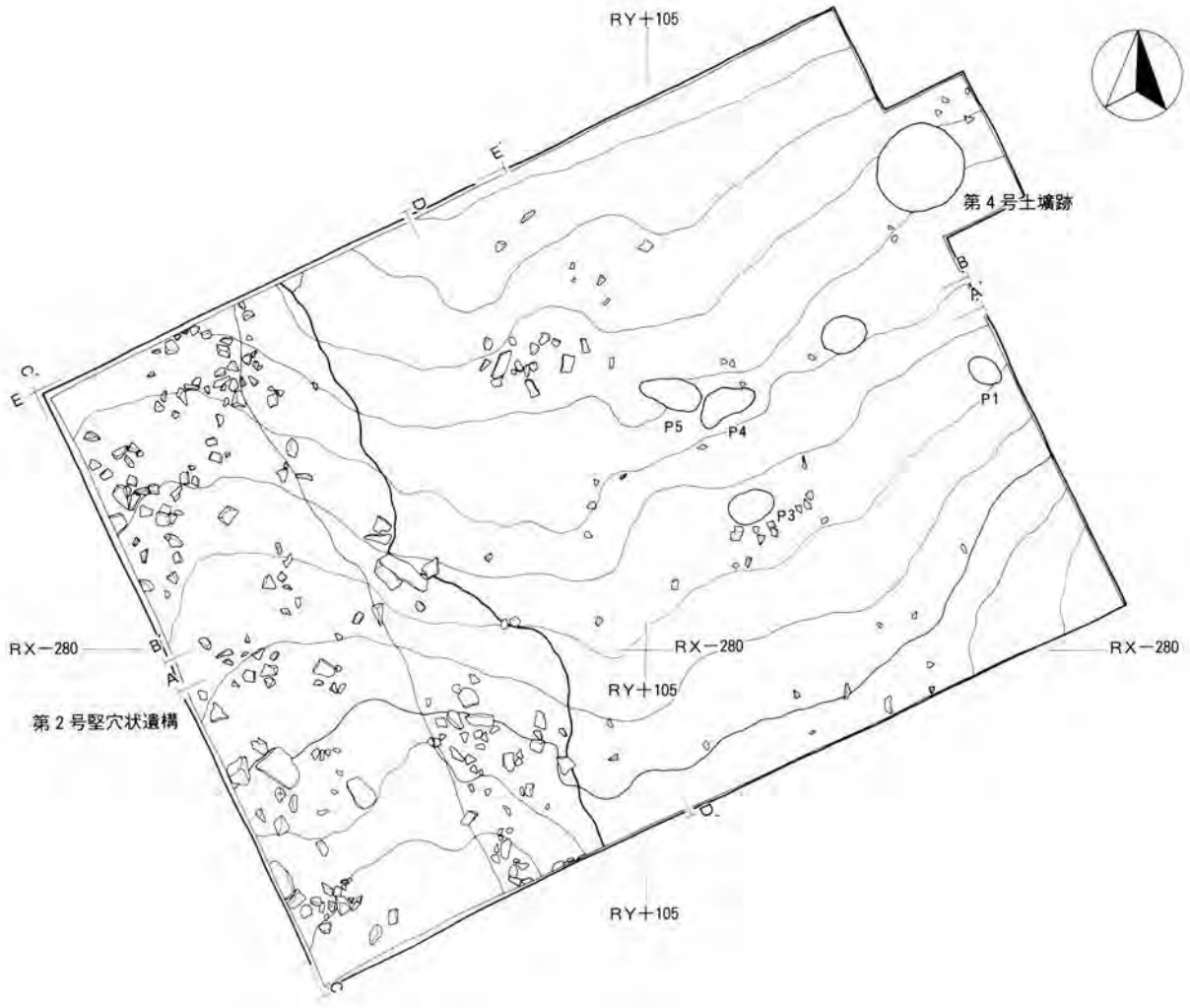
柱穴等の付属施設は全く認められない。また、出土遺物は無いので時期は不明である。

### 第4号土壇跡（第5図）

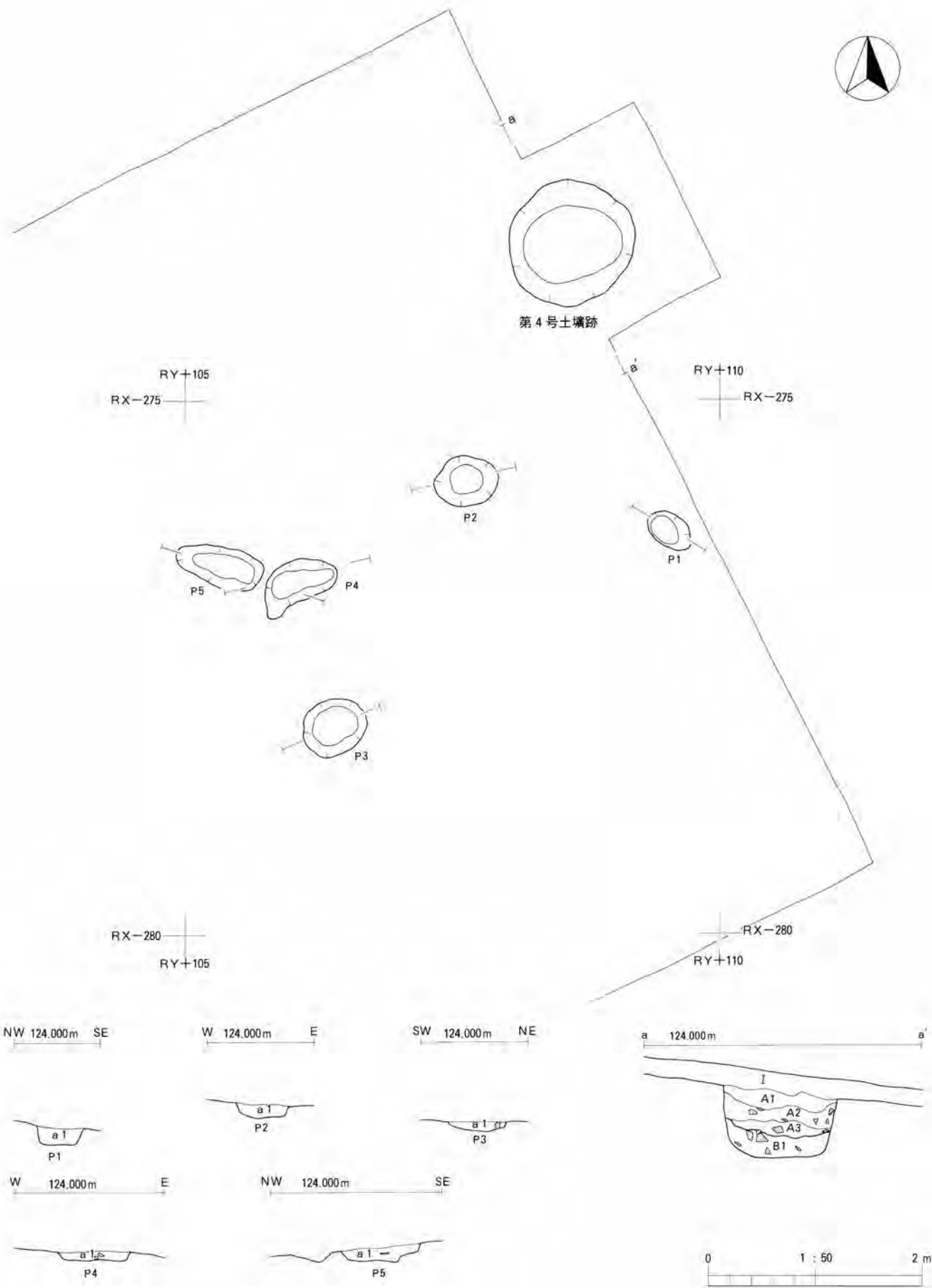
平面形は円形を呈し、規模は径1.2m、深さ0.65mを計る。底面付近でやや丸味を持つが、断面形はほぼピーカー形を呈する。

埋土はA層とB層に大別される。A層は3層に細分されるが、いずれも黒褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊や暗褐色土を含む。A1層、A3層は混入土がわずかであるが、A3層は多くの混入土を含んでいる。いずれの層も固さは中程度でややしまりがいい。

出土遺物は磨滅した縄文土器の小片がわずかに出土しているが、図示できるものはない。



第4図 早稲枋Ⅱ遺跡第3次調査区全体図



第5図 第3次調査区検出遺構配置図

### 小ピット（第5図）

調査区東半部に掘込みの浅い小ピットを5基検出している。

P1は平面形が楕円形を呈し、長軸0.45m、短軸0.3m、深さ0.15mを計る。埋土はa1層のみで、やや明るい暗褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊などを含む。やや固く、ややしまりが無い。出土遺物は無い。

P2は平面形が楕円形を呈し、長軸0.6m、短軸0.45m、深さ0.15mを計る。埋土はa1層のみで、暗褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊などを多く含む。やや固く、ややしまりが無い。出土遺物は無い。

P3は平面形が楕円形を呈し、長軸0.6m、短軸0.6m、深さ0.1mを計る。埋土はa1層のみで、暗褐色粘質土を基本土とし、粉状のやや明るい暗褐色土などをやや多く含む。固さは中程度で、ややしまりが無い。出土遺物は無い。

また、P4、P5としたものは、しまりのない暗褐色土が堆積するもので、攪乱穴の可能性が大きい。

## 2 崎山貝塚第8次調査

### (1) 第1次～第7次調査の概要

崎山貝塚は、宮古市のコードL G14-2079、岩手県のコードL G04-2180として登録された周知の遺跡である。

柴田常恵

大正13年の柴田常恵らによる発掘調査、昭和57年度～昭和60年度に実施された市内遺跡分布調査事業、昭和59年度～昭和60年度に遺跡南西部で実施された宅地造成に先だつ緊急発掘調査などの諸調査を経て、宮古市では国庫補助事業による崎山貝塚の範囲確認調査を実施している。

この調査は、崎山貝塚の保存を前提としたものであり、昭和61年度～平成2年度を第Ⅰ期、平成3年度～平成5年度を第Ⅱ期として調査事業を実施中である。

これまでの範囲確認調査により判明した崎山貝塚の概要は次のとおりである。

崎山貝塚は、地形的に3分類することが可能である。つまり、第一は台地頂部の平坦面であり、第二はこれを取り囲む斜面部であり、第三は更に外側の低湿地である。崎山貝塚の集落構成もほぼこれと対応しており、台地頂部に集落跡、斜面部に貝塚や遺物包含層が形成されている。低湿地については、水のみ場や堅果類などのアク抜き場等の利用が想定されるものの、本格的な範囲確認調査はまだ実施していないために詳細は不明である。

#### <集落跡-台地頂部>

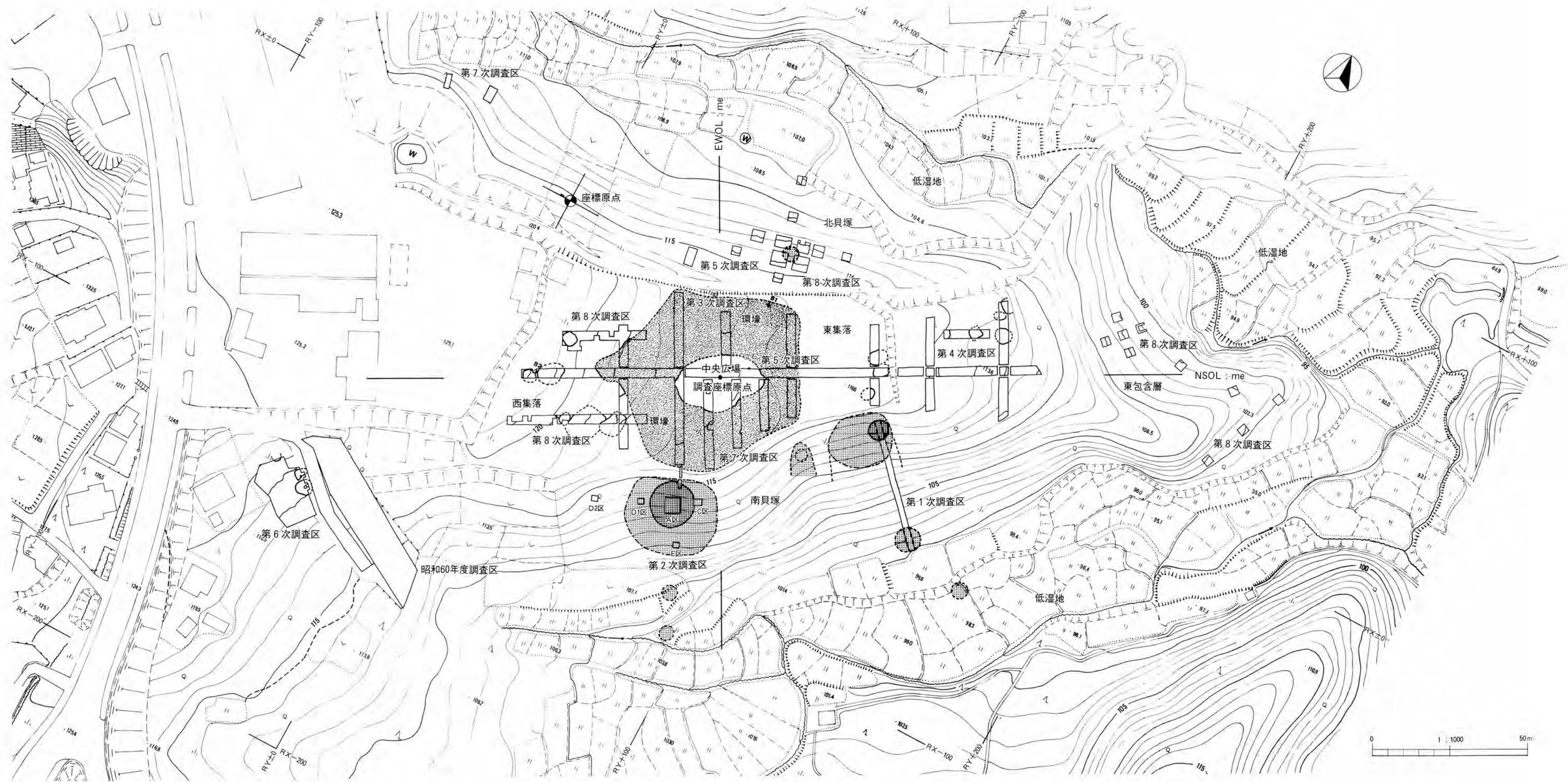
遺跡の中心部を占める台地上の平坦面には、縄文時代中期中葉～後葉を主体とした同心円状の重層構造をとる極めて特徴的な集落跡が展開している。

立石を伴う墓域

集落跡は、中央部に「立石を伴う墓域」がある。

この地点は、不整楕円形の広場状を呈し集落廃棄後（縄文時代中期末葉）の土壙跡が著しく重複しているが、平面形が楕円形を呈するものや、配石状の円礫を伴う土壙跡が現在5基確認されており、これらは墓域である可能性が極めて大きい。





第6図 崎山貝塚周辺地形図



また、東端部に存在する立石とも符合し、この地点を集落跡に伴う墓域であると想定している。

「立石を伴う墓域」の外側には幅12～26m、深さ1.2mの環状の掘込みがめぐっている。これは人為的な遺構であり、埋土には多くの混入土や炭化物粒が混入するほか、ドングリ廃棄ブロックが形成されていた。

この遺構は中央部の「立石を伴う墓域」と外側の居住域を区画する「環壕」であると想定している。

「環壕」の外側には東西両側に竪穴住居跡が検出され、居住域を形成していたことが判明している。東側の居住域を「東集落」、西側の居住域を「西集落」と呼称している。

竪穴住居跡は縄文時代中期中葉～後葉の大木8 a式～大木9式に伴うものが主体となるが、大木7 a式、大木10式、古代（平安時代か）に伴うものがそれぞれ各1棟ずつ検出されている。

また、「東集落」の西部には竪穴住居跡が検出されずに、小ピット類が集中する地点があり、今後この性格の把握が急務となる。

環壕

東集落

西集落

#### <貝層および遺物包含層－斜面部>

台地の南斜面中央部付近には、縄文時代前期初頭～中期初頭の大木1式～大木7 b式に伴う貝層が3地点で確認されており、「南貝塚」と呼称している。

特に、前期の貝層は比較的層厚もあり、魚骨を中心とした多量の動物遺体が集積していた。魚類や貝類は岩礁性や外洋性の種が主体となり、内湾性のものはほとんどみられない。

また、骨角器類もシンプルな形態のものが主体となるが、比較的多量に出土している。

貝層の周辺部には、土器等の遺物が多量に廃棄された縄文時代前期～中期（大木1式～大木8 b式）に伴う遺物包含層が形成されており、わずかながら、骨片や貝がら片を検出している。

同様に、北斜面中央部でも1地点以上の貝塚を確認しており、「北貝塚」と呼称している。やはり、貝塚の周辺部には遺物包含層が形成され、縄文時代前期～中期（大木3式？～大木8 b式）の遺物が確認されている。

「北貝塚」の貝層は、周辺の遺物から縄文時代中期に形成されたと思われ、集落跡にほぼ伴う時期に形成されたもののようである。

魚類や貝類は岩礁性、外洋性の種を中心としながらも内湾性の種を含んでいる。

なお、詳細については後述する。

南貝塚

北貝塚

#### <低湿地>

遺跡の北、東、南の三方は沢や低湿地にとり囲まれており、現在は水田として活用されている。

ボーリングなどの部分的な調査では、斜面部に形成された遺物包含層が水田面の下に落ちることが確認されているものの、本格的な調査を実施しておらず、特殊な包含層や遺構は確認していない。



## (2) 調査の方法と目的

本年度の調査は、文化庁および岩手県教育委員会文化課の指導により、北斜面部、東斜面部での貝層や遺物包含層の状態を探ることを目的とし、地形に合わせて3～5mのグリッドを設定した。

また、台地上では「環壕」の西側のプランを確定させるとともに、比較的調査面積の小さかった「西集落」にて竪穴住居跡の分布状況を探ることを目的として、遺跡中軸線に合わせて東西両側に幅3mのトレンチを設定した。

更に、竪穴住居跡の内容および所属時期を探るために1棟を精査した。

## (3) 台地頂部（西集落）

### (a) 基本層序

本調査区内で確認された土層は3層である。

I層は表土層で、やや明るい暗褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊を少量含む。ややわらかくしまりがない。

II層は暗褐色粘質土を基本土とし、黒褐色土塊などを含むほか炭化物粒を少量含む。ややわらかく、ややしまりがない。炭化物粒を少量含む。

III層は黒褐色粘質土を基本土とし、暗褐色土塊を含む。固さは中程度で、ややしまりがない。炭化物粒を少量含む。また、土器片等の遺物をやや多く含む。

以上の各層は、第3次調査区内のI層～III層に対応する。

### (b) 遺構の検出状況

台地頂部では、幅3mのトレンチを南北に2本設定したが、ここではN15EWトレンチ、S15EWトレンチと仮称する。

N15EWトレンチでは、東端部にて「環壕」の西端のプランを確認した。ここから東へ20mにわたり遺構の空白域があり、焼土遺構等の遺構がわずかに検出されたにすぎない。この外側には、竪穴住居跡等の遺構が検出されており、第14号竪穴住居跡と土壇跡1基を精査した。

S15EWトレンチでも同様に東端部にて「環壕」の外縁を検出した。しかし、ここから居住域までの間隔は極めて狭く、空白域は3m程度であり、しかもこの地点にて配石遺構を検出している。

これらの外側には竪穴住居跡が密集しており、第15号～第19号竪穴住居跡の5棟が重複した状態で検出された。このうち第17号竪穴住居跡と第19号竪穴住居跡は規模が大きく、大型住居跡となる可能性が大きい。

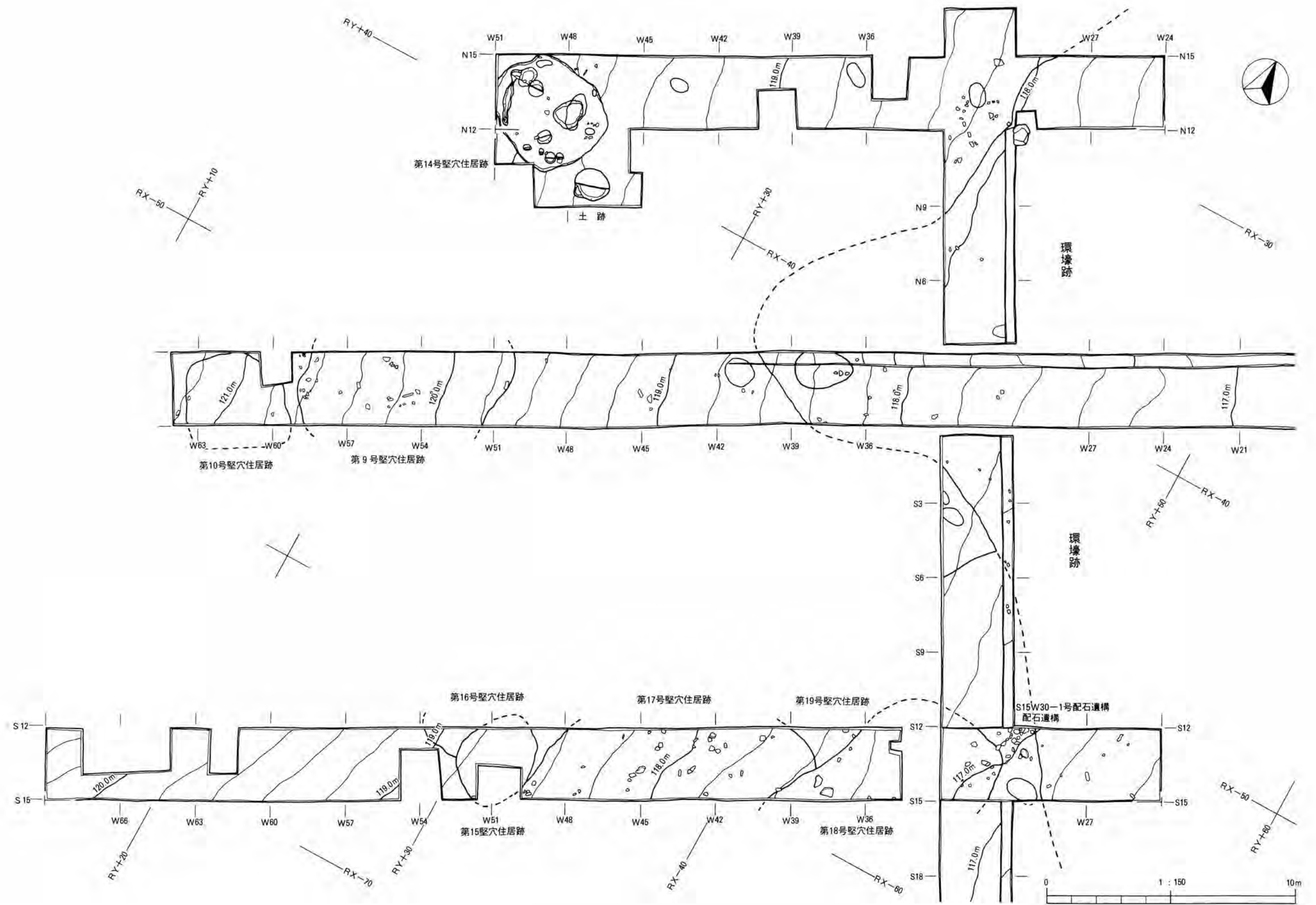
竪穴住居跡の密集域の外側には、遺構の検出されない地点が存在している。

### (c) 検出された遺構・遺物

#### 環壕跡（第7図）

NS両トレンチの東端部にて検出した。検出のみにとどめたため深さや堆積状況等は不明であるが、第5次調査での所見に準ずるものであろう。

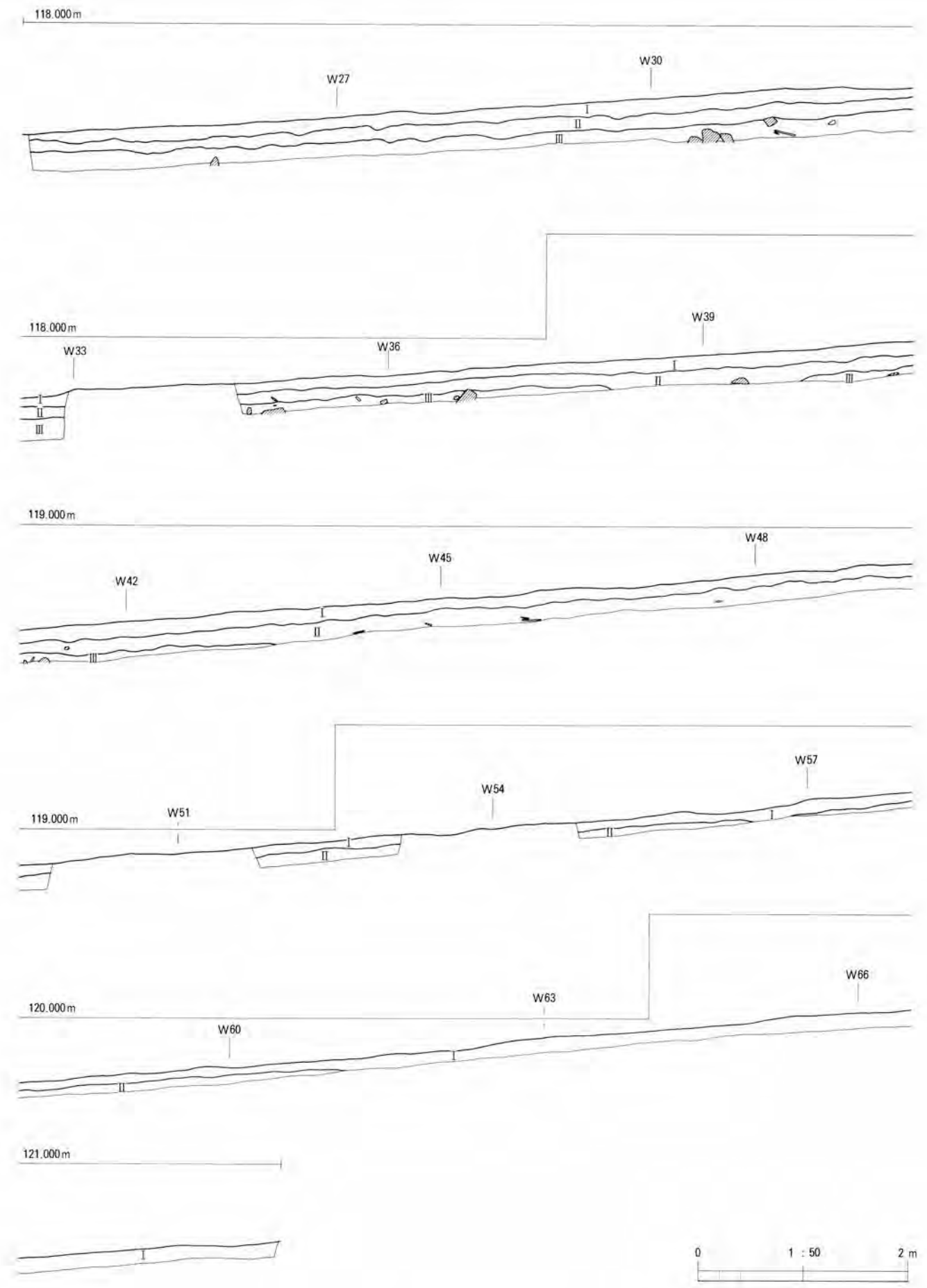
今回の調査にて環壕跡の西側のプランがほぼ確定した。



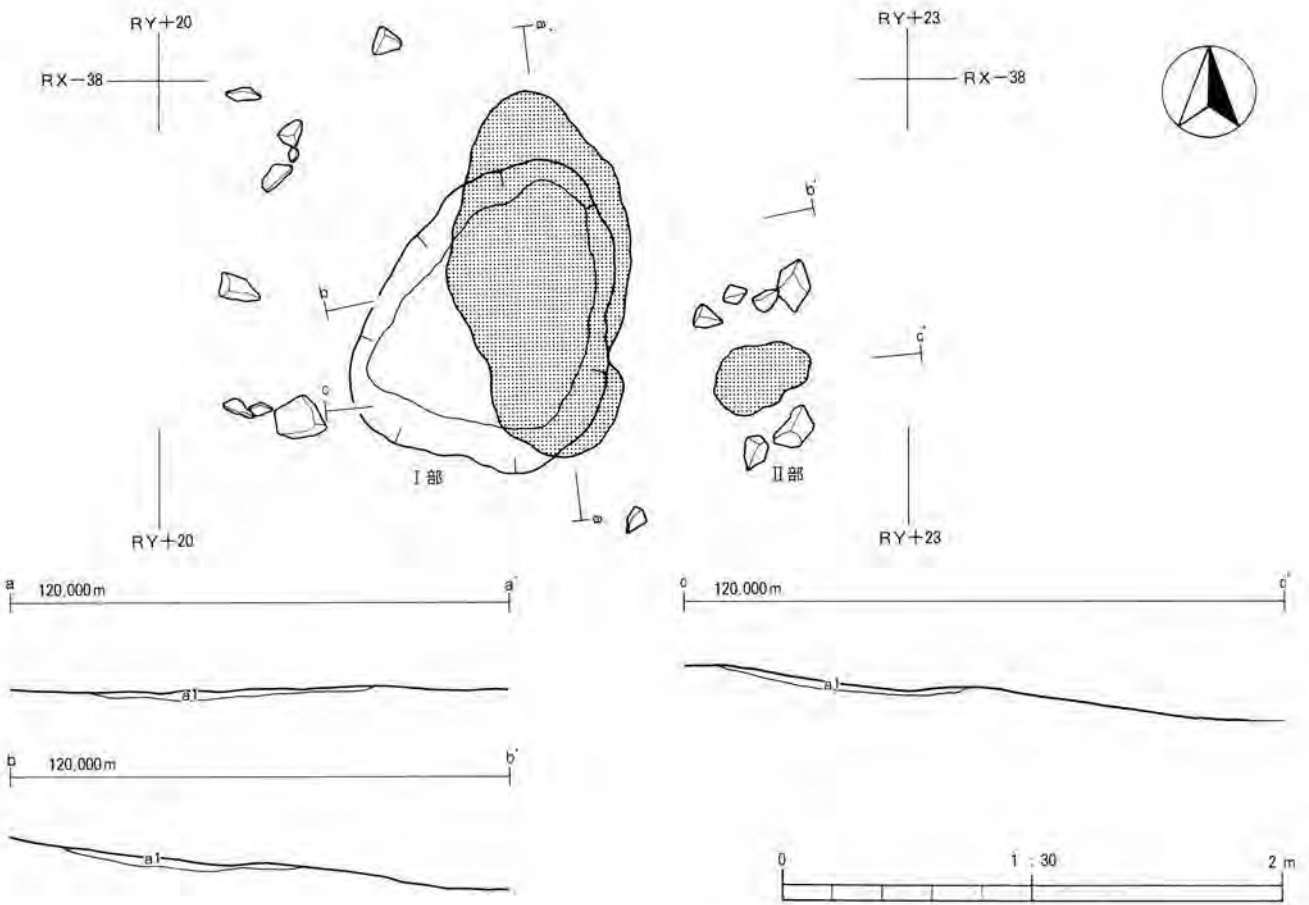
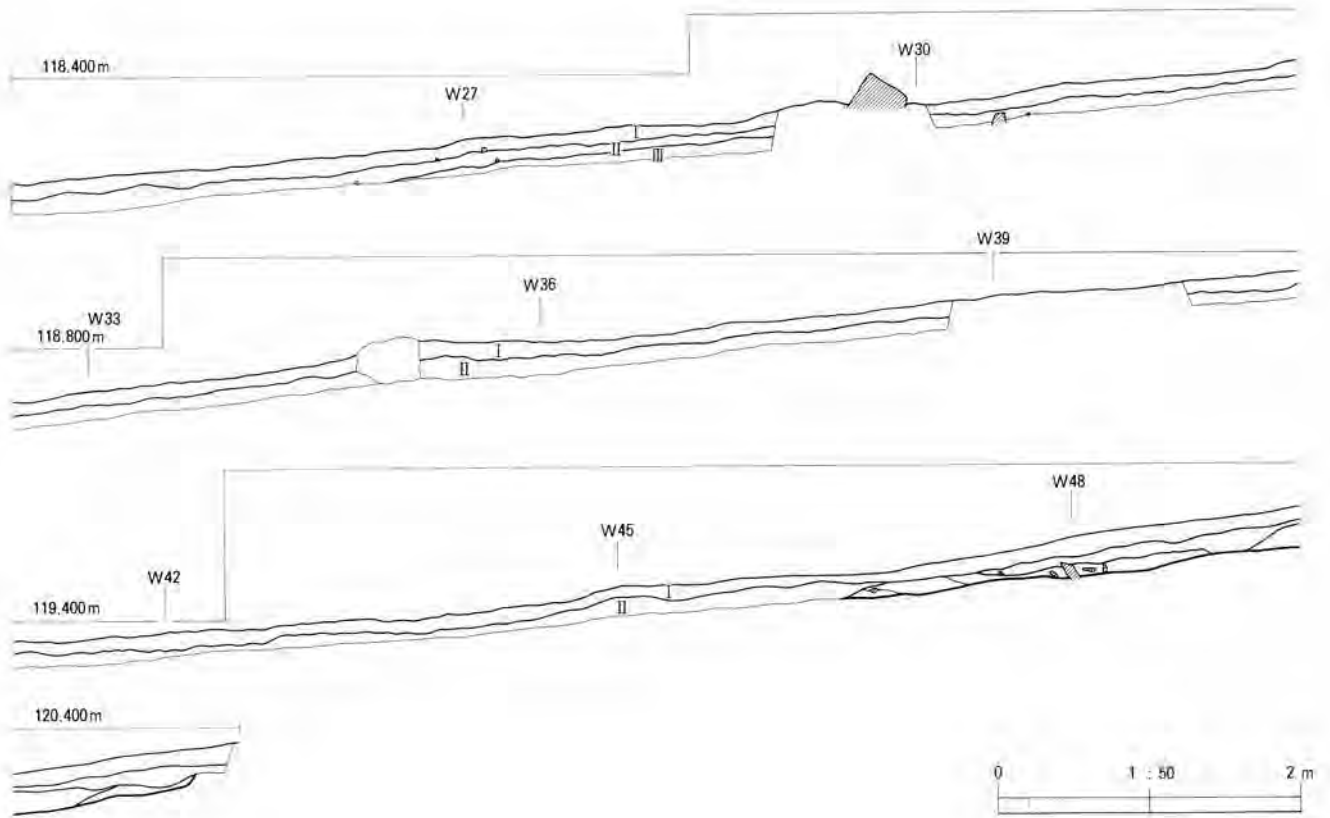
第7図 崎山貝塚第8次調査西集落検出遺構配置図



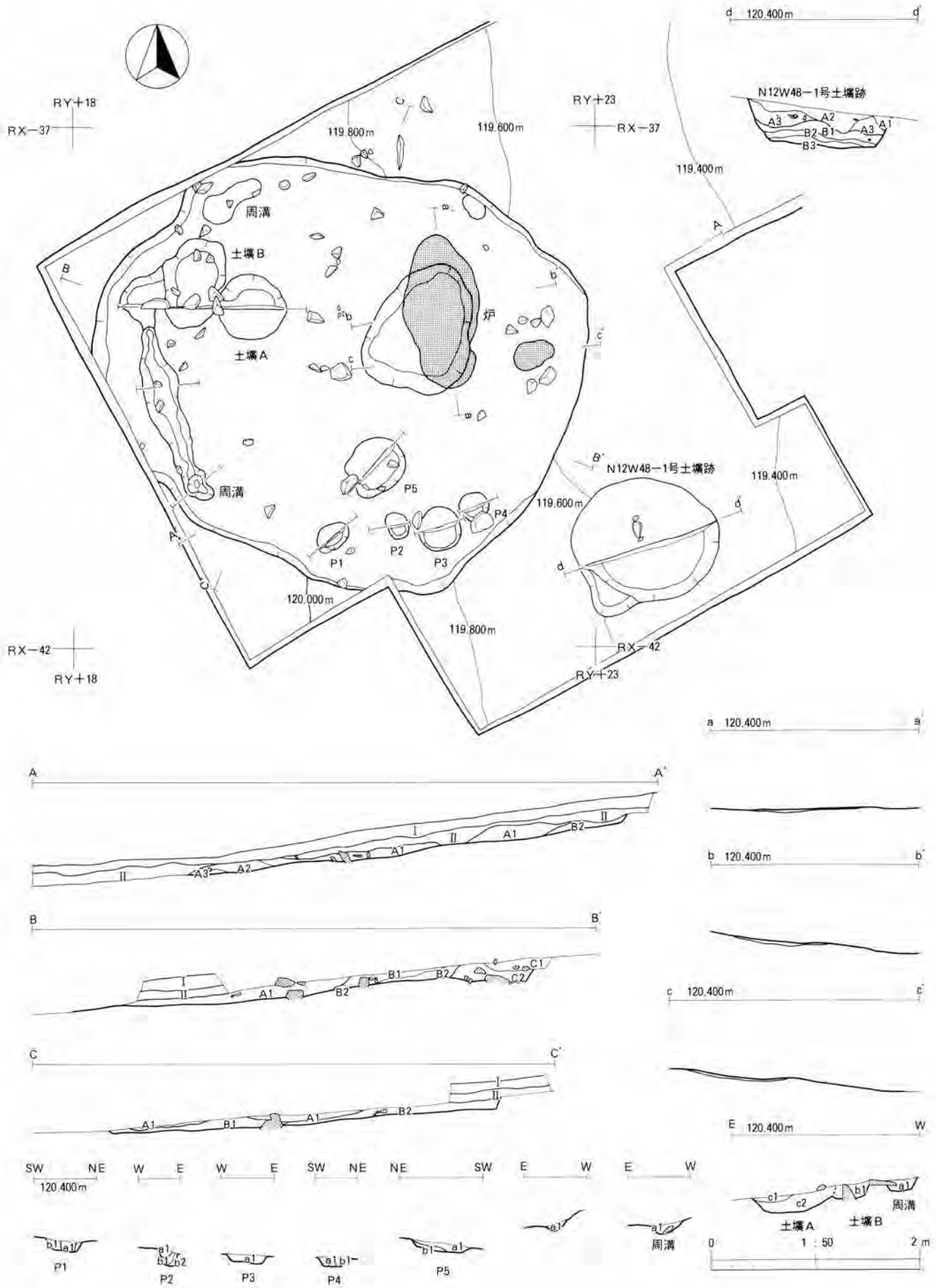




第 8 图 西集落土層断面图(1)



第9図 西集落土層断面図(2)、第14号竪穴住居跡複式炉



第10图 第14号竖穴住居跡・N12W48-1土壤跡

#### 第14号竖穴住居跡（第10図）

##### 平面形

N15EWトレンチの西端部に検出した。ほぼ全体を検出したが、調査区内での重複はなかった。平面形は不整の隅丸方形を呈し、規模は、東西4.6m、南北3.8m、深さ0.2mを計る。主軸方向は、E15°30'Sであり、ほぼ遺跡の中央部を向いている。

##### 埋土

埋土はA層、B層、C層に大別される。A層は3層に細分される。A1層は、やや明るい暗褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊などを含む。固く、しまりは中程度である。炭化物粒をやや多く含む。A2層は黒褐色粘質土を基本土とし、暗褐色土塊などを含む。やややわらかく、ややしまりが無い。A3層は黒褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊などを含む。やや固く、しまりは中程度である。

B層は2層に細分される。B1層は、褐色粘質土を基本土とし、暗褐色土塊などを含む。やや固く、しまりは中程度である。小礫、炭化物粒、焼土粒を少量含む。B2層は、B1層より明るい褐色粘質土を基本土とし、黄褐色粘質土塊、暗褐色土塊などを含む。固く、しまりは中程度である。小礫、炭化物粒、焼土粒を少量含む。

C層は2層に細分される。C1層は、やや明るい暗褐色粘質土を基本土とし、暗褐色土塊を含む。固く、しまりは中程度である。炭化物粒を少量含む。C2層は、褐色粘質土を基本土とし、暗褐色土塊を含む。やや固く、しまりは中程度である。炭化物粒を少量含む。

床面は、やや凹凸があるが固い。貼床は認められない。西壁よりやや離れた地点に幅0.35m、深さ0.1mの周溝が認められる。

##### 柱穴

柱穴は、P1、P4に柱痕跡があり支柱穴に相当する。P1とP4の柱間寸法は芯々で1.4mを計る。これら以外に柱穴と思われるピットは認められず、柱穴配置は不明である。

##### 炉

炉は石組複式炉で、床面中央より東に寄る。炉の各部をI部、II部として説明する。

I部は、不整形の堀込炉で、東西1.1m、南北1.3m、深さ0.05mを計る。堀込の東半部から床面にかけて焼成を受けており、固く、赤変している。

II部は、石組炉で、炉石の大半は抜きとられている。推定される規模は、東西、南北ともに0.7m程度である。炉の中央部が焼成を受けて、固く、赤変している。

#### 出土遺物（第11図）

埋土が浅いこともあり遺物の出土量は少ない。

##### 土器

4, 9, 10は磨消技法によるもので、沈線による楕円形区画文を施し、大木9式に伴う。

8, 12, 13, 15, 16, 19は隆沈線により懸垂文や渦巻文等を施すもので、大木8b式に伴う。

1, 3, 6, 17, 18は平行沈線により施文されるもので、やはり大木8b式に伴う。

##### 石器

262は、やや小形ではあるが周縁部を両面から比較的丁寧に調整している。欠損により判然としないが、石匙等の定形的な石器の残欠である可能性も考えられる。

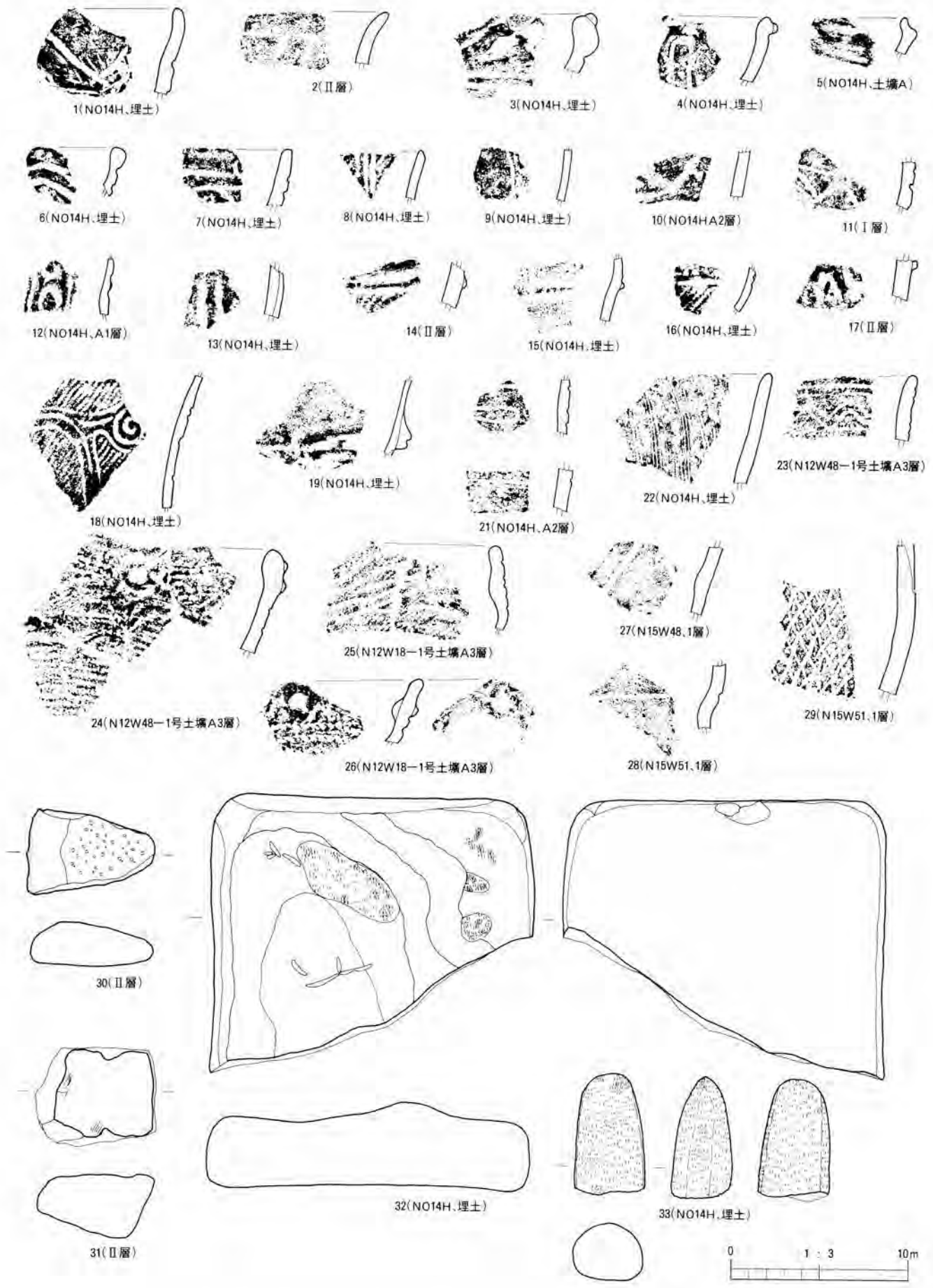
263～265は不定形剥片の側縁部等を調整したものである。263は下辺に搔器様の刃部を有する。また、264, 265は側縁部に削器様の刃部を有する。

267は、やや肉厚の剥片を素材とするもので、湾入する側縁部に削器様の刃部を有する。

266は小形の磨製石斧で、比較的緻密な石材を用いて丁寧に研磨される。

33は、やや粗い石材を用いるもので、現存部には成形時の敲打痕のみが認められる。

32は石皿であり、両面ともに使用するが、一方の面が良く使い込まれており、凹んだ使用面



第11図 第8次調査区出土遺物(1)No.14H、N12W48-1号土壤跡

がみとめられる。

#### 第15号竪穴住居跡

S15EWトレンチのほぼ中央部に位置し、全体のほぼ2/3を検出した。第16号竪穴住居跡を切る。平面形は不整形を呈し、規模は直径3.4mほどである。

検出のみにとどめたため内容は不明である。

遺構に伴う遺物で図示できるものは無かったが、周辺のⅡ層～Ⅲ層からは大木8 b式の破片を得ており、この時期に伴う可能性が大きい。

#### 第16号竪穴住居跡

S15EWトレンチのほぼ中央部に位置する。第15号、第17号竪穴住居跡に切られ、平面形や規模は不明である。

検出のみにとどめたため内容は不明である。

遺構に伴う遺物で図示できるものは無かったが、周辺のⅡ層～Ⅲ層からは大木8 b式の破片を得ており、この時期に伴う可能性が大きい。

#### 第17号竪穴住居跡

S15EWトレンチのほぼ中央部に位置する。第18号竪穴住居跡に切られる。

平面形は不明で、規模は東西11.8m以上である。

検出のみにとどめたため内容は不明であるが、比較的大形の住居跡かと思われる。

出土遺物は、34、36、129～131、135、143、145、147、155、158、163、191が埋土最上層より取り上げたものである。

### 土器

145、147、163は隆沈線により施文されるもので、大木8 b式に伴う。

135、155、191は平行沈線により施文されるもので、やはり大木8 b式に伴う。

34は体部に強い膨らみを有する樽形土器の体部下半である。タガ状にめぐる隆起線の調整が比較的丁寧であり、大木8 b式に伴うものと思われる。

131、143は口縁部に横位の隆起線を施すものであり、比較的丁寧に調整され隆沈線状となっている。大木8 b式に伴うものであろう。

129、130はキャリパー形深鉢の口縁部である。隆沈線により渦巻文等の施文が認められるが、上下境界線との連絡が無く、やや開放的である。また、調整も比較的粗雑であり、大木8 b式でも古い段階に伴うものである。

他のものも前述したものとほぼ同時期かと思われる。

#### 第18号竪穴住居跡

S15EWトレンチの東半部に位置する。第17号、第19号竪穴住居跡を切る。

平面形は不明である（隅丸方形か）。規模は東西9.3m以上である。

検出のみにとどめたため内容は不明であるが、比較的大形の住居跡かと思われる。

出土遺物は、39、87、108、113が埋土最上層より取り上げたものである。



108は半円形を呈する口縁部波頂の破片であり、磨消技法による楕円形(?)の区画文が施文され、大木9式に伴う。 土器

113は隆沈線により渦巻文や区画文を施すもので、大木8b式に伴う。

87はキャリパー形深鉢の口縁部破片である。波状に展開すると思われるモチーフを施すもので、大木8a式に伴う。

39は現存部が縄文のみの小形深鉢であり、頸部にわずかな屈曲を有する。所属時期は不明である。

#### 第19号竪穴住居跡

S15EWトレンチの東半部に位置する。第17号、第18号竪穴住居跡に切られ、平面形、規模ともに不明であり、伴出遺物も無く、所属時期は不明である。

#### S15W30-1号配石遺構

第19号竪穴住居跡東辺から環壕西辺にかけての東西南北ともに1.5mの範囲に、径30～50cmの垂角礫や円礫が集積していた。なかには径50cm程の石皿や浜石と思われる円礫なども含まれており、明らかに人為的な所産であると思われるものの、検出のみにとどめたために下部の掘り込みの有無は確認できていない。

伴出遺物は極めて少なく、49が配石の周辺から出土したものである。やや薄手で、沈線による施文があり、縄文後期に伴うものと思われる。 土器

#### N12W48-1号土壇跡

N15EWトレンチの第14号竪穴住居跡の南側に隣接して検出された。

平面形は円形を呈し、断面形はピーカー状を呈する。規模は直径1.4m、深さ0.5mを計る。埋土はA層とB層に大別される。A層は黒褐色粘質土を基本土とし、炭化物粒を多く含む。B層は暗褐色～褐色粘質土を基本土とし比較的混入土を多く含む。 平面形  
埋土

出土遺物は23～26であり、いずれもA3層から出土した。

24～26は口縁部が大波状を呈するもので、口縁部文様帯に原体圧痕による施文が認められる。また、波頂部や波頂間には隆起線による円文が伴うようである。これらは、大木7b式に伴う。 土器

23は口縁部文様帯に竹管による波状文を施すもので、大木3式に伴うものと思われる。

#### 焼土遺構

N15EWトレンチの第14号竪穴住居跡と環壕の間に検出した。

平面形は不整楕円形である。伴出遺物がなく、時期は不明である。

#### 遺構外出土遺物（第11図～第23図）

N15EWトレンチからの出土遺物は極端に少なかった。

また、S15EWトレンチからはI層～III層にわたり極めて多量の遺物が出土している。



しかし、本調査区内でのⅡ層からⅢ層への移行は極めて漸移的であり、遺物の分層発掘も困難を極めた。このため、Ⅱ層としたものの中にはⅢ層出土遺物が少なからず混入している。

更に、第3次調査及び本調査区ともにⅠ層～Ⅲ層は層位的にまとまりを持たない出土状況を呈しており、一括して説明する。

#### 土器（第11図～第18図）

#### 縄文後期

40～43, 55～81, 104, 106, 117, 133は縄文後期に伴うものである。

41～43は磨消技法によるもので、やや幅の狭い沈線にて直線的モチーフを施す。

40, 55～76, 104, 106, 117, 133も磨消技法によるが、やや幅の広い沈線にて曲線的なモチーフを施す。

77～81は頸部に強い屈曲を有するもので、磨消技法により体部に縦位方形の区画文を施す。77と78は接合している。

96, 97, 100～103は縄文のみを施す深鉢であり、口縁部を折返し複合口縁としている。これらも縄文後期に伴う可能性が大きい。

以上の土器はS15W27～S15W33グリッドに集中している。

#### 大木10式

107, 136, 137, 142, 164～170は大木10式に伴うものである。いずれも磨消技法により施文される。

136, 142, 164～166は隆起線上に円形の連続刺突文を施すもので、大木10式～門前式に伴うものと思われる。

137は口縁部の内面に隆起線により「ノ」字状の貼付を有する。

167～169は沈線により曲線的なモチーフを施すものである。168は沈線の一部が連続刺突文状となる。

107は無文部に円形の連続刺突文を施す。

以上の土器はS15W36～S15W45グリッドに集中している。

#### 大木9式

82, 83, 109, 110, 119～123, 159, 171, 253はいずれも磨消技法によるもので、大木9式に伴う。

123は隆起線によるものであるが、隆起線の断面形が三角形に近く、沈線部もかなり幅が広がっており、大木9式のなかでもやや古い部分に相当する。

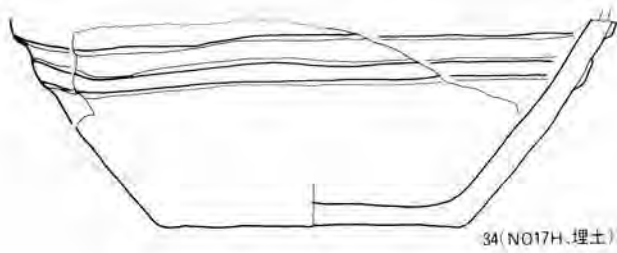
他のものは、沈線により縦位楕円形区画文を施すものであるが、171はなかでもやや新しい可能性がある。

以上の土器はS15W36～S15W42に集中している。

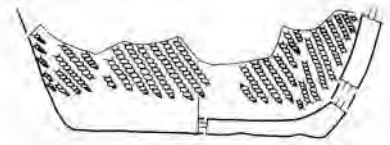
44, 45, 48, 51～54, 84～86, 88, 89, 111, 112, 114, 115, 118, 124～128, 138, 140, 141, 144, 146, 148～154, 160～163, 172～190, 195, 197～214, 219, 220, 223～231, 233～250, 252, 254, 255, 258～260は隆起線や平行沈線などにより懸垂文や渦巻文等を施すもので、大木8 b式に伴う。

#### 大木8 b式

148, 173～176, 178, 179, 184, 229, 233～237などは隆起線の調整も比較的丁寧であり、また、モチーフも閉鎖性があることなどから大木8 b式のなかでもやや新しい部分に相当する。



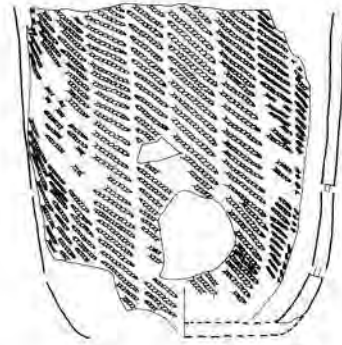
34(N017H,埋土)



35(S15W45,Ⅱ層)



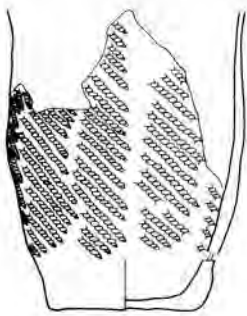
36(N07H,埋土)



37(S15W48,Ⅱ層)



38(S15W39,Ⅰ層)



40(S15W27,Ⅰ層)



41(S15W27,Ⅰ層)



42(S15W27,Ⅰ層)



43(S15W27,Ⅰ層)



44(S15W27,Ⅰ層)



45(S15W27,Ⅰ層)



46(S15W27,Ⅰ層)



47(S15W27,Ⅰ層)



39(N018H,埋土)



48(S15W27,Ⅰ層)



49(配石遺構周辺)



50(S15W30,Ⅰ層)



51(S15W30,Ⅰ層)



52(S15W30,Ⅲ層)



53(S15W30,Ⅰ層)



54(S15W30,Ⅰ層)



55(S15W33,Ⅰ層)



56(S15W33,Ⅱ層)



57(S15W33,Ⅱ層)



58(S15W33,Ⅲ層)



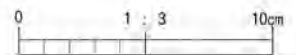
59(S15W33,Ⅰ層)



60(S15W33,Ⅱ層)



61(S15W33,Ⅱ層)



第12図 第8次調査区出土遺物(2) S15EWトレンチ



第13図 第8次調査区出土遺物(3) S15EWトレンチ

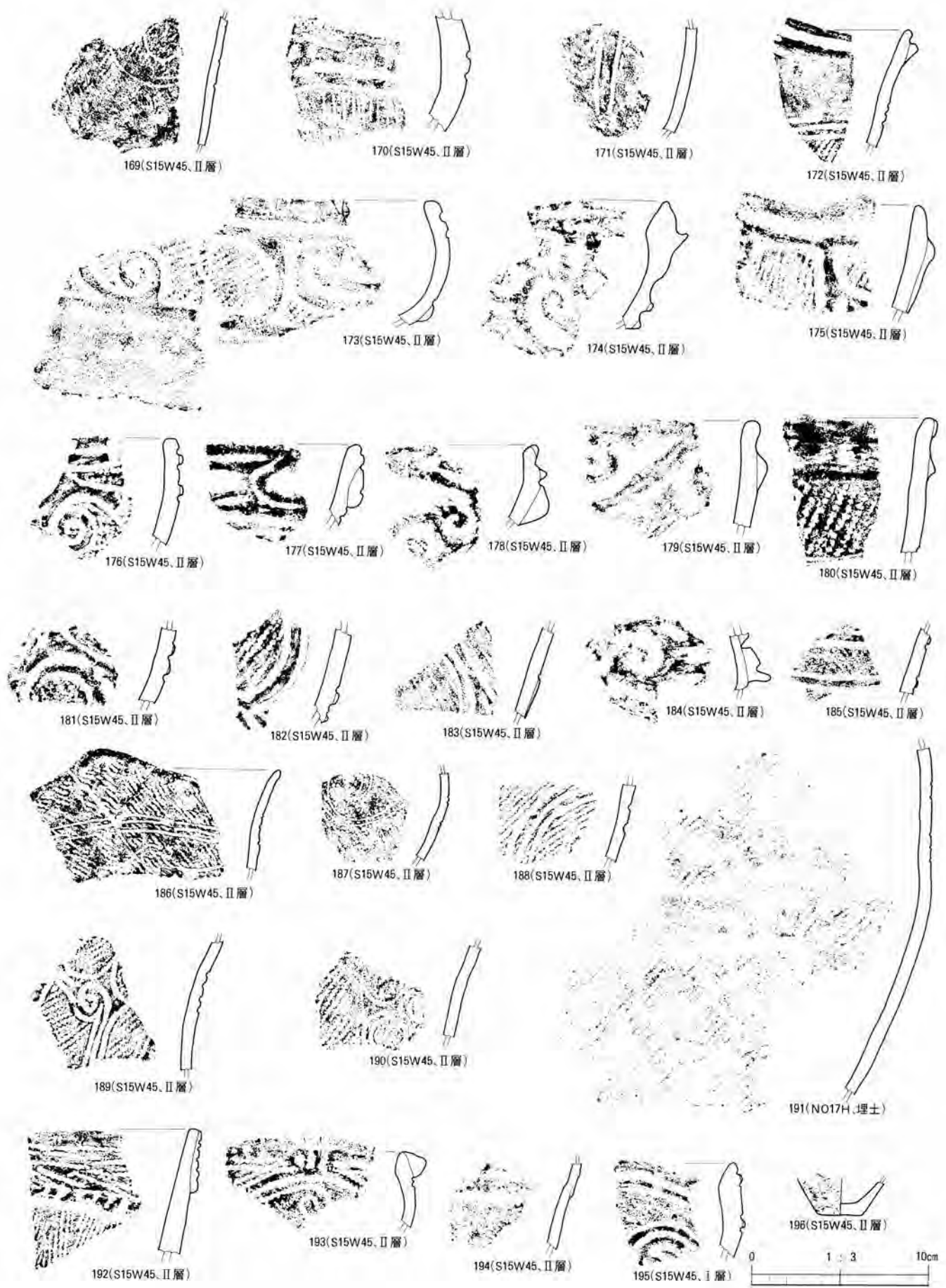


第14図 第8次調査区出土遺物(4) S15EWトレンチ





第15図 第8次調査区出土遺物(5) S15EWトレンチ

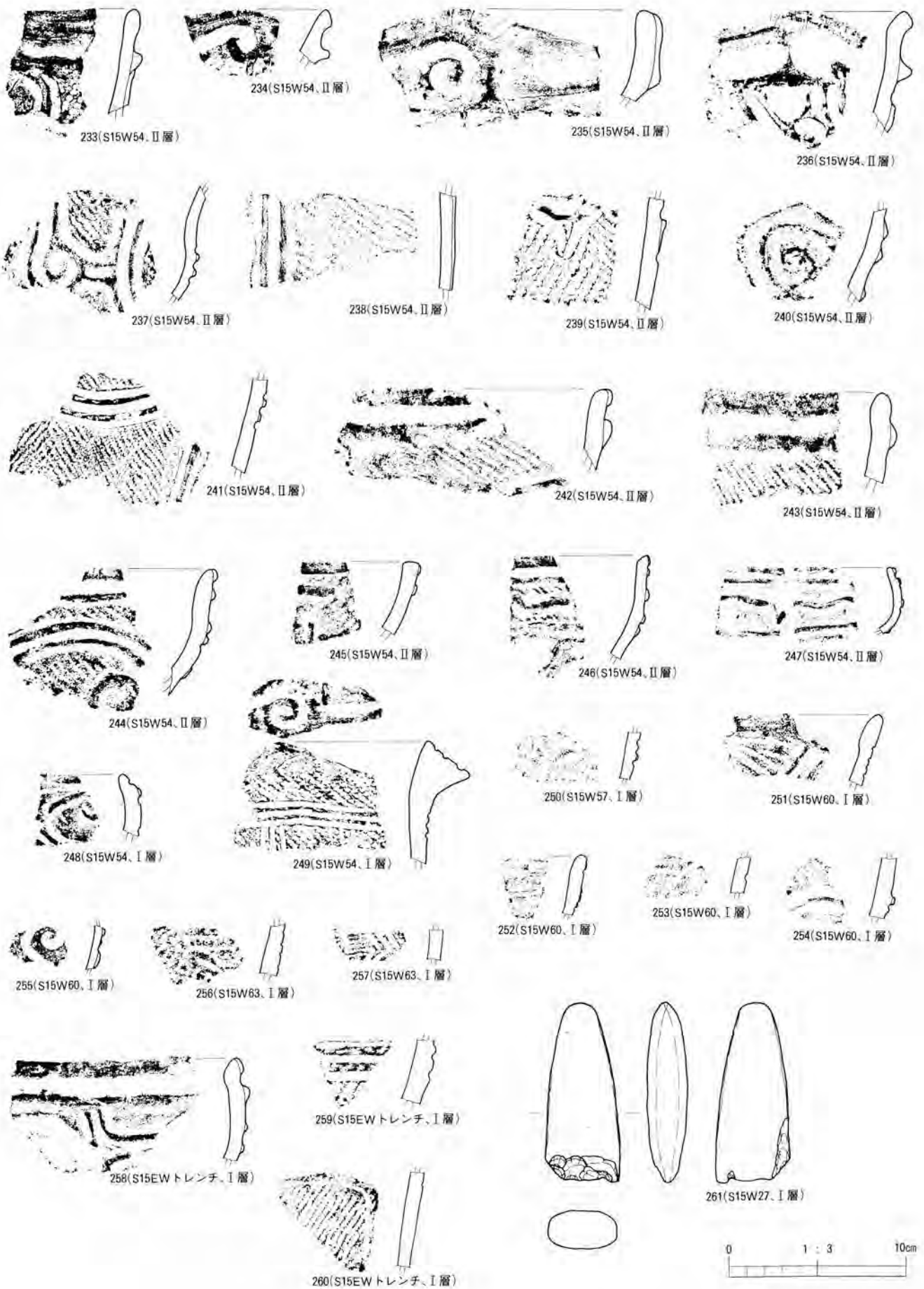


第16図 第8次調査区出土遺物(6) S15EWトレンチ





第17図 第8次調査区出土遺物(7) S15EWトレンチ



第18図 第8次調査区出土遺物(8) S15EW トレンチ

一方、197～214は隆沈線の調整がやや粗雑であり、モチーフも開放的である。また、211、212は横位波状の隆起線を施す。これらは大木8b式のなかでもやや古い部分に相当する。

以上の土器は主にS15W33～S15W54グリッドに分布するが、なかでも古手としたものはS15W48グリッドに集中する。

#### 大木8a式

90, 134, 193は大木8a式に伴うものである。

90は沈線により施文されるものである。134は口縁部に横位孤状の貼付を有するものである。

193は浅鉢であるが、原体圧痕により施文されるもので、大木7b式に上る可能性もある。

91～93, 192, 251, 256は大木7式に伴うものである。

#### 大木7a式

91～93は半截竹管により施文されるもので大木7a式に伴うものであろう。

192, 251, 256は原体圧痕により施文されるものである。

132, 215, 217, 221, 222は縄文前期に伴うものである。

215は頸部に屈曲を有する深鉢で、口唇部に円形の押捺を連続する。胎土に植物繊維を含まず大木3式に伴うものであろう。

#### 大木3式

他のものは、胎土に植物繊維を含むもので縄文前期初頭に伴う。

#### 石器 (第11図, 第18図～第23図)

#### 石錐

268は石錐である。打点方向を機能部とするもので、機能部周辺のみを調整する。

#### 石鏃

269～272は石鏃である。いずれも三角鏃であるが、269は凸基、他のものは凹基である。

271は、やや長脚である。

#### 石筥

275は石筥である。横長の剥片を素材とし、側縁部と背面の下端部に調整が認められるが、特に下端部の調整が著しく、刃部は搔器様となる。

276は下端部のみ破片であるが、やはり石筥かと思われる。下端の刃部は搔器様となる。

#### 削器

273, 277～279は不定形であるが、削器である。いずれも側縁部を中心に簡略的な刃部調整が認められる。

#### 使用痕のある剥片

280は使用痕のある剥片である。不定形剥片の側縁部に使用時のものと思われる微細な剥離が認められる。

#### 磨製石斧

261, 284～287は磨製石斧である。

261は、やや緻密な石材を用いるもので、全面ともに良く研磨されている。刃部付近に剥離が認められ、欠損後に再利用されたものと思われる。

他のものは、やや軟質な石材を用いるもので、全面に成形時の敲打痕が認められる。284は背面の刃部付近に自然面を残している。

いずれも体部中央にて折損したもので、この段階のまま使用されたものと思われる。

#### 打製石斧

288～294は打製石斧である。

288～292は比較的定形的なものであり、扁平円礫の周縁を打ち欠いて調整し、自然面を大きく残す。288の側縁部に敲打痕が認められることから、これらの石器の主要な機能部が側縁部であるのか、下端部であるのかには決めかねるが、形態や調整方法から下端部を刃部とする可能性が大きいものと思われる。

293は前述したものと形態が異なるもので、側縁部を粗く打ち欠いた後に下端部を調整して

刃部としている。

294は扁平円礫の3辺を調整し、片刃の刃部を作り出すもので、礫器(chopper)の可能性もある。

敲打磨石

295～299, 301～304は敲打磨石である。

295～298は楕円形礫の側縁部を機能磨面とするものである。

297は機能磨面に連続して両面に調整磨面が認められる。

298は断面が三角形を呈し、一方の側縁に機能磨面(敲打磨面)を有し、もう一側縁に敲打痕が伴う。

299も扁平楕円礫の一側縁を機能磨面とするが、端部と一側縁に敲打痕が伴う。

301, 303は楕円形礫の端部を使用するもので、301は一方の側縁にのみ、303は両端部に機能磨面を有する。

302, 304は扁平円礫の周縁を機能磨面とするものである。

305～308は敲石である。

敲石

305は全面に、306は周縁に、307は一方の端部に、308は一側縁に、それぞれ敲打痕が認められるものである。

300, 309, 310は砥石である。

砥石

300, 310は平板的でやや硬質な砂岩を素材とするもので、使用時の擦痕等が認められる。

309は、やや軟質な砂岩を素材とするもので、側縁部に整形時の敲打痕が認められる。機能面は平坦であり、中央部に幅1.4cmと0.9cmの溝状の使用痕がある。攻玉用の砥石である可能性も指摘できる。

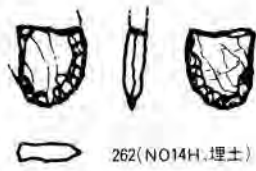
30, 31は砥石または石皿の残欠であるが、破損が著しくいずれとも決めかねる。

#### 土製品(第20図)

282, 283はミニチュア土器である。283はソロバン玉状を呈する浅鉢で、282は底部の張り出す深鉢である。いずれも無文であり、時期は特定できない。

#### 石製品(第20図)

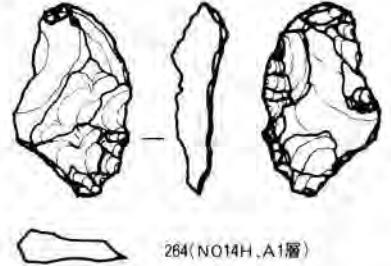
281は石棒と思われるものの破片で、表面に擦痕が認められる。



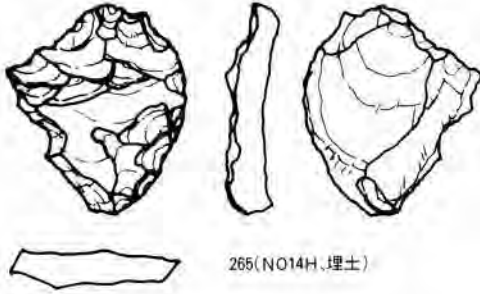
262(N014H,埋土)



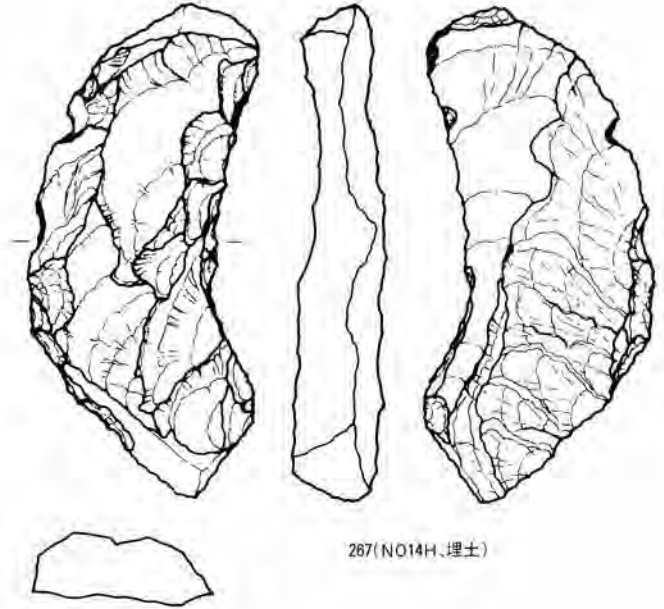
263(N014H,埋土)



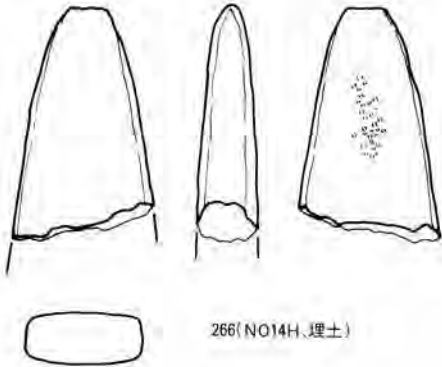
264(N014H,A1層)



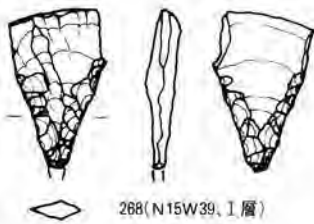
265(N014H,埋土)



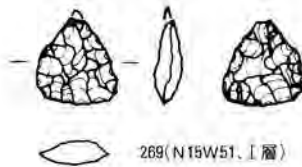
267(N014H,埋土)



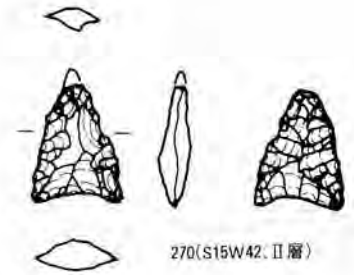
266(N014H,埋土)



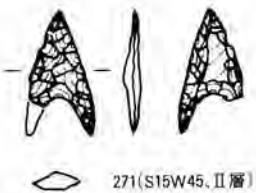
268(N15W39,Ⅰ層)



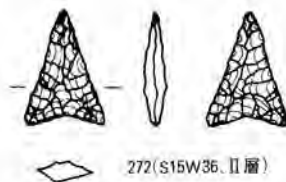
269(N15W51,Ⅰ層)



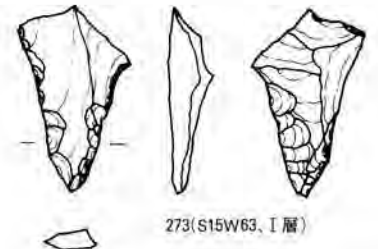
270(S15W42,Ⅱ層)



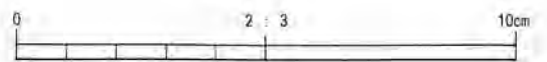
271(S15W45,Ⅱ層)



272(S15W36,Ⅱ層)



273(S15W63,Ⅰ層)

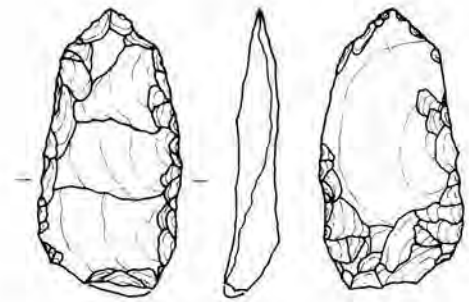


第19図 第8次調査区出土遺物(9) No.14H、N15EWトレンチ、S15EWトレンチ

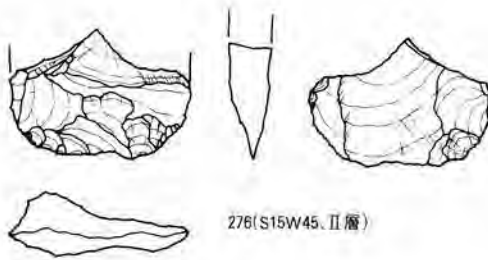




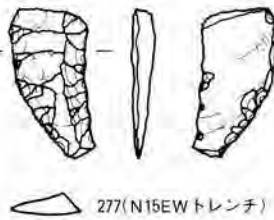
275(北貝塚、A1区、I層)



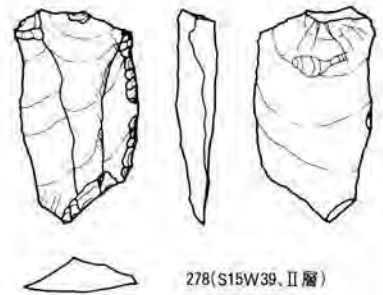
275(S15W27、I層)



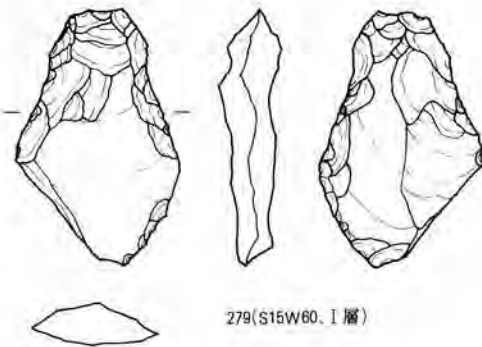
276(S15W45、II層)



277(N15EWトレンチ)



278(S15W39、II層)



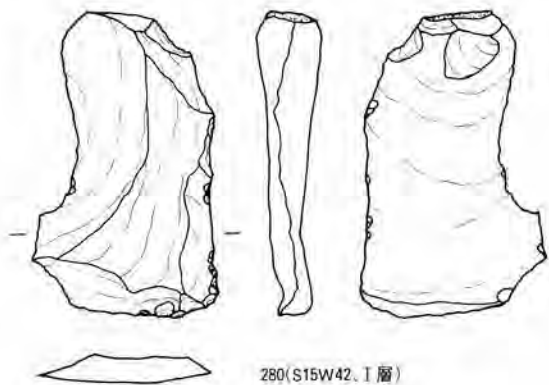
279(S15W60、I層)



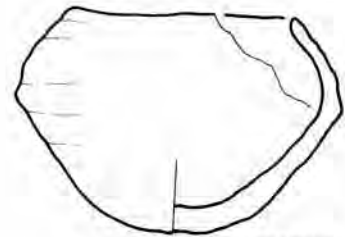
281(S15W54、II層)



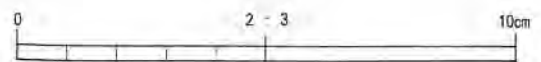
282(S15W33、I層)



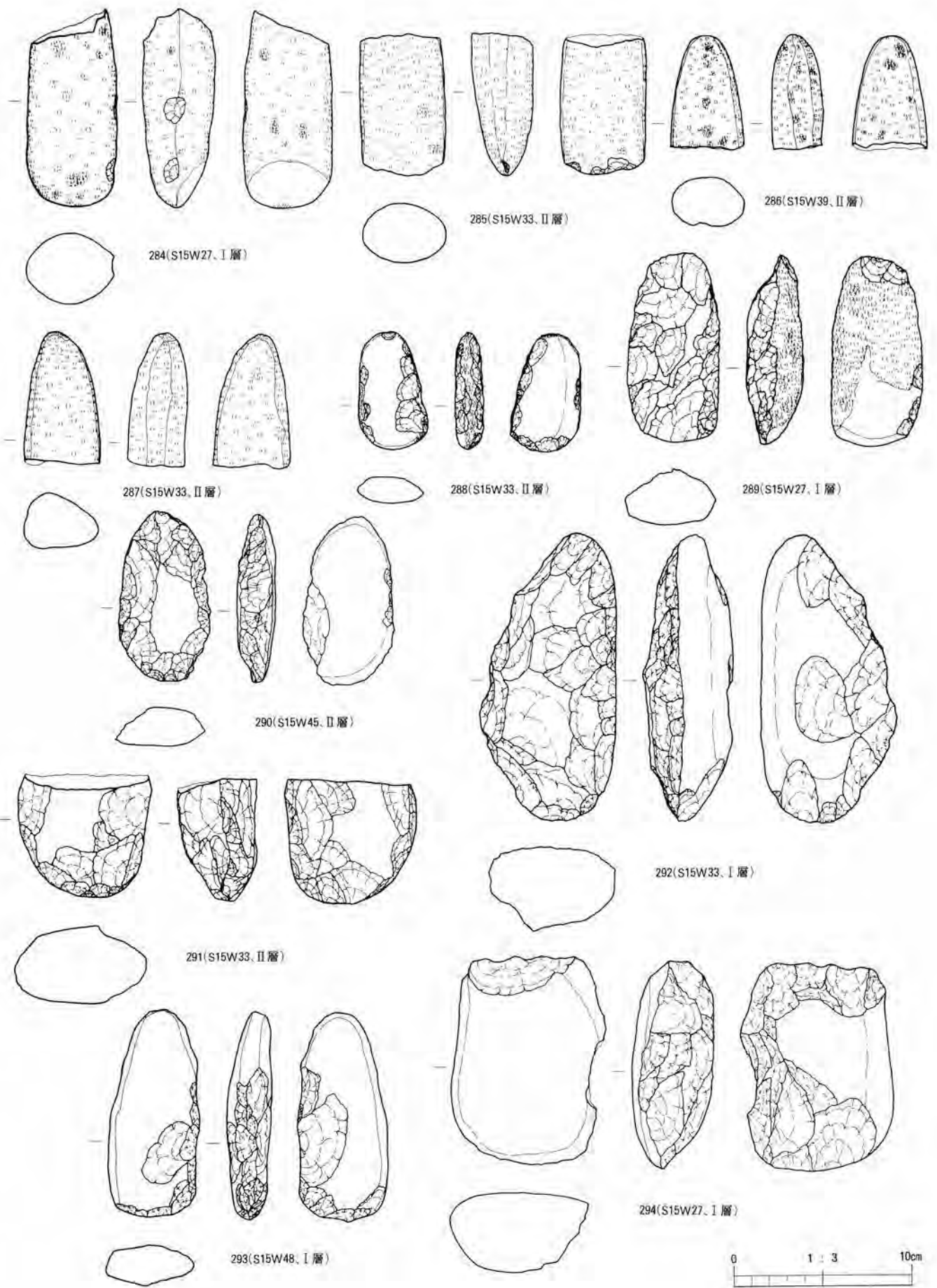
280(S15W42、I層)



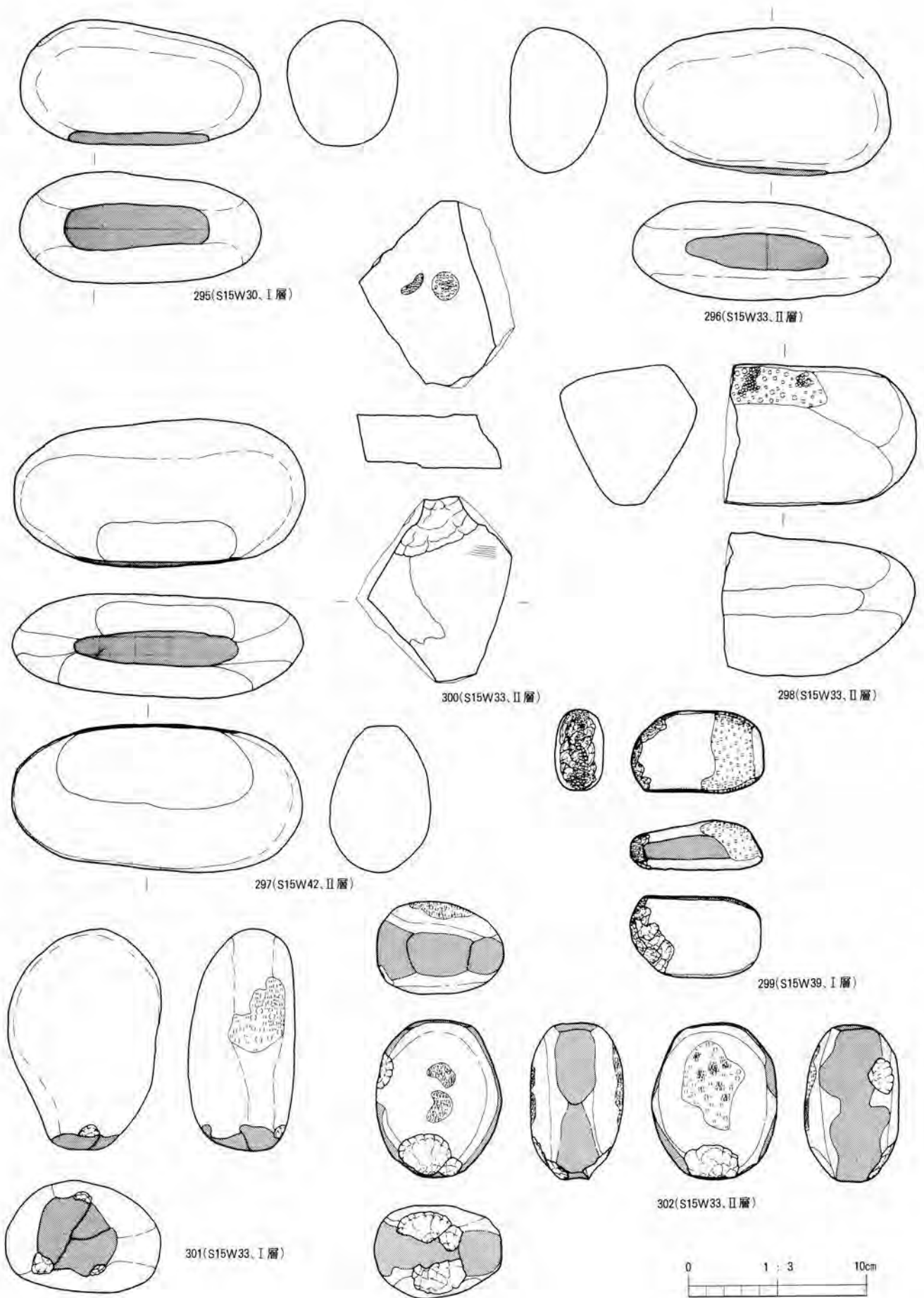
283(S15W33、I層)



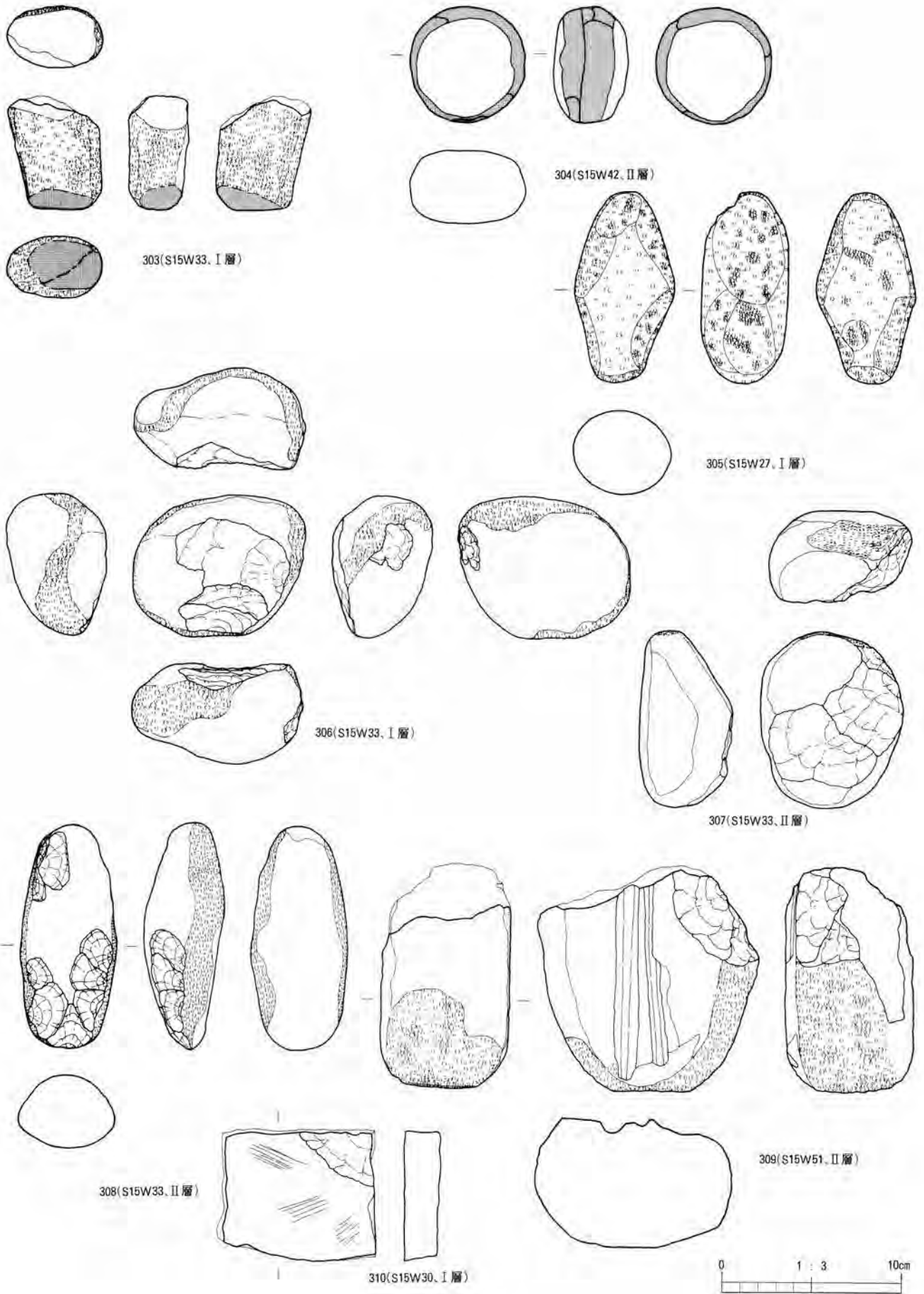
第20図 第8次調査区出土遺物(10) N15EWトレンチ、S15EWトレンチ



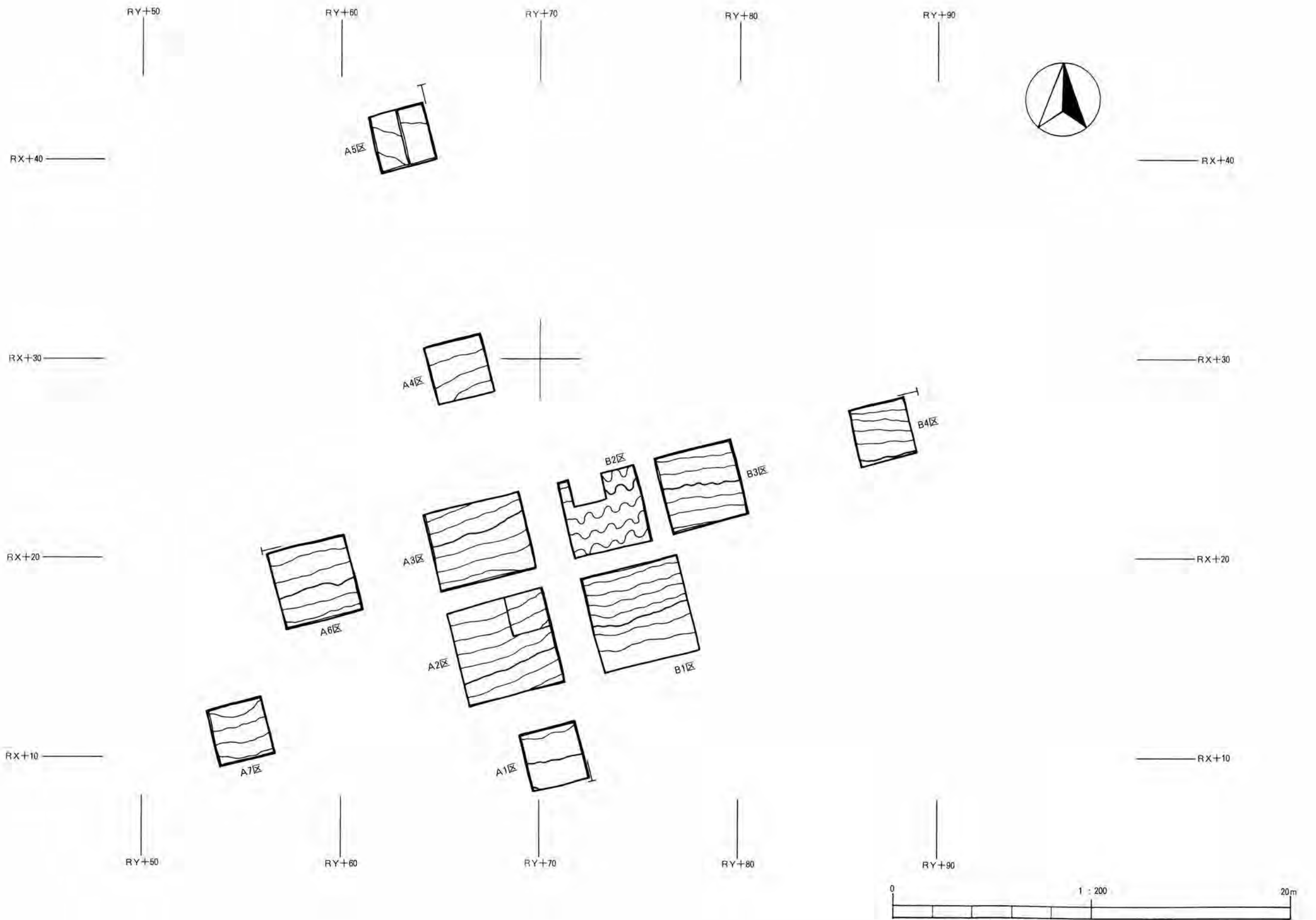
第21図 第8次調査区出土遺物(1) S15EWトレンチ



第22図 第8次調査区出土遺物(12) S15EWトレンチ



第23図 第8次調査区出土遺物(13) S15EWトレンチ



第24図 北貝塚調査区設定図





#### (4) 北斜面部（北貝塚）

##### (a) 基本層序

部分的に精査を実施したA 7区によると、堆積土はⅠ層～ⅩⅦ層に大別される。Ⅲ層以下は遺物包含層であり、他の地点との整合性がないため層名に調査区名を冠した。

Ⅰ層は表土層で、しまりのない暗褐色粘質土を基本土とする。

Ⅱ層は旧表土層で、Ⅰ層より明るい暗褐色粘質土を基本土とする。やはりしまりが無い。

7-Ⅲ層は、グリッド全体を覆う遺物包含層である。やや明るい暗褐色粘質土を基本土とし、黒褐色土塊や焼土塊をやや多く含む。やややわらかく、ややしまりが無い。炭化物粒を少量含む。

7-Ⅳ層は、遺物包含層である。南西方向から流れ込む形で堆積しており、Ⅲ層とは不整合の関係となる。7-Ⅳ層は土層断面によると3層に細分されるが、精査時には判別できず一括した。

7-Ⅳ層は、やや明るい暗褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊や焼土塊を含む。固さ、しまりともに中程度である。炭化物粒を少量含む。

7-Ⅴ層は、暗褐色粘質土を基本土とし、黒褐色土塊や褐色土塊を含む。固さ、しまりともに中程度である。炭化物粒をやや多く含む。

7-Ⅵ層は、褐色シルト質土を基本土とし、暗褐色土塊などをやや多く含む。固さ、しまりともに中程度である。炭化物粒を含む。

7-Ⅶ層は、やや明るい暗褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊などを含む。固さ、しまりともに中程度である。炭化物粒をやや多く含む。

掘り上げた堆積土は以上であるが、これらの下層にも遺物包含層が連続して堆積している。層相や各層位の詳細は不明であるが、仮に層名を付し、概要を記す。

7Ⅷ層は、やや明るい褐色シルト質土を基本土とし、炭化物粒を含む。

7-Ⅸ層と7-Ⅹ層は未注記。

7-ⅩⅠ層は、やや明るい暗褐色粘質土を基本土とし、炭化物粒を多量に含む。

7-ⅩⅡ層は、黄褐色シルト質土を基本土とし、炭化物粒を少量含む。

7-ⅩⅢ層は、暗褐色粘質土を基本土とし、黒褐色土塊や地山ブロックおよび炭化物粒を多量に含む。

7-ⅩⅣ層は、褐色粘質土を基本土とし、地山ブロックを含むほか、炭化物粒を少量含む。

7-ⅩⅤ層は、やや明るい暗褐色粘質土を基本土とし、炭化物粒を含む。

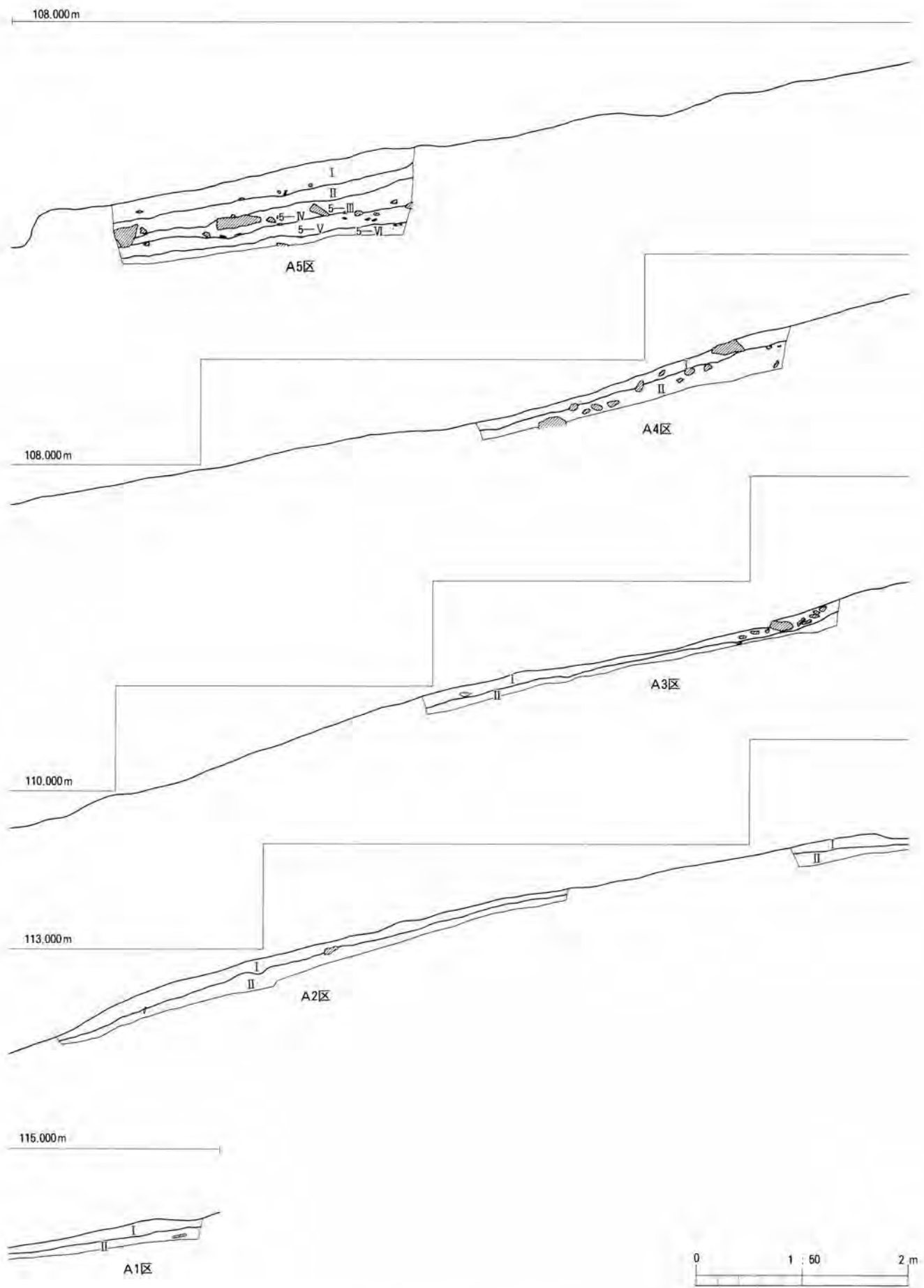
7-ⅩⅥ層は、暗褐色粘質土を基本土とし、炭化物粒を含む。

7-ⅩⅦ層は、やや明るい暗褐色粘質土を基本土とし、炭化物粒を少量含む。

斜面最下部に設定したA 5区でも部分的な精査を実施しており、7層の堆積層を確認している。

Ⅰ層は表土層で、やや明るい黒褐色粘質土を基本土とし、暗褐色土塊を含む。やわらかく、しまりが無い。T-5グリッドのⅠ層に対応する。

Ⅱ層は旧表土層で、黒褐色粘質土を基本土とし、暗褐色土塊などを含む。やわらかく、しまりが無い。T-5グリッドのⅡ層に対応する。



第25図 北貝塚土層断面図(1)

5-Ⅲ層は、やや暗い黒褐色粘質土を基本土とし、黒色土塊、暗褐色土塊、褐色土塊を含む。やややわらかく、ややしまりが無い。

5-Ⅳ層は、暗褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊や黒褐色土塊をやや多く含む。固さ、しまりともに中程度である。

5-Ⅴ層は、褐色粘質土を基本土とし暗褐色粘質土を少量含む。固く、しまりは中程度である。

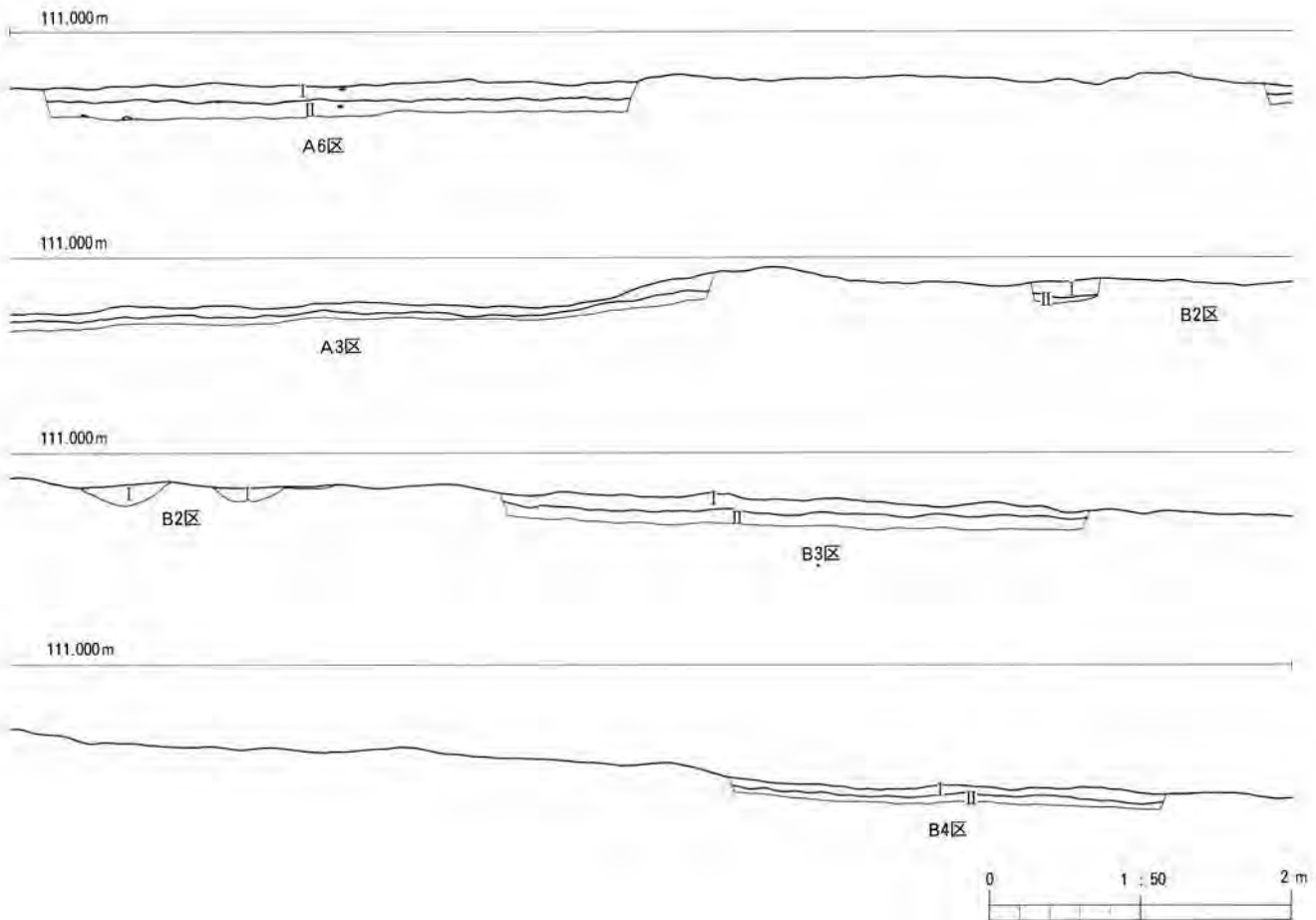
5-Ⅵ層は、2層に細分される。5-Ⅵa層はやや明るい暗褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊などを少量含む。固く、しまりは中程度である。5-Ⅵb層は暗褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊などを少量含む。やや固く、しまりは中程度である。

5-Ⅳ層～5-Ⅵ層は、縄文時代の遺物包含層であるが、A7区のどの層と対応するのかわからない。

B4区でも遺物包含層を検出している。

I層は表土層であり、他の調査区に対応するが、II層は他の調査区とは異なり地山と同質の褐色粘質土を基本土とするが、ややしまりが無い。

BⅢ層は暗褐色粘質土を基本土とし、この層以下が遺物包含層となっている。



第26図 北貝塚土層断面図(2)

(b) 検出された遺構・遺物

この地点での検出遺構は無い。

貝層

A 2 区、A 3 区、B 1 区、B 2 区にまたがって貝層の分布が認められたが、主体となるのは A 2 区、A 3 区、B 1 区であり、検出面での肉眼による分布範囲は、直径10mほどである。

貝層は検出のみにとどめたため、層厚や内容物についての詳細は不明であるが、攪乱穴での観察によると、破碎された貝殻を多量に含むものであった。

また、貝層の周辺の遺物包含層中にも獣骨等の動物遺体を含む層があり、これらの層が貝層を広くとりまいているようである。詳細については来年度以降ボーリング調査にて対応したい。

貝層周辺出土土器

321, 322, 324~334, 337~340, 346, 361~369は貝層上面のクリーニング中に得られた遺物である。

大木 9 式

321, 322, 324は磨消技法によるもので、縦位の区画文を施す。大木 9 式に伴う。

363 は波頂部に隆沈線を施すもので、大木 8 b 式~大木 9 式に伴う。

大木 8 b 式

326~334, 337, 361, 364, 366は隆沈線により渦巻文等を施すもので、大木 8 b 式に伴う。

365 はキャリバー形深鉢で、沈線を伴う隆起線にて波状のモチーフを施す。大木 8 a 式に伴う。

他のものはこれら以前の型式に伴うものである。

また、周辺部の I 層~II 層及び攪乱穴からの出土土器は直接貝層に伴うものではないが、347 が磨消技法によるもので、縄文中期末葉~縄文後期初頭に、360が大木10式に伴うが、他のものは大木 8 b 式~大木 9 式に伴う。

A 4 区出土土器

4-III層出土土器 (398~417)

大木 8 b 式

398~410は隆起線や平行沈線により渦巻文や懸垂文を施すもので、大木 8 b 式に伴う。

411~413はキャリバー形深鉢で、口縁部文様帯に隆起線による波状文等を施し、大木 8 a 式に伴う。

他のものは、これら以前の型式に伴う。

I 層~II 層は比較的新しい時期の堆積層で、出土遺物は型式的なまとまりを持たない。

大木10式

430は磨消技法により、横位のモチーフを施すもので、大木10式に伴う。

418, 431も磨消技法によるが大木 9 式に伴う。

419~426, 433は隆沈線や平行沈線により施文されるもので、大木 8 b 式に伴う。

他のものはこれら以前の型式に伴う。

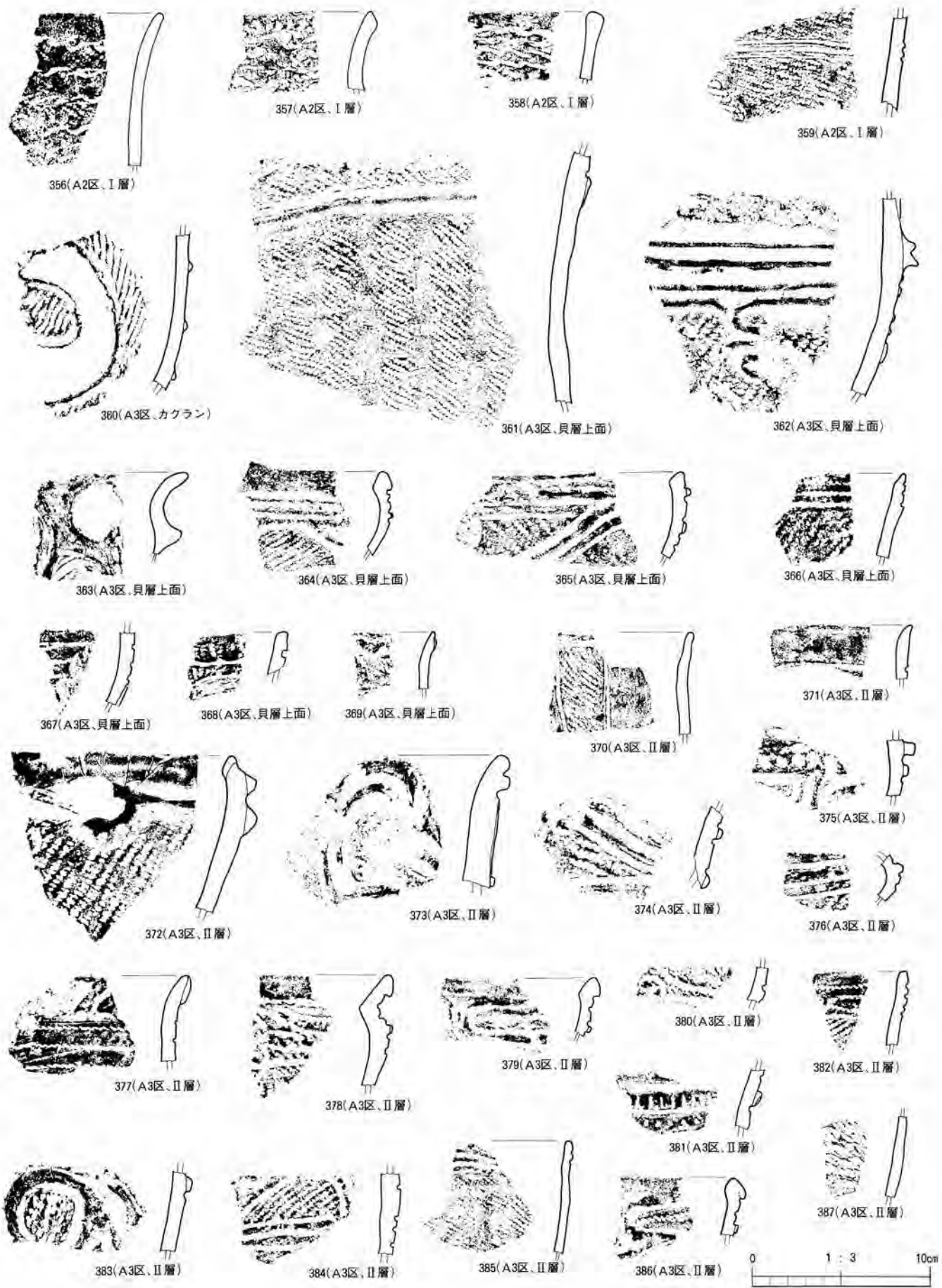
A 5 区出土土器

5-VI層出土土器 (435~446)

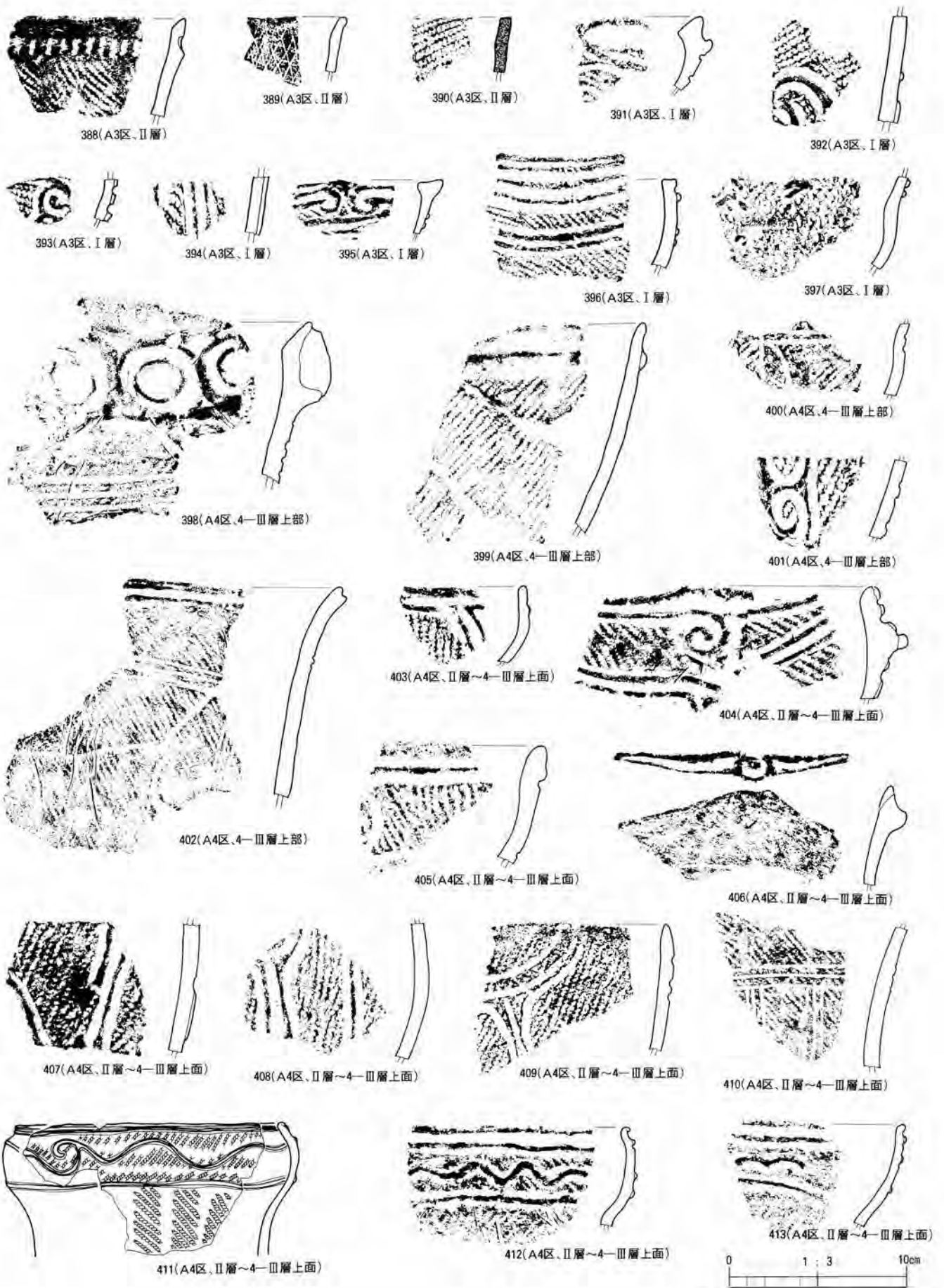




第27図 第8次調査区出土遺物(14) 北貝塚



第28図 第8次調査区出土遺物(15) 北貝塚

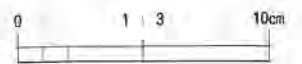
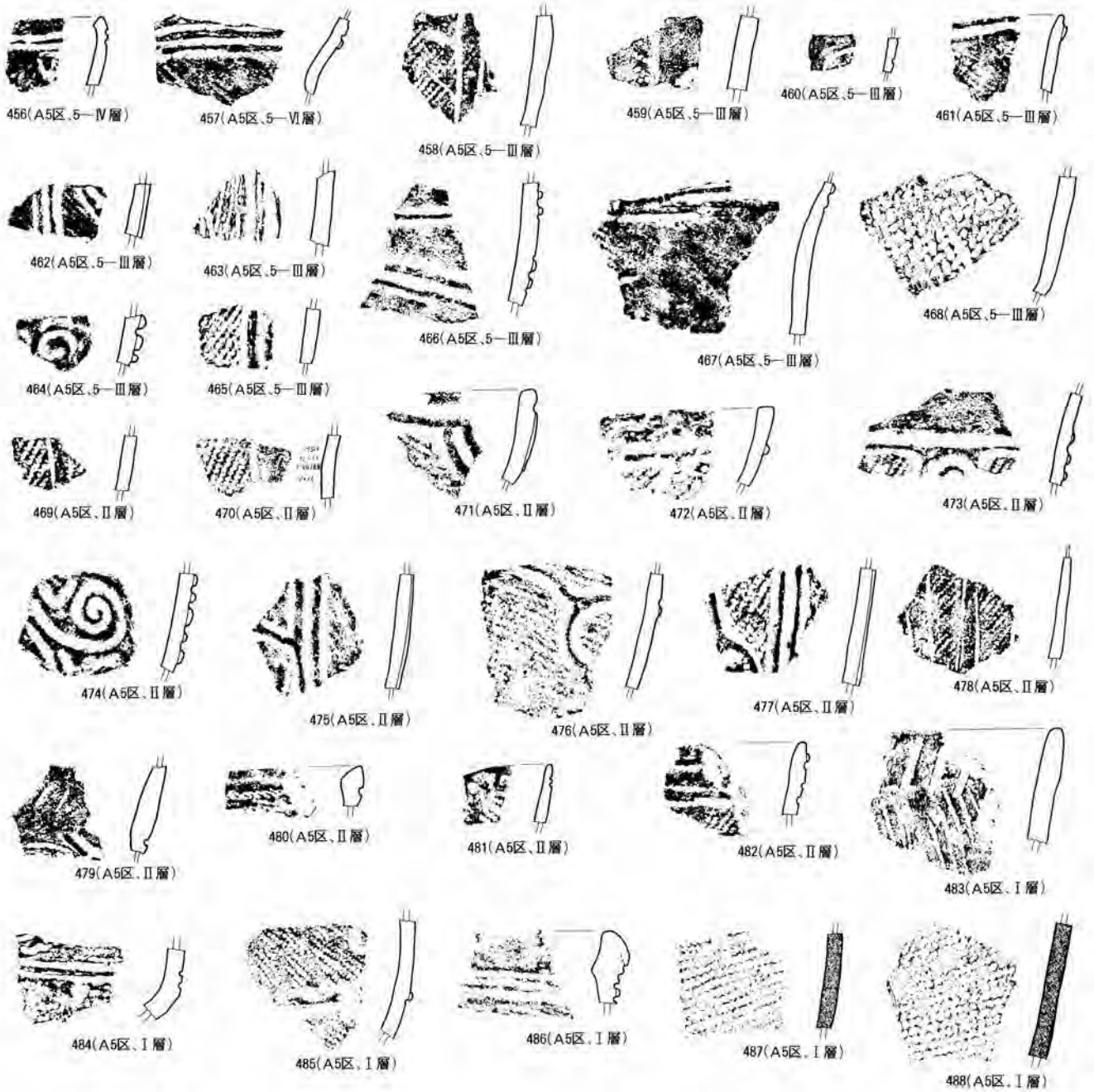


第29図 第8次調査区出土遺物(16) 北貝塚



第30図 第8次調査区出土遺物(17) 北貝塚





第31図 第8次調査区出土遺物(18) 北貝塚



大木8 b 式の古い段階 435～437は隆沈線などにより施文されるもので、大木8 b 式の古い段階に伴う。  
438～441は半截竹管などにより施文せられるもので、縄文中期初頭に伴うものであろう。  
442～446は縄文前期に伴うものである。  
442, 444は胎土に植物繊維を含まず、縄文前期中葉以降に伴うと思われる。  
443, 445, 446は胎土に植物繊維を含み、縄文前期前葉に伴うものと思われる。

#### 5-V層出土土器 (447～455)

大木8 b 式 447～450はいずれも隆沈線により施文されるもので、大木8 b 式に伴う。  
451～453はいずれも平行沈線により施文されるもので、大木8 a 式に伴う。  
454は沈線による鋸歯状文を施すもので、大木3式に伴う。  
455は胎土に植物繊維を含むもので、縄文前期前葉に伴う。

#### 5-IV層出土土器 (456, 457)

大木8 b 式 456, 457は隆沈線や平行沈線により施文されるもので、大木8 b 式に伴う。

#### 5-III層出土土器 (458～468)

大木9式 458～460は磨消技法により、縦位の区画文を施すもので、大木9式に伴う。  
461～465は隆沈線により渦巻文等を施すもので、大木8 b 式に伴う。466, 467も大木8 b 式に伴うものであるが、比較的古い段階のものである。  
468は胎土に植物繊維を含み、縄文前期前葉に伴う。

I層～II層は比較的新しい時期の堆積層であり、II層からは船釘状の鉄製品(第47図785)が出土している。他のものについては、詳述を避ける。

#### A7区出土土器

A7区からは合計17層の遺物包含層を確認した。大半を検出のみにとどめたために各層からの出土土器はさほど多くはないが、型的にまとまりを有している。

#### 7-XVII層出土土器 (489～494)

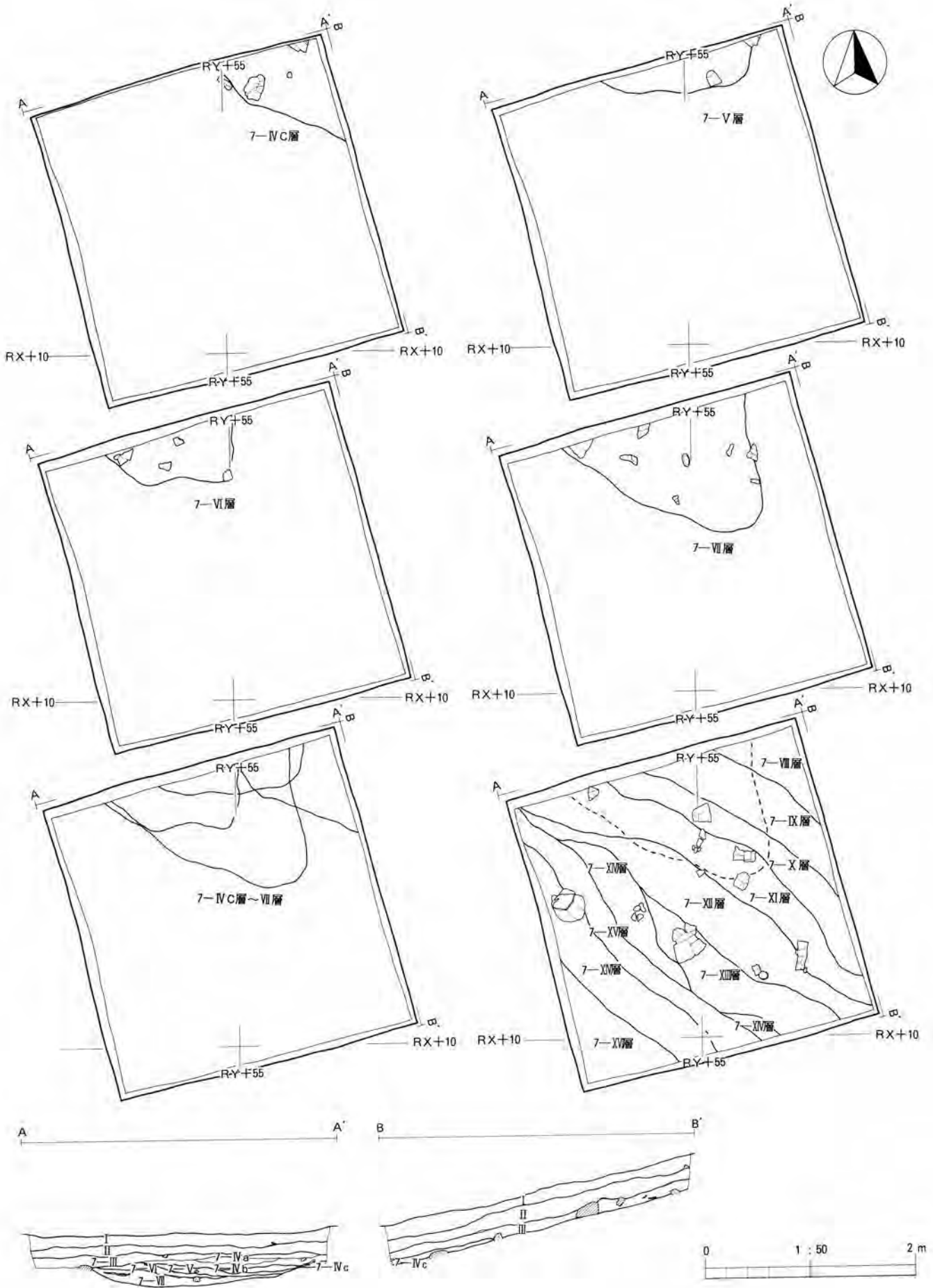
489は、やや大形のキャリパー形深鉢で、口縁部は4単位の波頂を有する大波状口縁都なる。波頂部には円孔を穿つ。口縁部文様帯には沈線を伴う隆起線にて波状に展開するモチーフが施されるが、波頭部に小渦巻文を施すことや、隆起線や沈線の端部を反転させることにより文様帯内部を区画している。また、波頭部には刻目を有する小突起を配する。

490, 491もキャリパー形深鉢であり、489に類似するものであろう。

492は口縁部に波状の隆起線と縦位の原体圧痕文を施すものである。

493は、やや小形の深鉢で口縁部に横位1条の沈線を施す。

494は縄文のみを施す深鉢である。



第32図 A7区遺物包含層平面図

#### 7-XⅣ層出土土器 (495～499)

495, 498はキャリバー形深鉢である。495は口縁部文様帯に沈線を伴う隆起線による波条のモチーフを施し、波頭部には刻目を有する小突起を配する。489に類似している。

496は体部に沈線による渦巻文や区画文を施す。

497は口縁部の外反する小形の深鉢で、口縁部に横位2条の沈線を施す。

499は頸部に屈曲を持つ深鉢で、体部に刻目を有する隆起線による施文が認められる。大木3式に伴う。

#### 7-XⅡ層出土土器 (500～502)

500はキャリバー形深鉢で、口縁部文様帯に沈線を伴う隆起線により波状に展開するモチーフが施される。波頭部には渦巻文が伴う。

501は浅鉢である。口唇部には渦巻文を配し、口縁部文様帯には刻目状の原体圧痕文が伴う。

#### 7-XⅠ～XⅡ層出土土器 (503, 504)

503はキャリバー形深鉢で、口縁部文様帯に沈線による部分的な孤状の施文が認められる。

504は体部に隆起線による施文が認められる。

#### 7-XⅠ層出土土器 (505, 506, 508～514)

505はキャリバー形深鉢であるが、縄文のみを施す。

506, 508もキャリバー形深鉢である。口縁部文様帯に沈線を伴う隆起線による波状のモチーフを展開するが、端部の反転や他の文様要素との連絡により区画文を作出している。

513, 514は口縁部がやや外反する深鉢で、口縁部文様帯に刻目を有する隆起線を波状に配す。

510は波頂部の破片で、隆起線による施文が認められる。

509, 511, 512は沈線による施文が認められる。

大木8 a 式の古い段階

以上、7-XⅠ層～XⅦ層は大木8 a 式の古い段階に伴うものである。

#### 7-X層出土土器 (515)

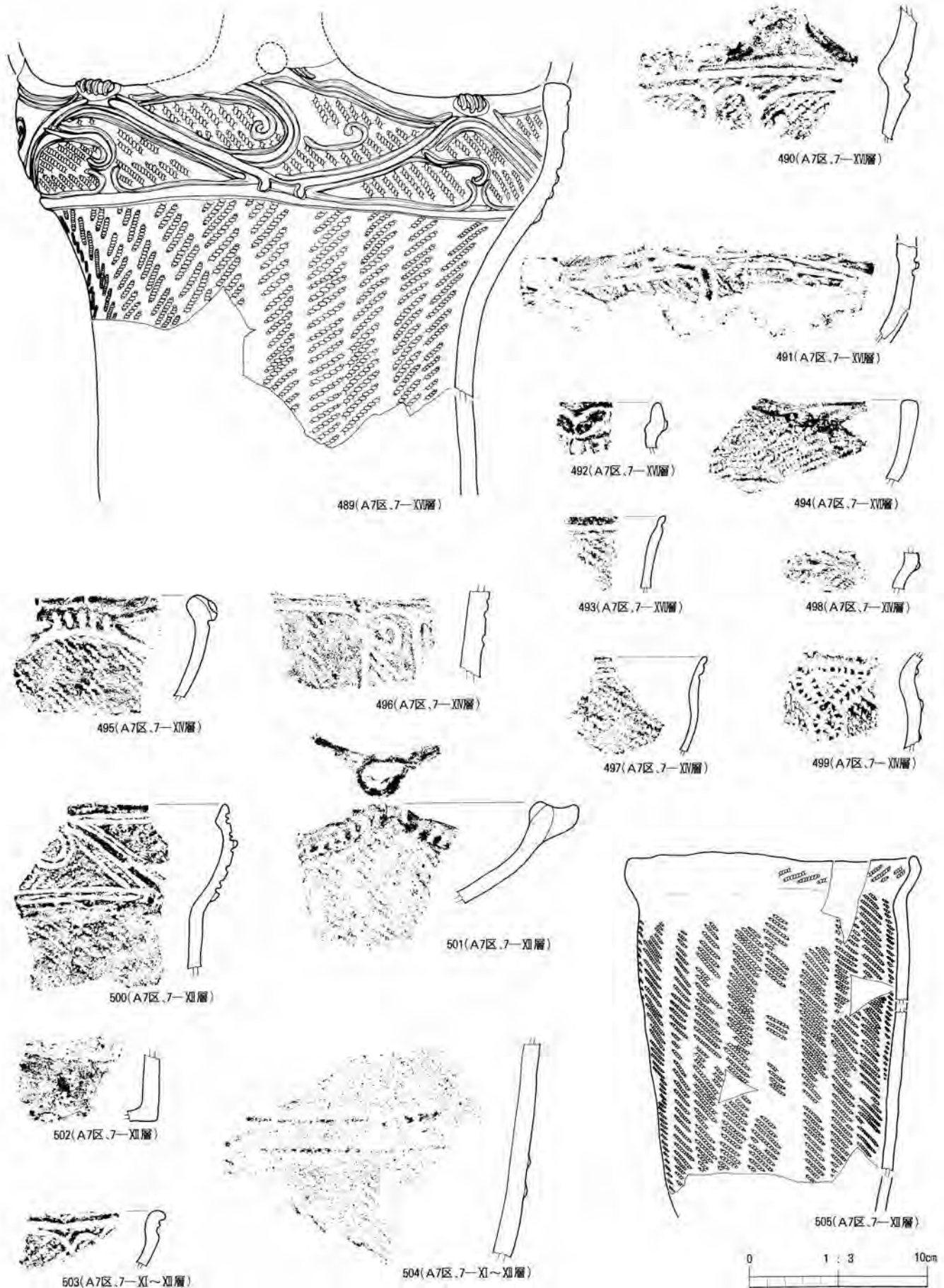
515はキャリバー形深鉢である。口縁部文様帯は上下の境界線を沈線を伴う隆起線により区画し、内部に平行沈線による波状のモチーフが展開する。波頭部には刻目を持たない小突起を配す。

#### 7-Ⅸ層出土土器 (516, 517)

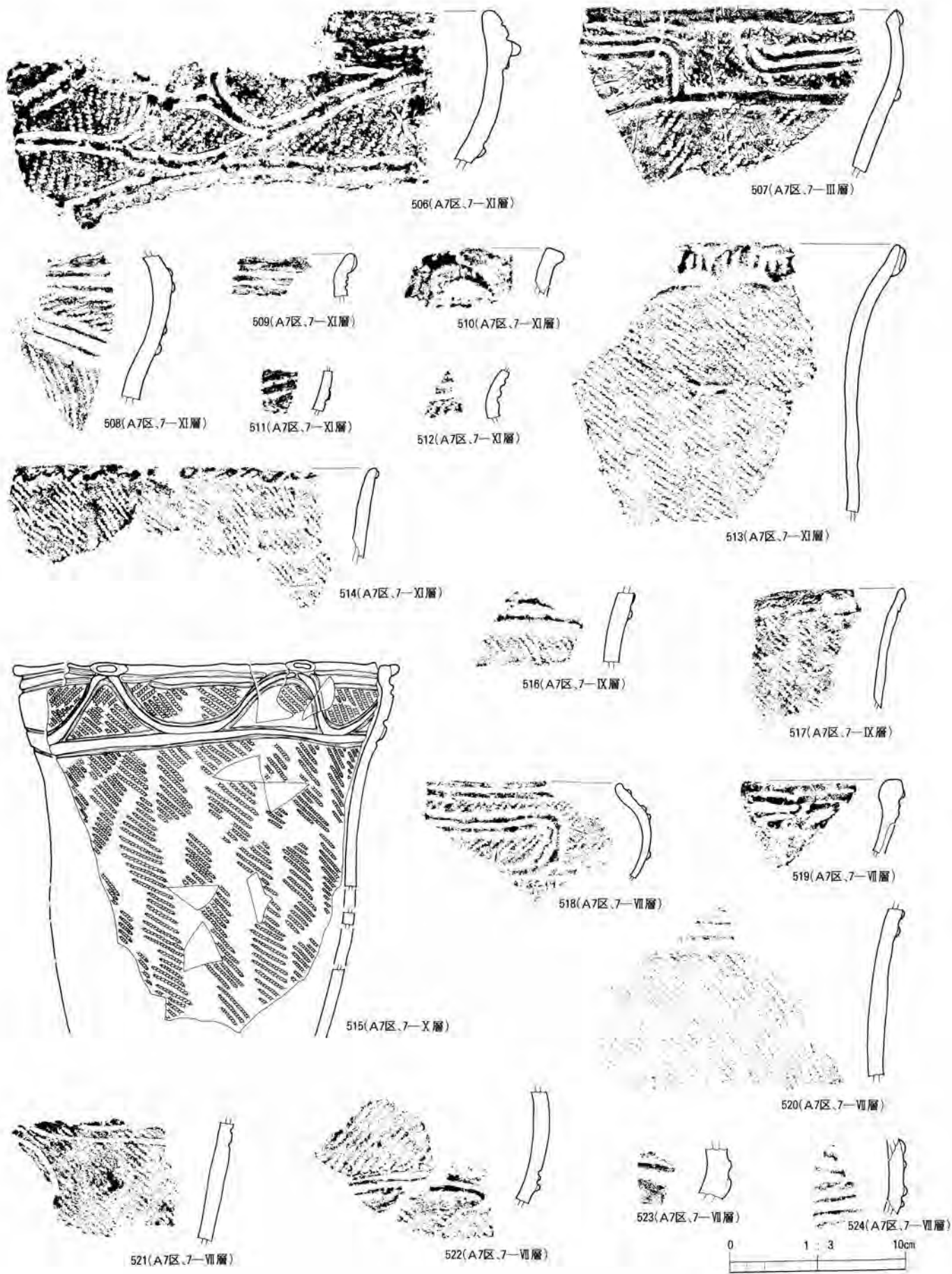
516は体部に調整された隆起線による施文が認められるもので、517は縄文のみを施す深鉢である。

#### 7-Ⅶ層出土土器 (518～524)

518, 519はキャリバー形深鉢である。いずれも調整された隆起線により施文される。518は

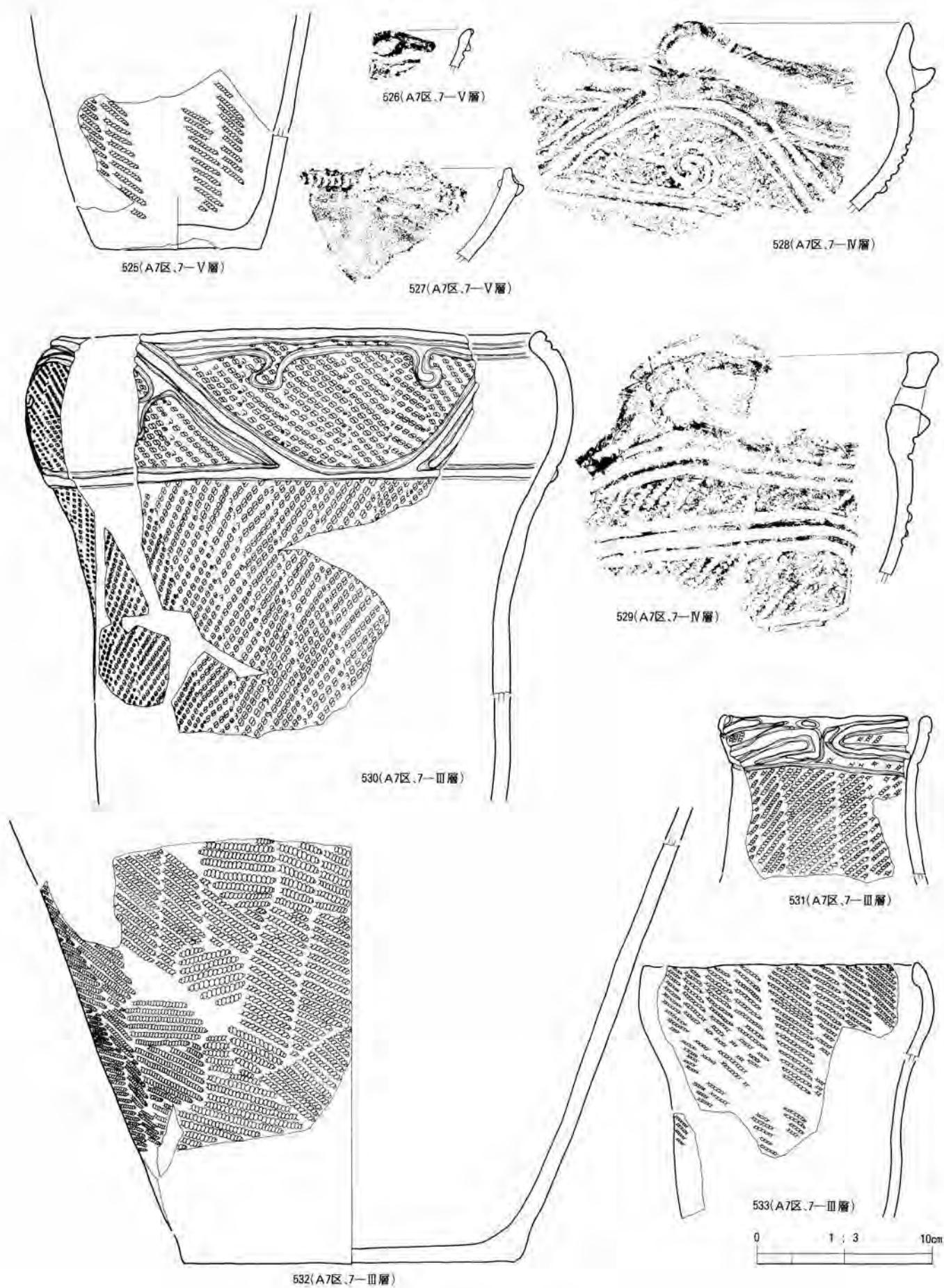


第33図 第8次調査区出土遺物(19) 北貝塚



第34図 第8次調査区出土遺物(20) 北貝塚





第35図 第8次調査区出土遺物(2) 北貝塚

クランク文的な施文となる。

520, 522～524は沈線を伴う隆起線により施文されるが、良く調整され隆沈線状となる。

521は沈線により施文される。

#### 7-V層出土土器 (525～527)

525は縄文のみの体部下半、526は隆起線により施文される小形深鉢、527は口縁部文様帯に原体圧痕による馬蹄形圧痕を施す浅鉢である。

#### 7-IV層出土土器 (528, 529)

528, 529は大波状を呈する大形のキャリパー形深鉢である。波頂部には隆起線によるC字文等が伴う。

528は口縁部文様帯に波状に展開するモチーフを施すものの区画文は作出されない。

529は隆沈線による横方向の施文が認められる。

### 大木8 a 式の新しい段階

以上、7-X層～IV層は大木8 a 式の新しい段階に伴うものである。

7-III層は比較的層厚もあり、遺物の出土量も多かったため、精査中に上半と下半に分類して遺物を取り上げた。しかし、土層断面では、明瞭な層位面を確認することはできなかった。

#### 7-III層 (下部) 出土土器 (530～582)

施文技法やモチーフから次の2つのグループに分類される。

##### A類 (507, 530, 531, 548～550, 570, 571)

530は平縁のキャリパー形深鉢である。口縁部文様帯には沈線を伴う隆起線により波状のモチーフが展開し、外側の沈線は局部的に張り出し小渦巻文状となる。波頭部には小突起を伴わないようである。

531は小形のキャリパー形深鉢であり、口縁部文様帯には沈線による区画文的な不整な施文が認められる。

507は口縁部文様帯に調整された隆起線により、クランク状文を施す。

548～550は同一個体の可能性が強い。口縁部文様帯には平行沈線により波状文のくずれた山形文を連続させ、頂部間を一部孤状の沈線にて連絡している。

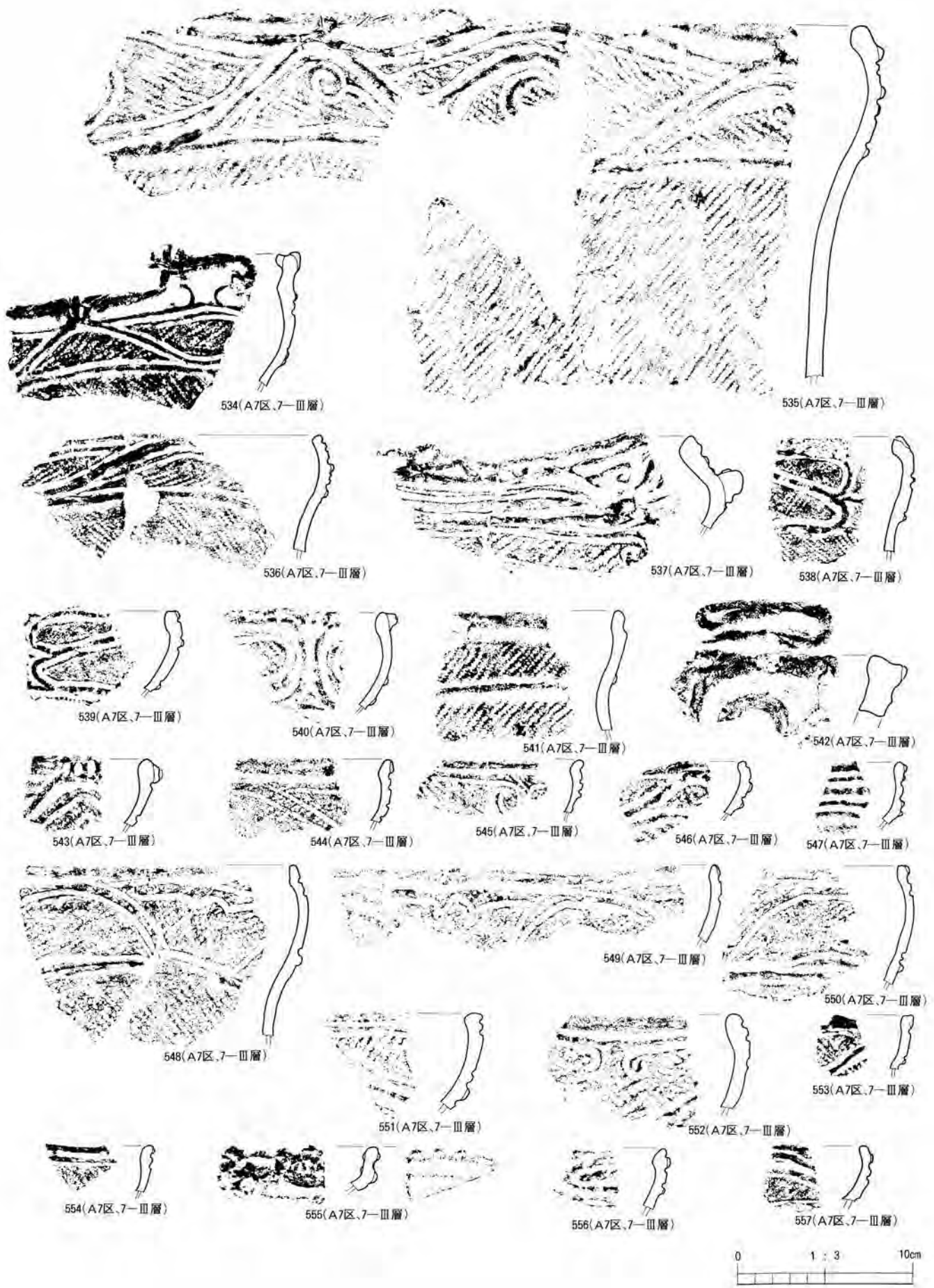
570は口縁部の内湾する深鉢である。口縁部文様帯には横位S字状の貼付けを施し、これを横位波状等の隆起線により連絡する。

体部文様帯には隆起線による波状懸垂文や平行沈線による施文が認められる。

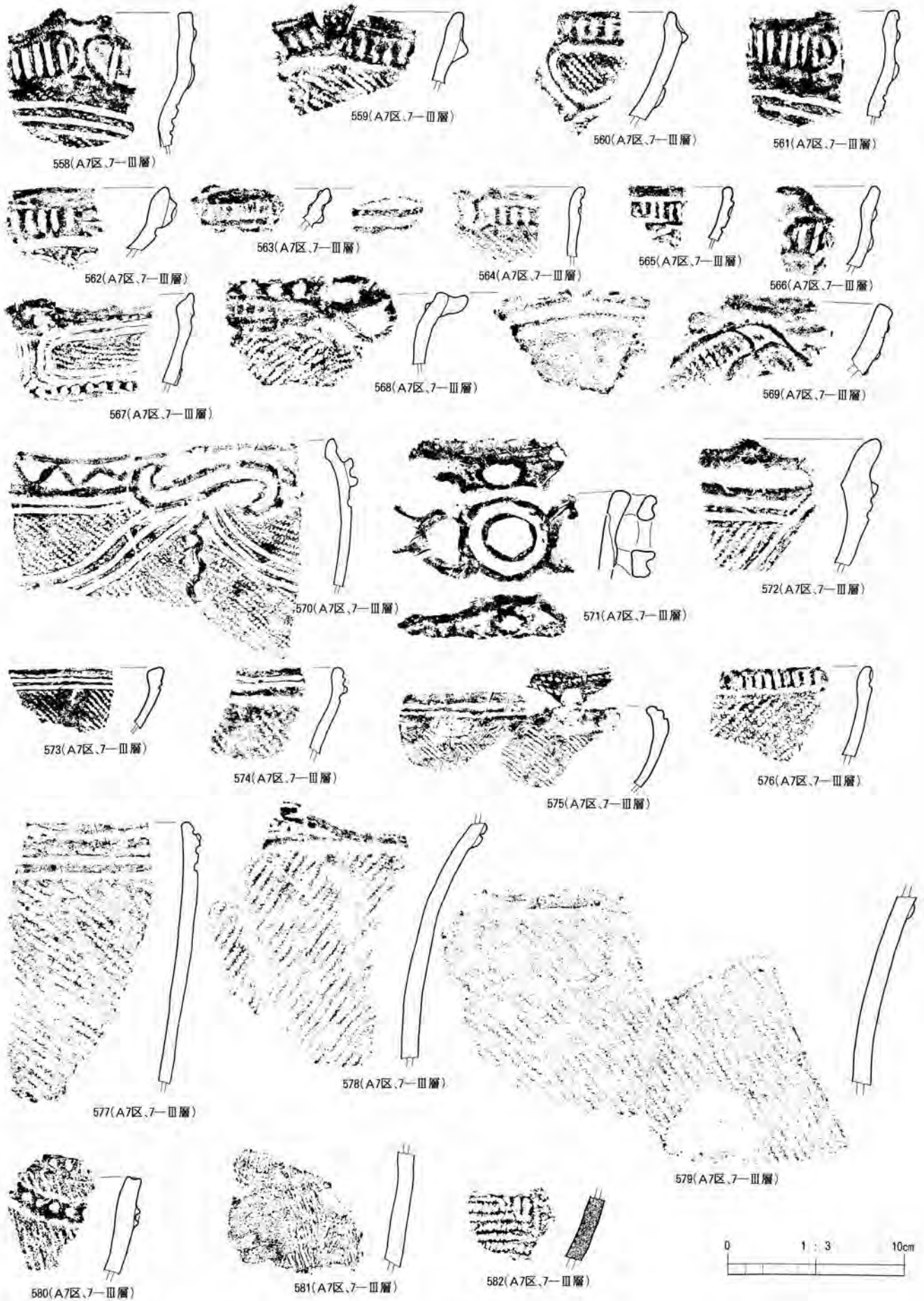
571は口縁部に施された透しを有する立体的な把手部である。

534～536もキャリパー形深鉢である。口縁部は4単位ほどの大波状を呈し、535は波頂部に横位S字文を施す。

口縁部文様帯にはいずれも沈線を伴う隆起線により波状のモチーフを展開する。534は波頭部に小渦巻文を配すが、区画文は作り出さない。

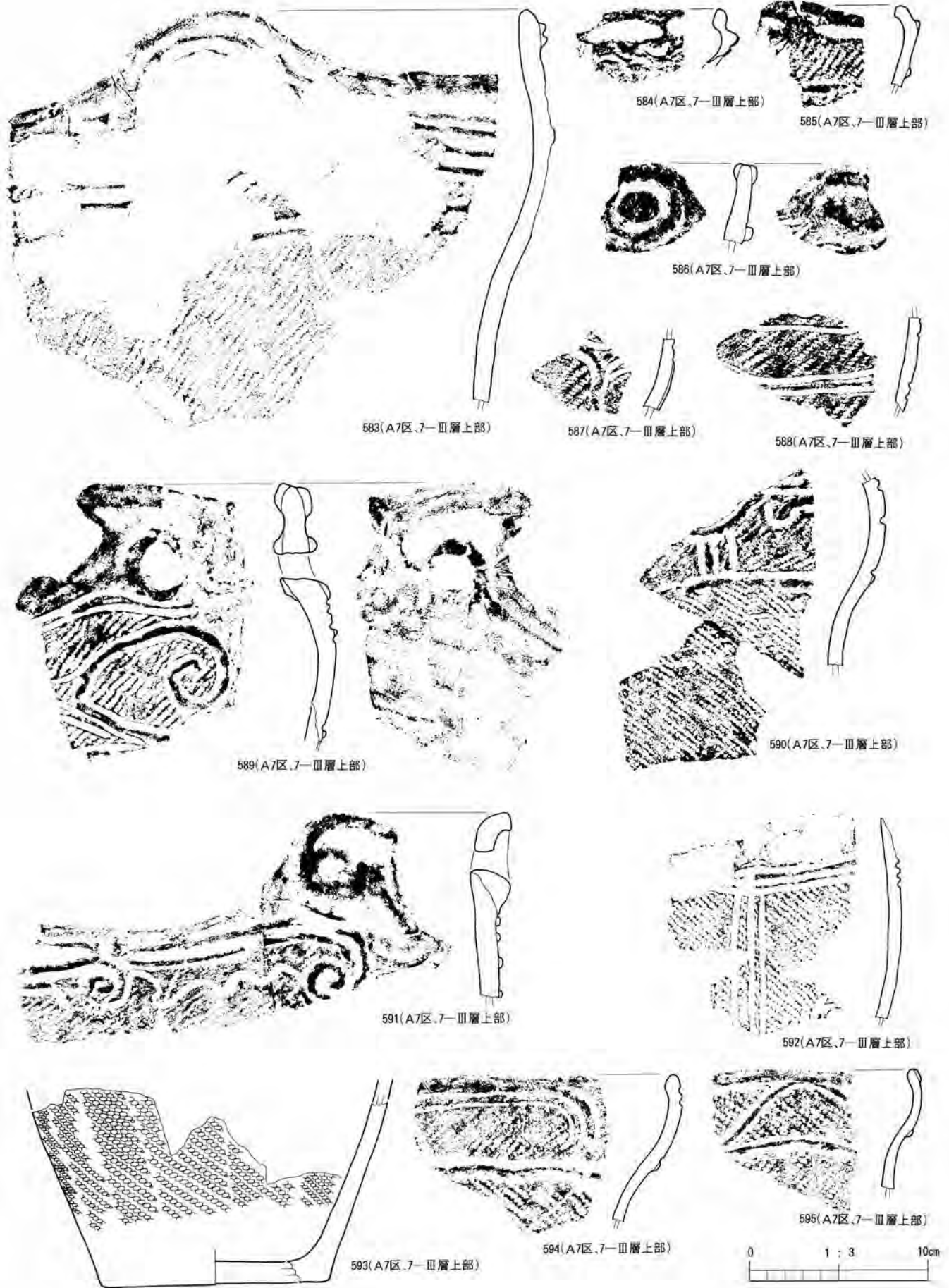


第36図 第8次調査区出土遺物(22) 北貝塚



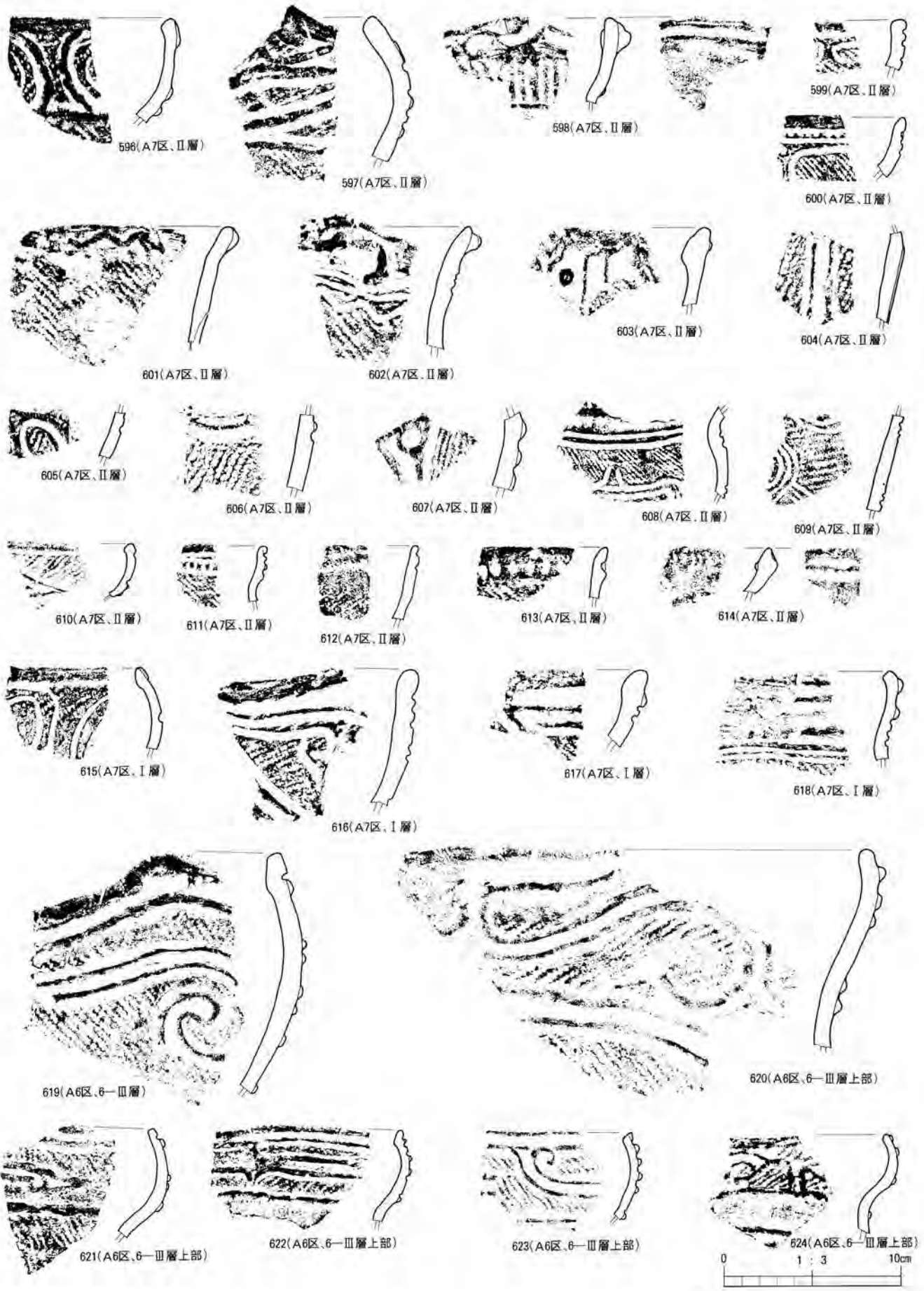
第37図 第8次調査区出土遺物(23) 北貝塚





第38図 第8次調査区出土遺物(24) 北貝塚





第39図 第8次調査区出土遺物(25) 北貝塚

**B類** (537～547, 551～569, 572～579)

いずれも破片であり、本来A類とすべきものを含んでいる可能性がある。

537～540はキャリパー形深鉢であり、沈線を伴う隆起線により区画文等を施す。

558～566, 576 は原体圧痕により縦位の刻目を施すものを一括した。

567, 568は隆起線上に円形の連続刺突文を施すものである。

上記以外のもの (532, 533, 580～582)

532, 533は縄文のみを施すものであり時期を特定できない。

580～582は縄文前期に伴うものであろう。

### 7-Ⅲ層上部土器 (583～595)

いずれも前述したA類に類似するものである。

583, 589～591は大形のキャリパー形深鉢であり、大波状口縁を呈する。口縁部文様帯は583, 591が横方向に、589が波状に展開するモチーフを施すが、区画文は作り出されない。

594, 595は平縁のキャリパー形深鉢で、口縁部文様帯には594が楕円形区画文を、595が波状文を施す。

I層～II層は比較的新しい時期の堆積層であり、詳述を避ける。

以上、7-Ⅲ層のA類は大木8 a式の新しい段階に伴う。また、B類は大木8 a式の古い段階に伴う。

大木8 a式の新しい段階

### A 6区出土土器

A 6区は6-Ⅲ層以下に遺物包含層が形成されており、6-Ⅲ層上部 (6-Ⅲ層を完掘していない) より比較的多くの土器を得ている。

#### 6-Ⅲ層上部出土土器 (619～656)

施文技法やモチーフから次の2つのグループに分類される。

#### A類 (619～625, 627, 628, 631, 633, 634～640, 642～644, 649～655)

619, 620, 631, 642～644は大波状口縁を呈する大形のキャリパー形深鉢である。波頂部には小渦巻文や2単位の小渦巻文を連結したもの (644) などを施す。

口縁部文様帯はいずれも隆沈線や平行沈線による横位に展開する施文が認められ、波頂下には、やや大きな渦巻文を配す。上下境界線への連結が弱く開放的な施文となる。

621～624, 649～651は平縁のキャリパー形深鉢である。いずれも隆起線や隆沈線により横方向に展開するモチーフが認められるが、やはり上下境界線との連結が弱く開放的である。

621, 624は有蕪渦巻文を伴う。

625, 638は体部に強い膨らみを有する深鉢である。

625は4単位の波頂を持つ大波状口縁を呈する。口縁部文様帯は波頂部の円文とこれらを連絡する隆沈線から成る。頸部文様帯は上部が無文帯、下部が横位の隆沈線と平行沈線がめぐる。体部文様帯は平行沈線により大渦巻文や有蕪渦巻文等を施すが、多の文様要素との連絡が無く

開放的である。

634～635は口縁部の外傾する深鉢で、いずれも大波状口縁となり、波頂部に渦巻文を施す。

634は頸部文様帯に沈線により波状文を施し、体部文様帯には懸垂文等を施す。

636は頸部を無文帯とし、体部文様帯には懸垂文等を施す。

627は浅鉢である。口縁部文様帯に調整された隆起線により楕円形区画文と有棘渦巻文を施す。

628, 656は鉢形土器である。628は口縁部から三角形に垂下するモチーフが認められるが棘状文の変化したものであろう。656は口縁部文様帯に横位の沈線のみを施す。

#### B類 (626, 629, 632, 641, 645～658)

632, 641, 646は大波状口縁を呈する大形のキャリパー形深鉢である。

641, 646は波頂部にC字形の貼付文と円孔が伴う。口縁部文様帯には、沈線を伴う隆起線により波状に展開するモチーフが認められる。

626, 647, 648は平縁のキャリパー形深鉢である。626, 647は口縁部文様帯に平行沈線により波状に展開するモチーフを施し、波頭部等には小渦巻文が伴う。

629, 654は浅鉢である。口縁部文様帯には隆起線による楕円形区画文を施し、体部には沈線による施文が認められる。

654は原体圧痕により施文される。

I層～II層は比較的新しい時期の堆積層であり詳述を避ける。

**大木8b-1式** 以上、6-III層上部のA類は大木8b式の古い段階(大木8b-1式)に伴う。また、B類は大木8a式の新しい段階に伴う。

#### B4区出土土器

B4区もBIII層以下に遺物包含層が形成されていた。また、BII層は多の調査区と異なる堆積層が認められた。

#### BIII層出土土器 (703～711)

703は平縁のキャリパー形深鉢である。口縁部文様帯には、平行沈線による波状に展開するモチーフが認められるが、端部を反転させ区画文を作成する。

**大木8a式** 704は体部に沈線による施文が認められる。これらは、大木8a式に伴う。

705～706, 708～710は原体圧痕により施文されるものである。

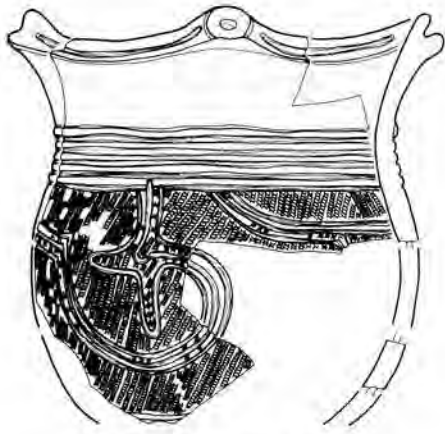
705は口縁部文様帯に横位3条の原体圧痕文を施し、大木7b式に伴う。

他のものはモチーフが不明であるが、大木7b式～大木8a式に伴う。

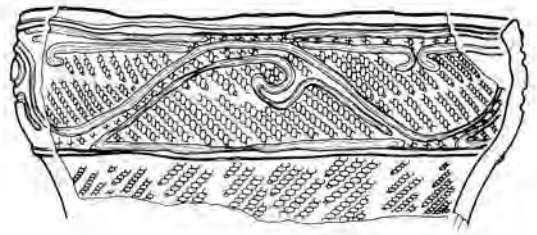
711は口縁部の内湾する深鉢であるが、体部に縄文のみを施す。

#### BII層出土土器 (719, 721～723)

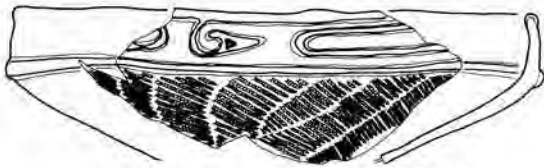
719は隆起線と沈線により施文される。721は隆起線上に刻目を有するものである。722は胎土に植物繊維を含むものである。723は沈線により鋸歯状文(?)や渦巻文を施す。



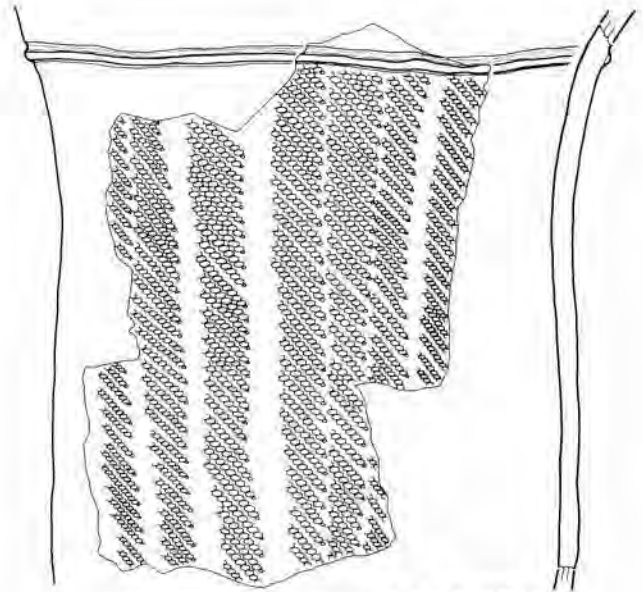
625(A6区.6-Ⅲ層上部)



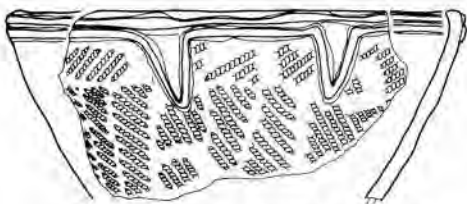
626(A6区.6-Ⅲ層上部)



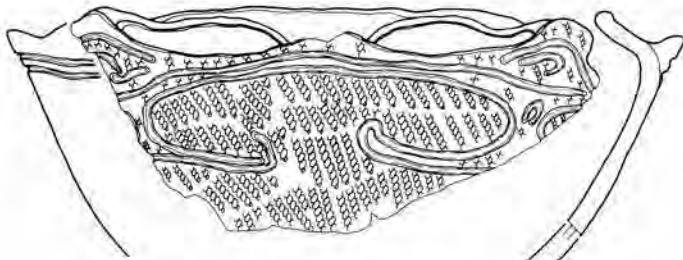
627(A6区.6-Ⅲ層上部)



630(A6区.6-Ⅲ層上部)



628(A6区.6-Ⅲ層上部)



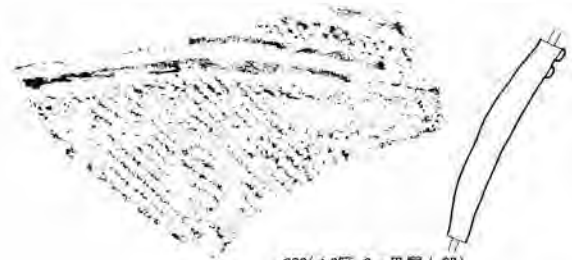
629(A6区.6-Ⅲ層上部)



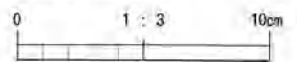
631(A6区.6-Ⅲ層上部)



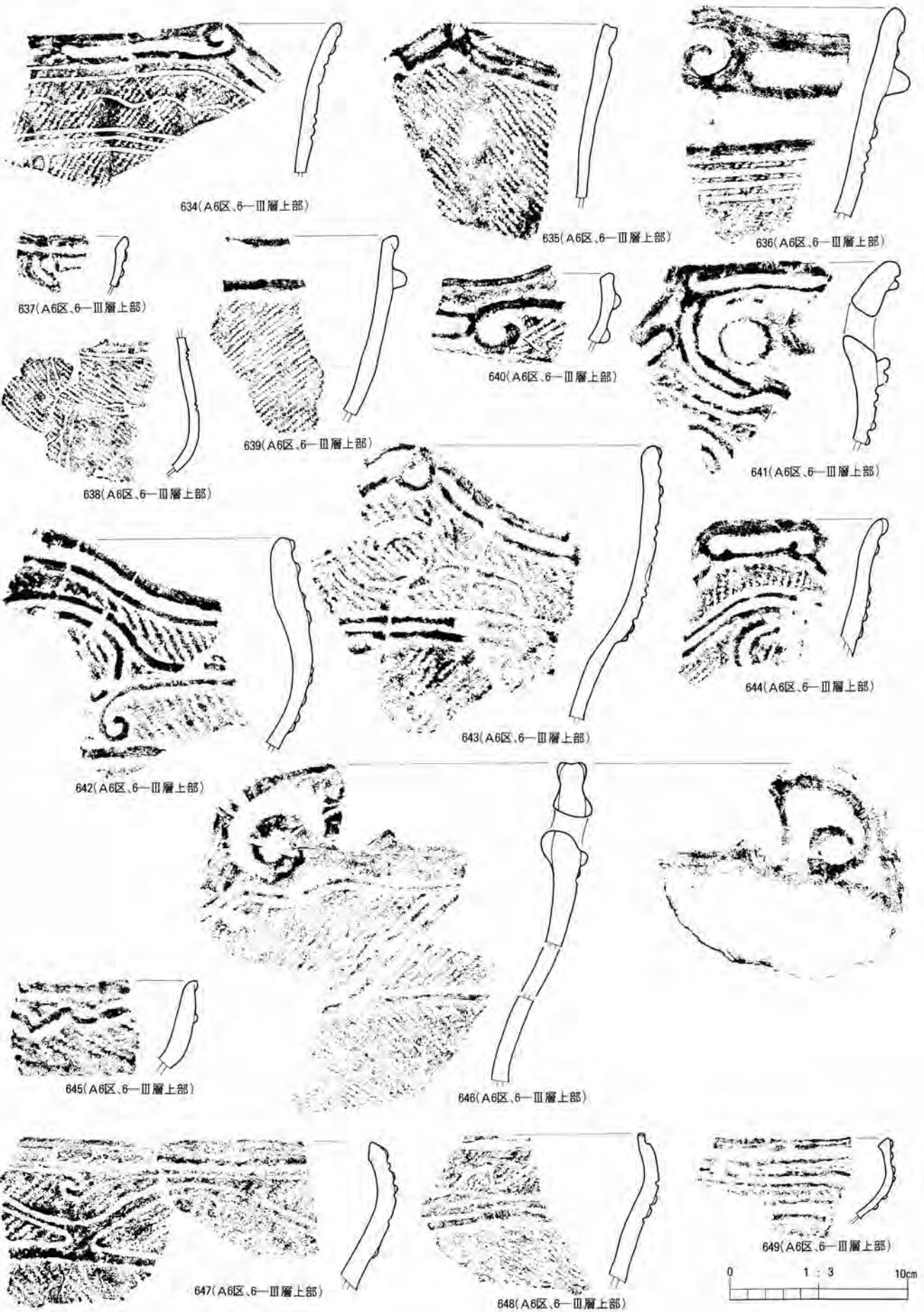
632(A6区.6-Ⅲ層上部)



633(A6区.6-Ⅲ層上部)







第41図 第8次調査区出土遺物(27) 北貝塚





第42図 第8次調査区出土遺物(28) 北貝塚



第43図 第8次調査区出土遺物(29) 北貝塚



第44図 第8次調査区出土遺物(30) 北貝塚、東包含層

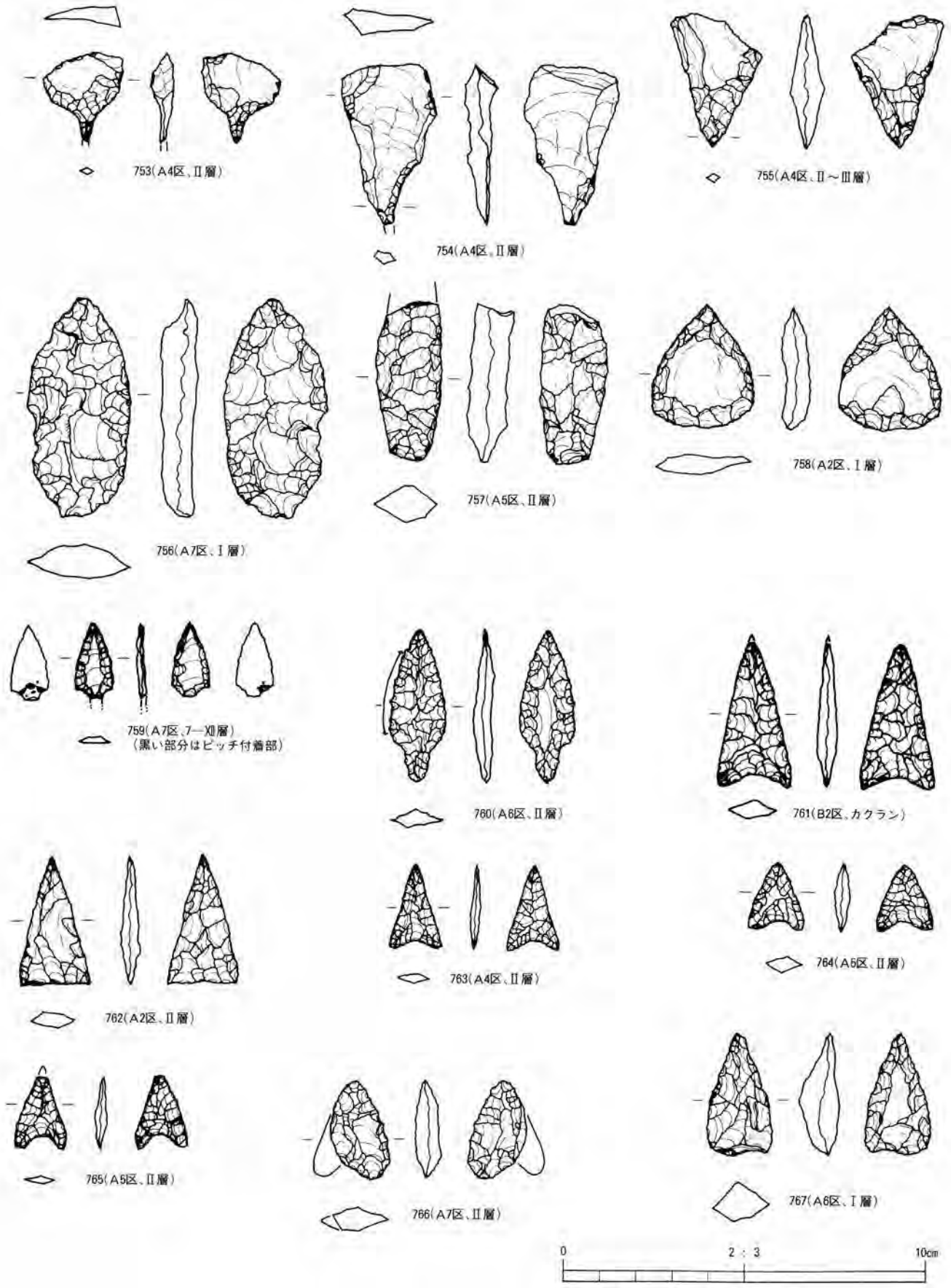
BⅡ～Ⅲ層、BⅠ層出土土器は詳述を避ける。

#### 石器（第45図～第50図）

北貝塚から出土した石器は大半がⅠ層～Ⅱ層などの遺物包含層以外の層から出土しているので一括して説明する。

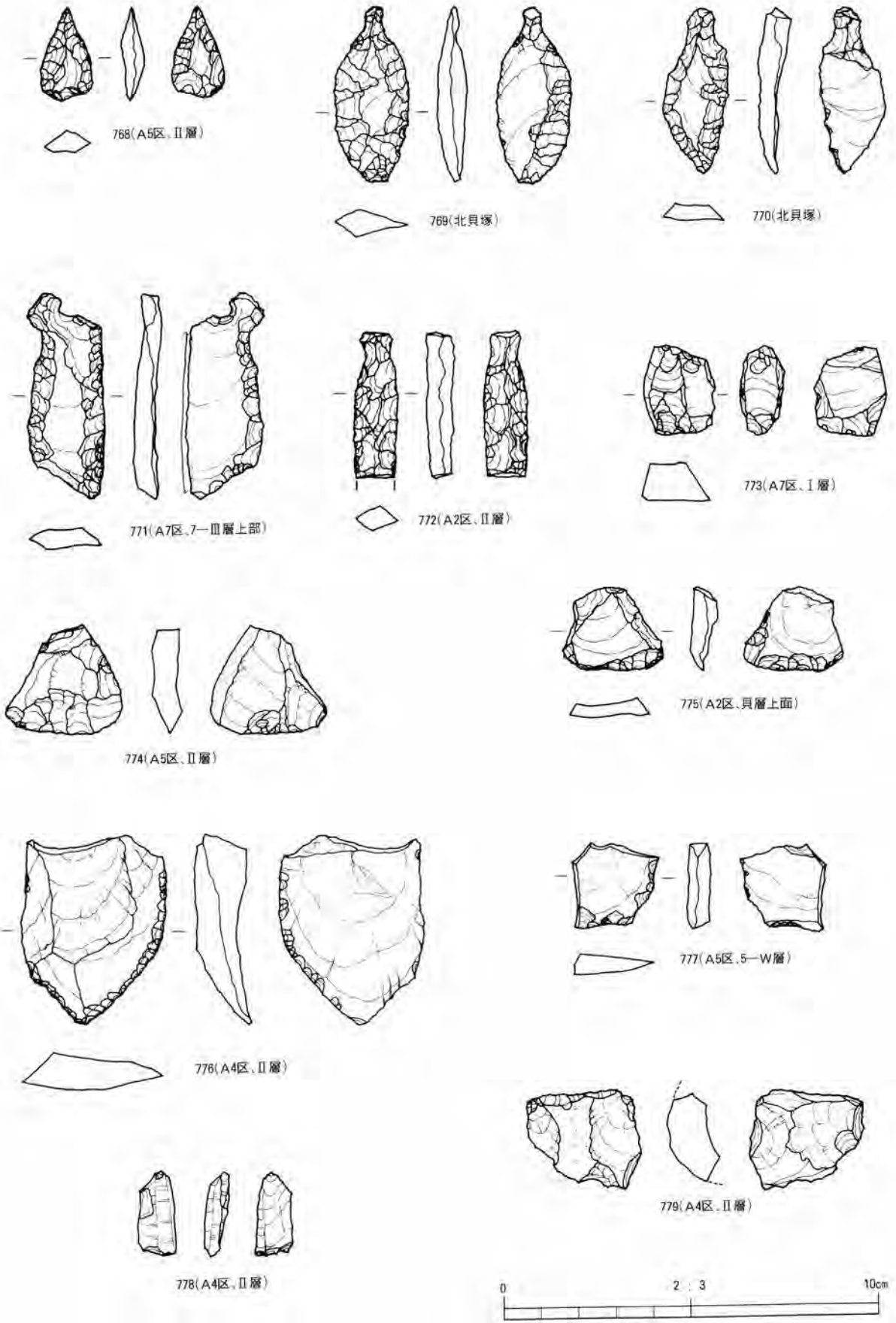
- 石錐 753～755石錐である。753は比較的定形的なもので、基部と機能部を明瞭に作り分けている。754, 755は不定形剥片を素材とし、側縁部から先端部にかけて調整し、先端部を機能部としている。
- 石槍 756～758は石槍である。756は木の葉形を呈するもので、757は柳葉形を呈するものの基部である。758は大略三角形を呈し、各辺に膨らみを有する。
- 石鏃 759～768は石鏃である。759, 760は有柄である。759の基部にはアスファルト状の付着物が認められる。  
761～768は無柄で、761～766が凹基、767が平基、768が凸基である。いずれも三角形を基調とする。
- 石匙 769～772は縦形石匙であるが、形態は一様でない。側縁部を機能部とするようである。
- ピエス・エスキューイ 773はピエス・エスキューイである。やや肉厚であるが上下両方向からの加撃により剥離している。
- 搔器 774, 775は不定形剥片を素材とする搔器で、下辺部に鈍い角度の刃部を持つ。
- 削器 776, 777は不定形剥片を素材とする削器で、側縁部に鋭い角度の刃部を持つ。
- 水晶 778は断面六角形の水晶の先端部を打撃し剥離させた後に、下端に小剥離を施すものである。
- 黒耀石 779は黒耀石であり、正面に自然面を残す。推定される原石の直径は3～4 cm程であるが、こうしたものを母岩として剥片を得ていたものと思われる。
- 磨製石斧 794～798は磨製石斧である。794, 795, 797は比較的緻密な石材を用い、良く研磨されるものである。いずれも欠損後の剥離が認められる。  
796, 798は、やや粗い石材を用いるもので、全面に成形時の敲打痕が認められる。
- 打製石斧 799, 800は打製石斧である。800は比較的定形的なもので、背面に大きく自然面を残し、側縁部から先端部にかけて片刃の刃部を有する。先端部には使用時のものと思われる敲打痕が伴う。  
799は扁平円礫の3側縁を調整し両刃の刃部を作出す。
- 敲打磨石 801～805は敲打磨石である。801, 802, 805は断面三角形の自然礫の側縁を機能磨面とする。804は扁平な自然礫を使用するもので、機能磨面に隣接して調整磨面が伴う。
- 敲石 806～811敲石である。806は、やや厚みのある縦長の礫を使用するもので、ほぼ全面にわたり敲打痕が認められるが、特に側縁部が中心となるようである。  
808は下端部を使用するものである。  
他のものは、扁平円礫の周縁を使用する。
- 凹石 812, 813は凹石である。813は良く使い込まれており擂鉢状の深い使用痕を有する。812は使用痕がやや浅く散漫であり、別器種かもしれない。
- 石皿 814～816, 818, 819は石皿である。いずれも欠損しているが、明瞭な縁を有するものは無い。



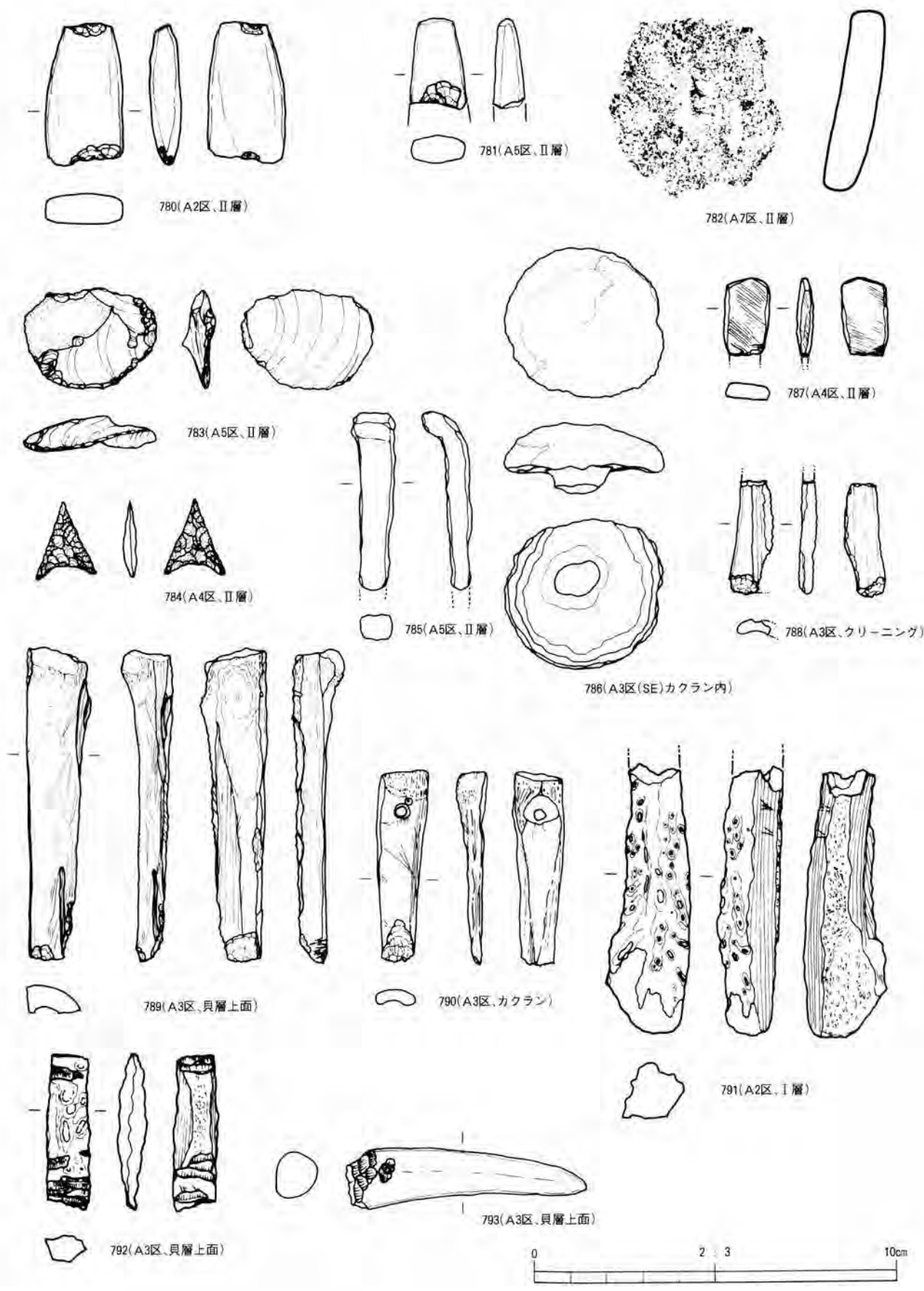


第45図 第8次調査区出土遺物(31) 北貝塚

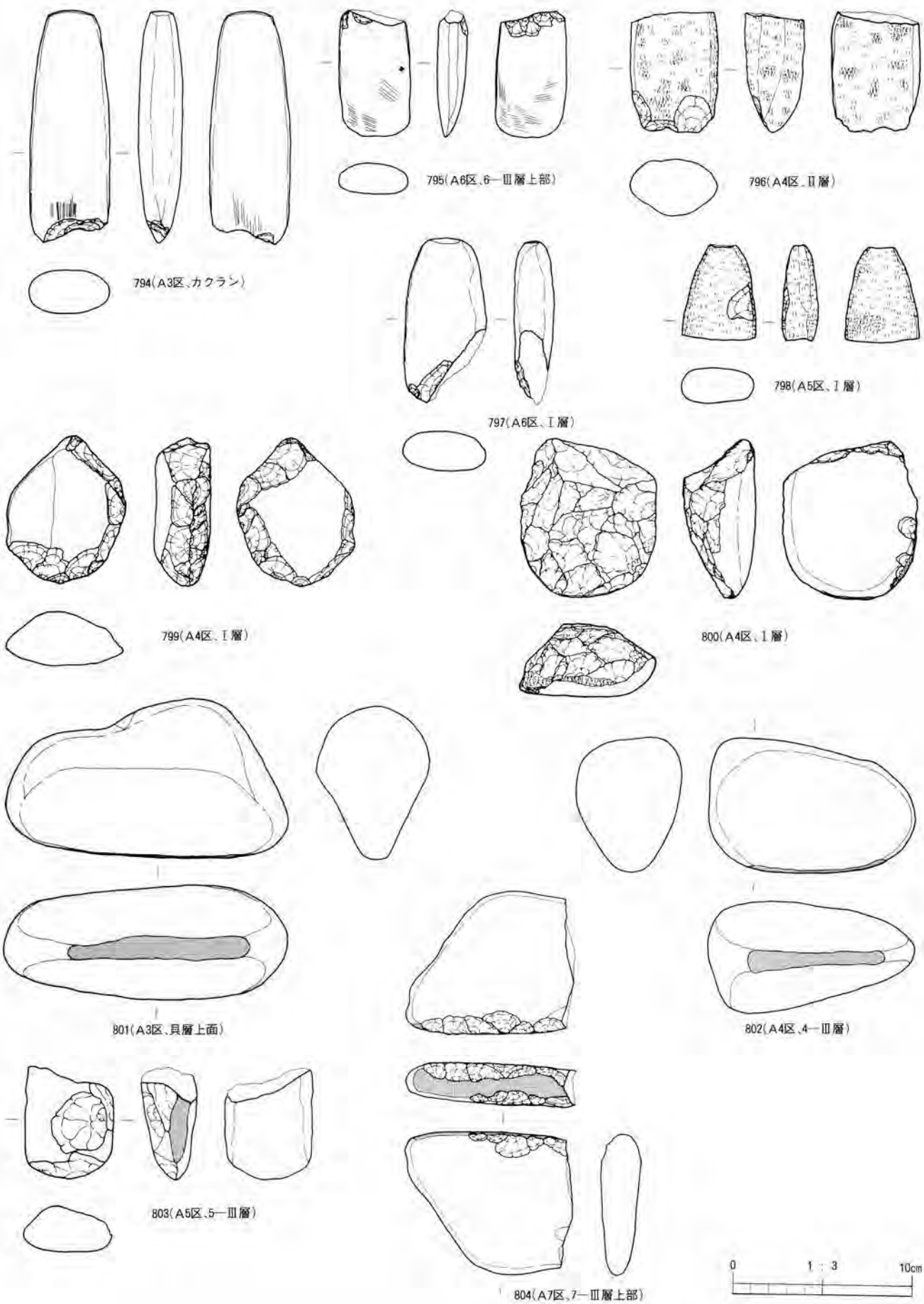




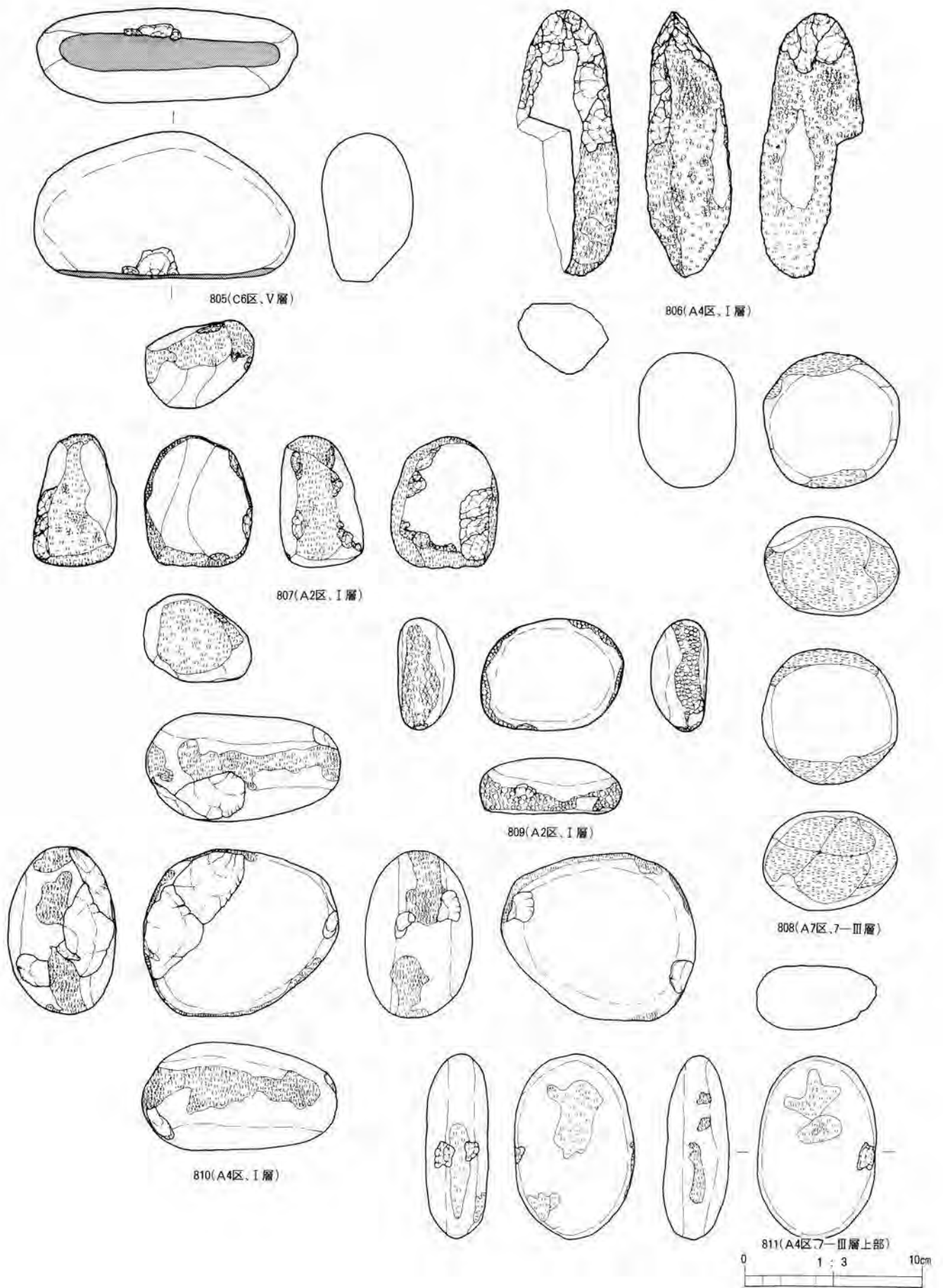
第46図 第8次調査区出土遺物(32) 北貝塚



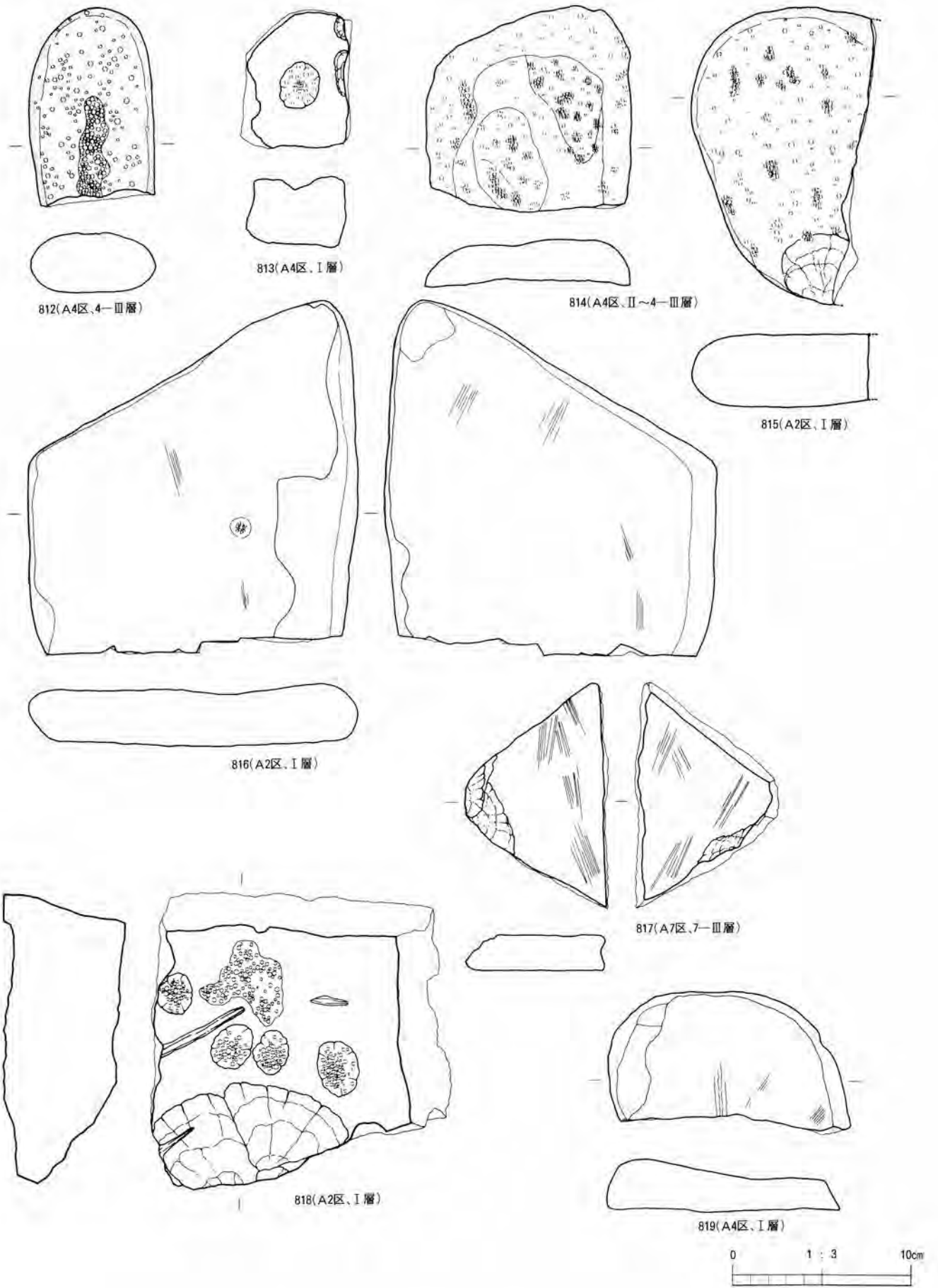
第47図 第8次調査区出土遺物(33) 北貝塚



第48図 第8次調査区出土遺物(34) 北貝塚



第49図 第8次調査区出土遺物(35) 北貝塚、東包含層



第50図 第8次調査区出土遺物(36) 北貝塚



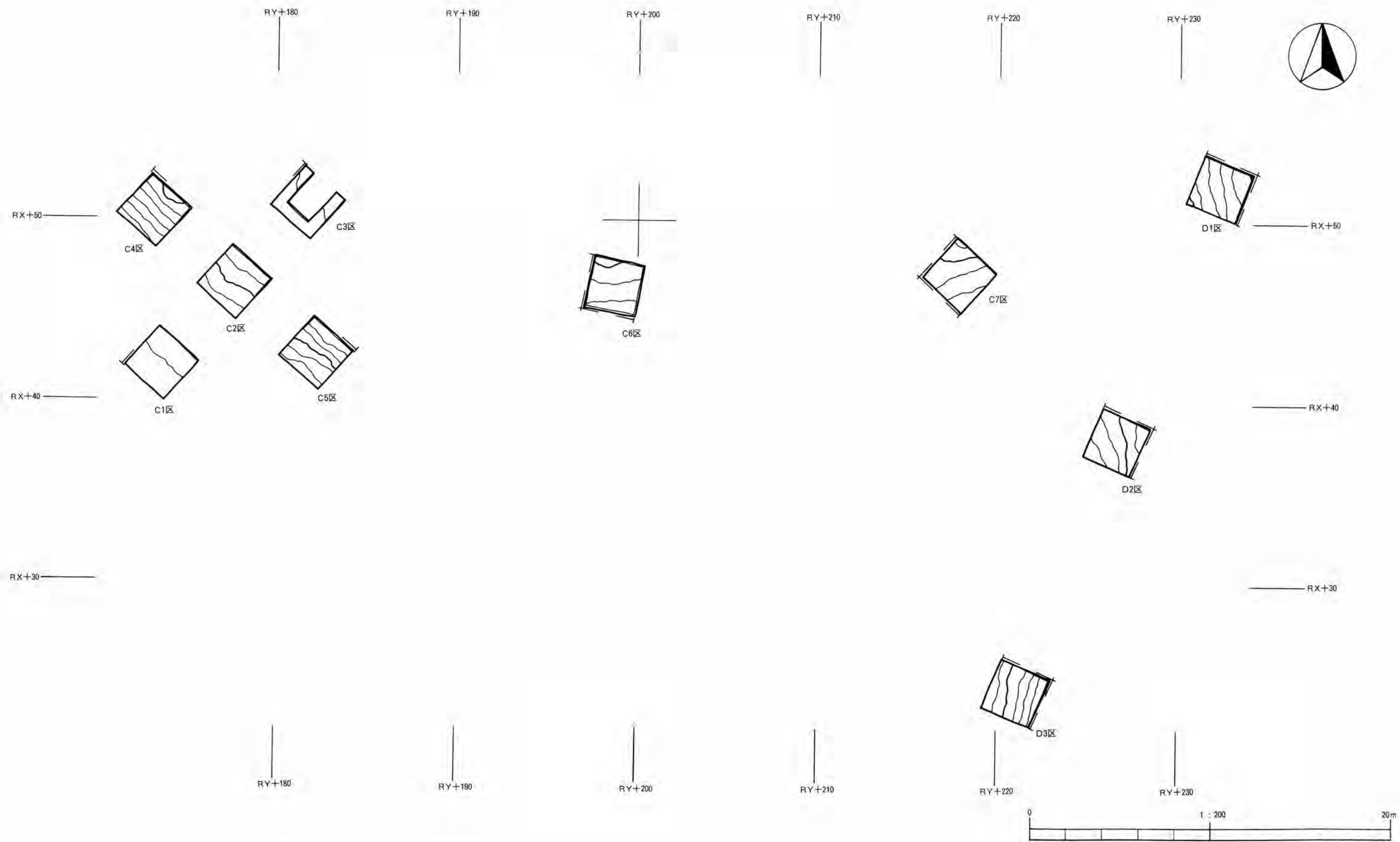


第2表 北貝塚出土魚類集計表

骨種	アサギ科		アサギ科		アサギ科		アサギ科		アサギ科		アサギ科		アサギ科		アサギ科		アサギ科		アサギ科		アサギ科	
	第一腰椎	第二腰椎	第三腰椎	第四腰椎	第五腰椎	第六腰椎	第七腰椎	第八腰椎	第九腰椎	第十腰椎	第十一腰椎	第十二腰椎	第十三腰椎	第十四腰椎	第十五腰椎	第十六腰椎	第十七腰椎	第十八腰椎	第十九腰椎	第二十腰椎	第二十一腰椎	第二十二腰椎
第一腰椎																						
第二腰椎																						
第三腰椎																						
第四腰椎																						
第五腰椎																						
第六腰椎																						
第七腰椎																						
第八腰椎																						
第九腰椎																						
第十腰椎																						
第十一腰椎																						
第十二腰椎																						
第十三腰椎																						
第十四腰椎																						
第十五腰椎																						
第十六腰椎																						
第十七腰椎																						
第十八腰椎																						
第十九腰椎																						
第二十腰椎																						
第二十一腰椎																						
第二十二腰椎																						

第3表 北貝塚出土爬虫類・哺乳類集計表

骨種	哺乳類		爬虫類		哺乳類		爬虫類		哺乳類		爬虫類		哺乳類		爬虫類		哺乳類		爬虫類		哺乳類	
	第一腰椎	第二腰椎	第三腰椎	第四腰椎	第五腰椎	第六腰椎	第七腰椎	第八腰椎	第九腰椎	第十腰椎	第十一腰椎	第十二腰椎	第十三腰椎	第十四腰椎	第十五腰椎	第十六腰椎	第十七腰椎	第十八腰椎	第十九腰椎	第二十腰椎	第二十一腰椎	第二十二腰椎
第一腰椎																						
第二腰椎																						
第三腰椎																						
第四腰椎																						
第五腰椎																						
第六腰椎																						
第七腰椎																						
第八腰椎																						
第九腰椎																						
第十腰椎																						
第十一腰椎																						
第十二腰椎																						
第十三腰椎																						
第十四腰椎																						
第十五腰椎																						
第十六腰椎																						
第十七腰椎																						
第十八腰椎																						
第十九腰椎																						
第二十腰椎																						
第二十一腰椎																						
第二十二腰椎																						



第51図 東包含層調査区設定図



(5) 台地東部（東包含層）

(a) 基本層序

最も堆積層の厚いC 6区では、6層の堆積層を確認している。

I層は表土層で、褐色シルト質土を基本土とし、やや明るい褐色土塊を含む。ややわらかくしまりがない。

II層は、褐色シルト質土を基本土とし、上層にやや明るい褐色シルト質土を層状に含むほか、暗褐色土塊を含む。ややわらかく、ややしまりがない。

III層は、黒褐色シルト質土を基本土とし、暗褐色土塊などをやや多く含む。ややわらかく、ややしまりがない。炭化物粒を少量含む。

IV層は3層に細分される。IV a層、IV c層は、暗褐色シルト質土を基本土とし、褐色土塊などを含む。IV a層は、固さ、しまりともに中程度で、IV c層より明るい。IV c層はややわらかく、ややしまりがない。

IV b層は、黄褐色シルト層で層位面にやや凹凸がある。固さ、しまりともに中程度である。

(b) 検出された遺構・遺物

この地点での検出遺構は無い。C 6区付近に遺物包含層が形成されており、土器片が少量出土している。他の調査区では表土等から少量の土器片が出土している。

出土遺物（第44図・第49図）

C 4区出土土器（730～734）

730, 731, 733, 734は隆沈線等により施文されるもので、大木8 b式に伴う。

大木8 b式

732は口唇部と口縁部隆起線上に円形の連続刺突が伴うもので、大木2式～大木3式に伴う。

C 5区出土土器（735～737）

いずれも地文のみであるが、縄文前期に伴うものである。

縄文前期

C 6区出土土器（738～752）

V層出土土器（738～742）

いずれも地文のみであり、胎土に植物繊維を含む。739, 741, 742は組縄縄文を地文とするものである。738, 740は単節斜縄文を地文とする。これらはいずれも縄文前期前葉に伴う。

縄文前期前葉

IV層出土土器（743, 748）

743は胎土に植物繊維を含むもので、結束する羽状縄文を地文とし、前期前葉に伴う。

縄文前期前葉

748は横位の沈線と、縦位の羽状縄文を施す。縄文中期初頭に伴うものか。

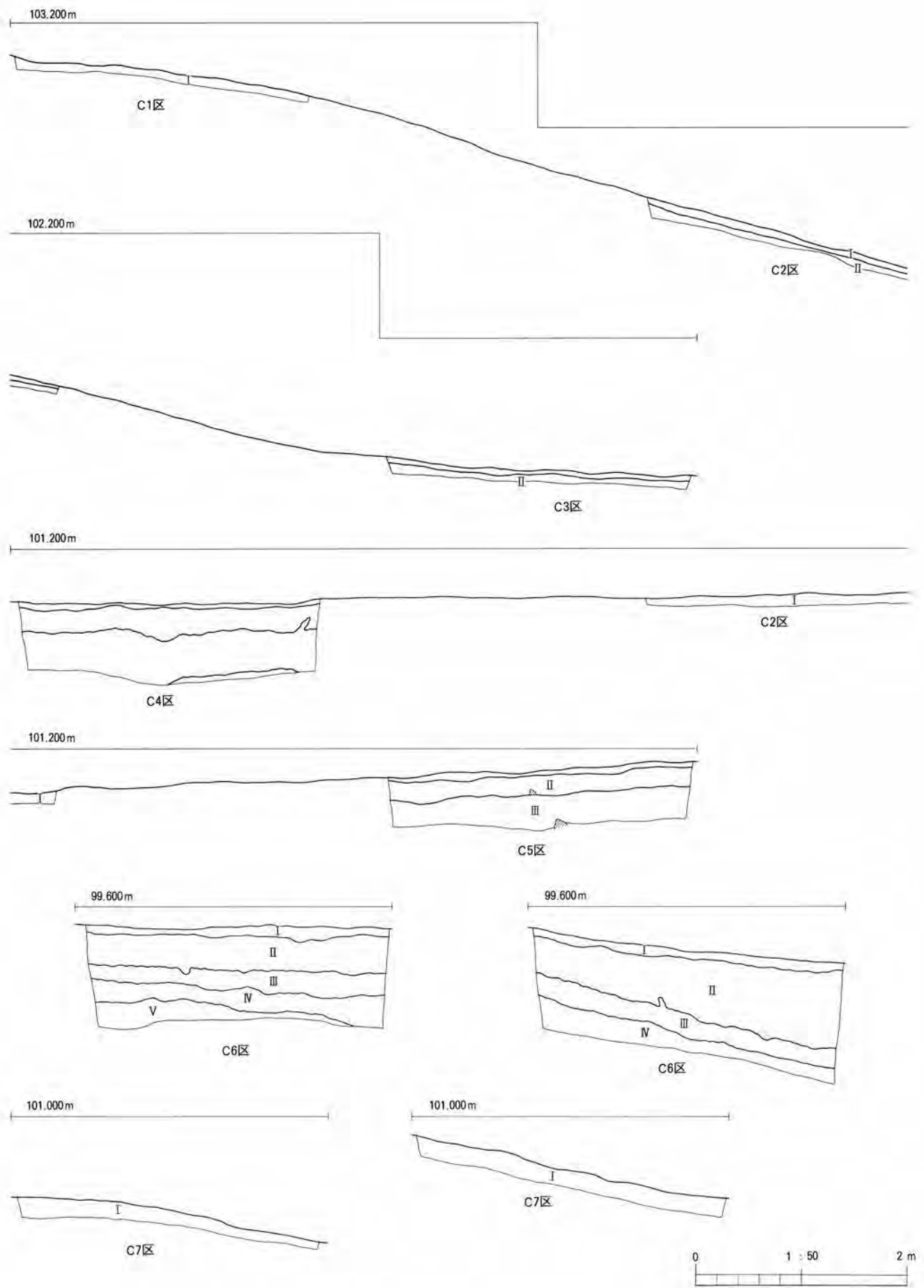
III層出土土器（744～747, 749～752）

744, 745, 752, は隆沈線により施文されるもので、大木8 b式に伴う。

大木8 b式

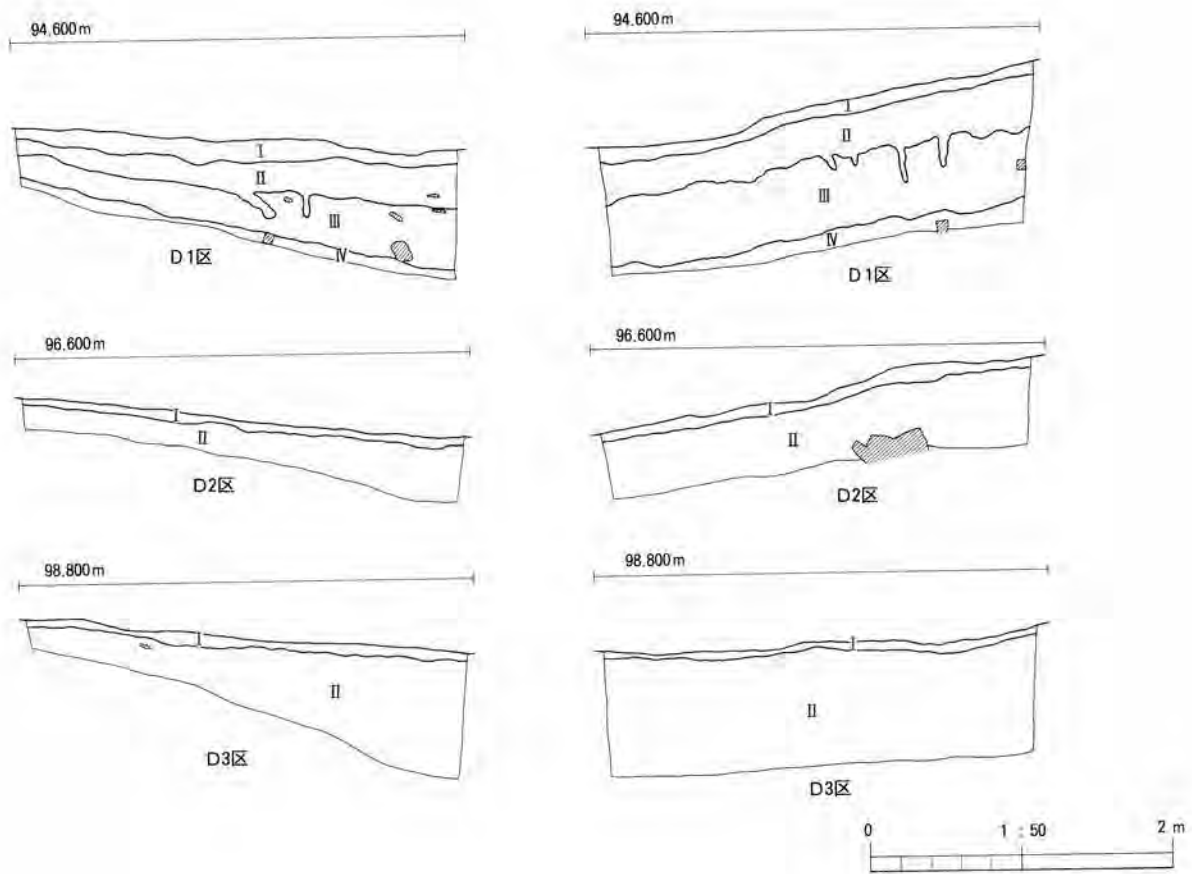
749は方形を呈する口縁部波頂の破片で、円孔が穿たれる。大木7 b式に伴うものか。





第52図 東包含層土層断面図(1)

746, 747は口縁部に隆起線を貼付けるもので、縄文前期に伴うものか。  
 750, 751は地文のみであるが、胎土に植物繊維を含み、縄文前期前葉に伴う。



第53図 東包含層土層断面図(2)

### Ⅲ 調査のまとめ

#### 早稲栃Ⅱ遺跡第3次調査

第1次、第2次調査によると、早稲栃Ⅱ遺跡は縄文時代中期の集落跡で、これに近世以降(?)の遺構が複合する遺跡である。

今回の調査区は、遺跡の南端部に相当することから、検出された遺構数は極めて少なく、わずかに縄文時代と思われる土塘跡1基と小ピット3基、および時期、性格が不明な竪穴状の遺構1基である。

これまでの調査を総合しても、本遺跡の実体は未だに不明のままであり、今後の調査資料の蓄積が望まれる。

#### 崎山貝塚第8次調査

今年度の調査で、ほぼ崎山貝塚の主要な地点の調査が終了したことになるが、残されたのは遺跡を取囲む低湿地のみとなった。来年度にこの地点での調査を実施することとしたい。

既に、前年度の概報にて崎山貝塚の概要を記したので、今年度の調査で判明したことを、各地点毎に補足したい。

##### <西集落>

今回の調査にて、環濠の西縁のプランがほぼ確定した。また、これまでの所見とやや異り、竪穴住居跡(特に大型住居跡)が密集して、重複する地点がみられた。

また、精査を実施した第14号竪穴住居跡は、前年度に精査した第12号竪穴住居跡同様に主軸方向が遺跡の中央を向いており、計画的な集落跡の構成が伺える。

##### <北貝塚>

貝層自体の精査は実施しなかったために、層厚や範囲等については来年度ボーリング調査にて補足したい。

貝層に隣接するA6区、A7区からややまとまって大木8a式～大木8b式の土器が、層位的に出土しており、該期の土器変遷を探るうえでひとつの指標となる成果を得ることができた。

##### <東包含層>

これまで全く手つかずの地点にて、小規模ではあるが遺物包含層を確認できた。

特にC6区では遺物の出土量は少ないものの、縄文前期の遺物包含層が形成されており、南貝塚との関係を検討する必要がある。

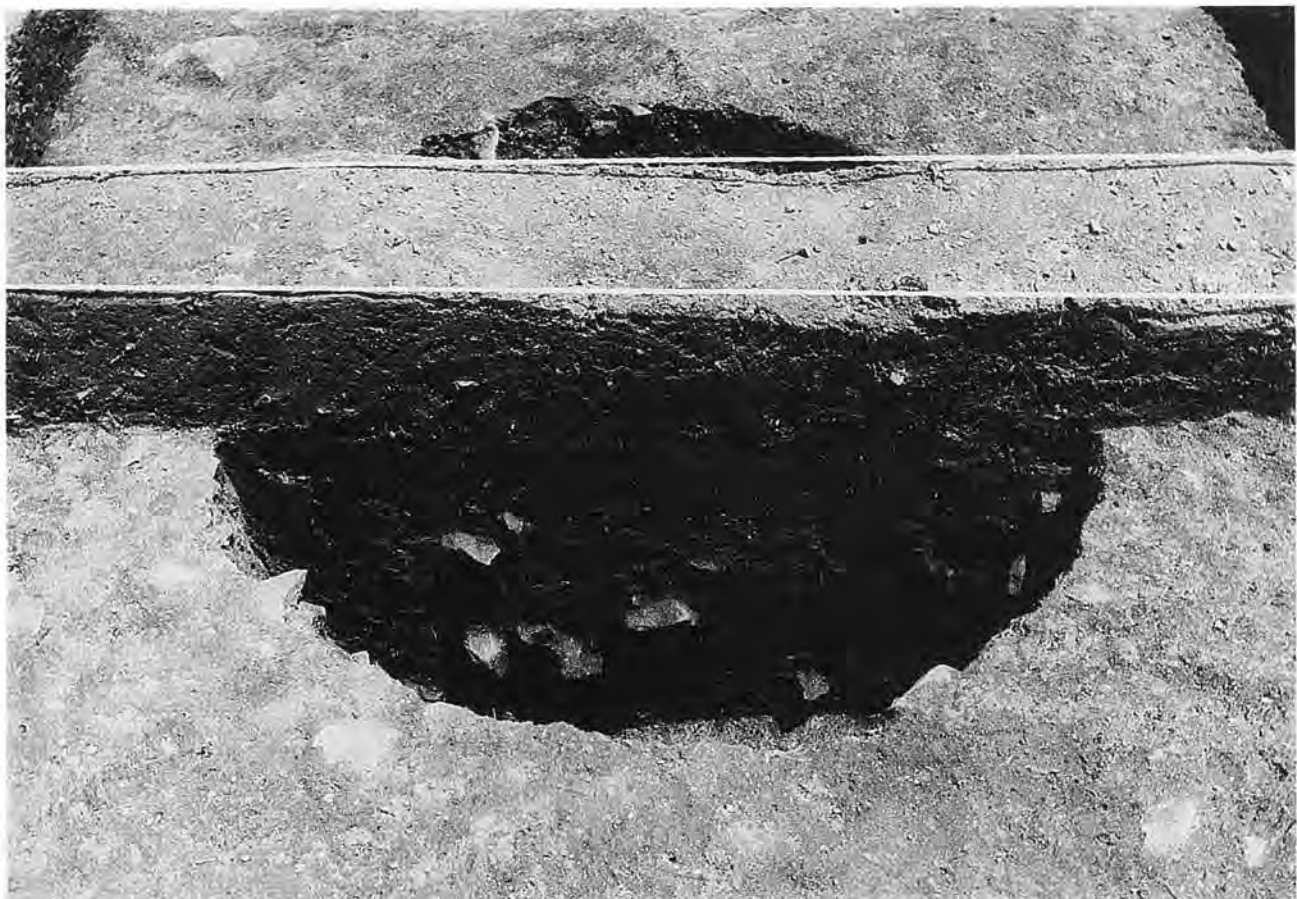
# 写 真 图 版







早稲枋Ⅱ遺跡第3次調査区全景



第4号土壙跡埋土堆積状況

## 第2図版



崎山貝塚第8次調査N15EWトレンチ、第14号竪穴住居跡等検出状況



第14号竪穴住居跡検出状況





第14号竖穴住居跡埋土堆積状況



第14号竖穴住居跡埋土堆積状況

## 第4図版



第14号竖穴住居跡遺物出土状況



第14号竖穴住居跡炉検出状況





N12W48-1号土壌跡埋土堆積状況



S15EW トレンチ



# 第6図版



S15W30-1号配石遺構検出状況



第18号竪穴住居跡検出状況



第17号竖穴住居跡検出状況



第15号・第16号竖穴住居跡検出状況



# 第 8 図版



北貝塚調査区



北貝塚調査区



貝層検出状況 (A 2区)



貝層検出状況 (B 2区)



# 第10図版



A 7区遺物包含層（Ⅷ層上面）



A 7区遺物包含層（Ⅷ層上面）





A 7区遺物出土状況（7-Ⅲ層）



A 7区遺物出土状況（7-Ⅳ層）

# 第12図版



A 7区遺物出土状況（7-Ⅳ層）



A 7区遺物出土状況（7-Ⅲ層）





A 7区遺物出土状況（7-Ⅲ層）



A 6区作業風景

# 第14図版



東包含層調査区



東包含層調査区





東包含層調査区



東包含層作業風景



# 第16図版



C 5 区礫群検出状況



C 6 区土層堆積状況



東包含層調査区



東包含層調査区

# 第18図版



1 (A7区・7-XVII層)



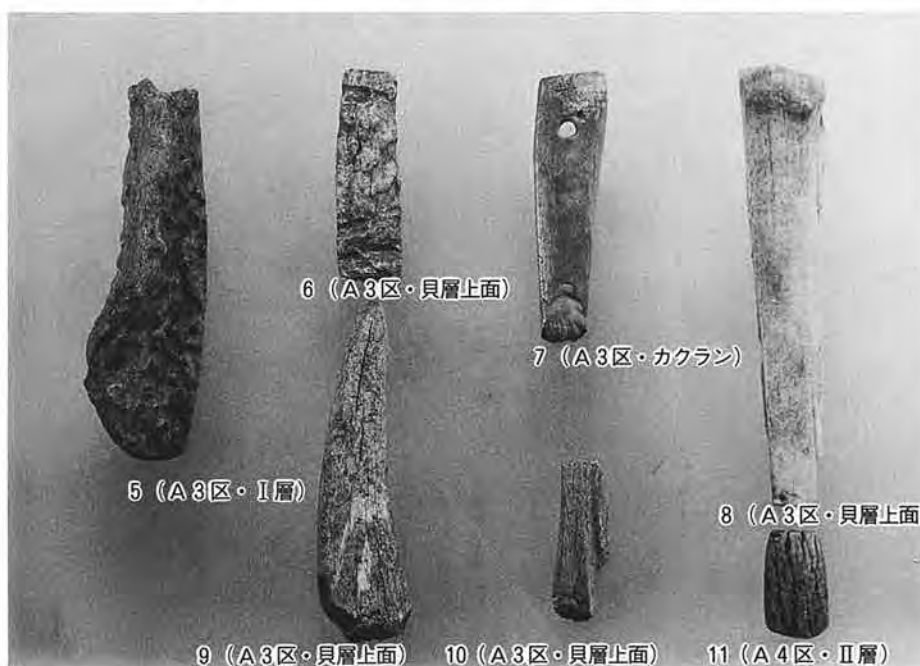
2 (A7区・7-III層)



3 (A7区・7-III層)



4 (A7区・7-XII層)



5 (A3区・I層)

6 (A3区・貝層上面)

7 (A3区・カクラン)

8 (A3区・貝層上面)

9 (A3区・貝層上面)

10 (A3区・貝層上面)

11 (A4区・II層)

## 北貝塚出土遺物



宮古市埋蔵文化財調査報告書40

# 崎山遺跡群Ⅶ

—平成4年度発掘調査概報—

1993.3

発行 岩手県宮古市教育委員会  
宮古市新川町2番1号

印刷 株式会社文化印刷  
岩手県宮古市大通2丁目5の2